

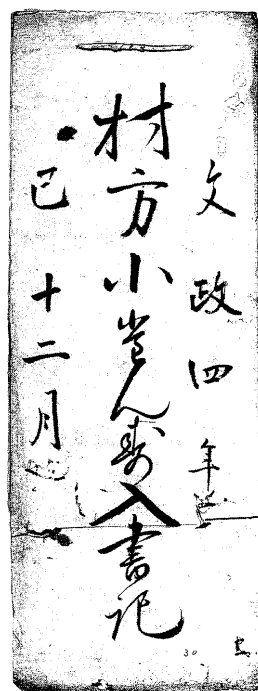
平成五年三月

史料館所藏史料目錄 第五十八集

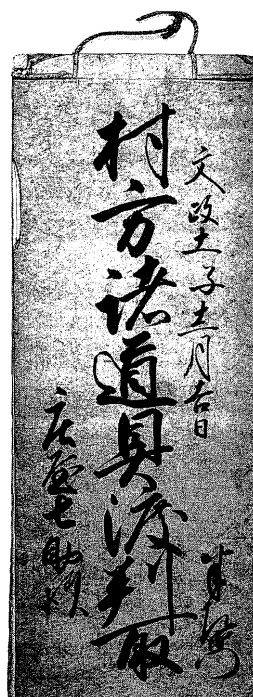
尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目錄

史料館

尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目錄



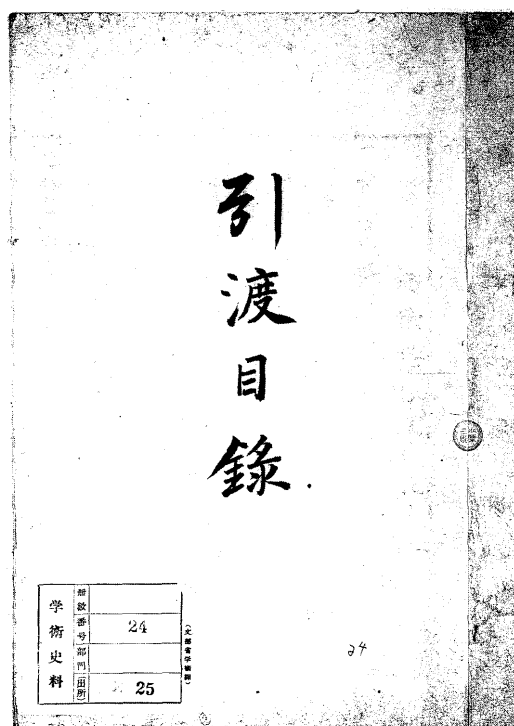
文政4年 村方小たんす入書記（史料番号159）

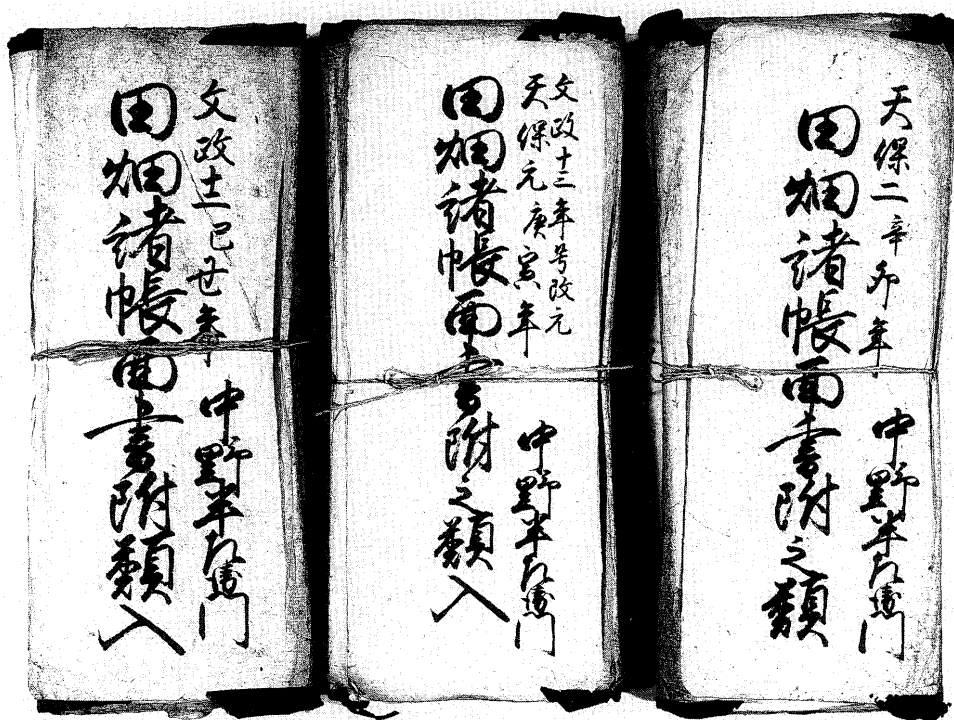


文政11年 村方諸道具渡判取（史料番号165）

諸帳簿引渡目録			
戸籍帳簿		新引渡分	
内		増加分	
戸籍臺帳	十六年四月	六冊	
戸籍願局	十六年四月	五冊	十六年四月
出生退却留簿	十六年四月	四冊	十六年四月
印鑑簿	新舊	二冊	
出入寄留簿	新舊	二冊	
送納證及受納證	十六年四月	二冊	十六年四月
種々資料類	新舊	二冊	十六年四月
			十七年
			三冊
			三冊
			計

明治18年（戸長文書・機器類引渡目録）（史料番号153）





文政12年，天保元・2年 田畑諸帳面書附之類入（史料番号755・756・757）



文政2年 三河国宝飯郡下佐脇村新田検地帳（史料番号768）

凡 例

一 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第五十八集として「尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目録」を収めた。

一 史料は、文書群を発生させた組織・集団のあり方に留意し、史料群の持つ内部構造を復元する形で、大・中・小の項目を立てて分類配列した。また、必要に応じて小項目をさらに分類し、分類したことを○印を付して示した。

一 小項目中の文書の配列は、原則として年代順にした。ただし、一括史料で、分割して掲載することが不適当な場合は、史料の順に従ったものもある。年欠文書はそれぞれの小項目の末尾に配列した。なお、※印は史料を目録上に重出させたことを示す。また、○印は、袋などにバラバラに入っている状態のものを示す場合と、時代などに留意されることなく綴られた文書を目録上で配列しなおした場合に附した。

一 史料目録の記載欄はほぼ、(一) 表題、(二) 作成者または差出人、(三) 宛名、(四) 作成年月日、(五) 形態、(六) 数量、(七) 整理番号の順である。ただし、奥書きなどのある複合文書で右の(二)～(四)を単一に表現できないものについては、／(斜線)のあとに複合部分の記載内容を付記した。

一 表題は現表題のあるものはそれを探り、ないものについては内容・類型に応じて仮表題を付与し、(一)を付した。また、表題のみでは内容が判別できないものについても、簡単な内容摘記をおこない、同様に(一)を付した。なお、適宜「」内に内容や紙質、史料の保存状態などを注記した。

一 作成年月日は和年号で示し、干支だけの場合はそれを採録した。推定年次については、(一)を付した。

一 史料の形態は、冊子型史料では、半(半紙堅折判)、美(美濃堅折判)、横長半(半紙横折判)、横長美(美濃横折判)、横半半折(半紙横折紙半折判)、横半列(半紙横折紙列帖装)、などの略称によって原書の大略を示した。こうした表記の詳細については、『史料館所蔵史料目録』第五十集の解題を参照されたい。書付型史料は、堅紙、折紙、堅切紙、横切紙、小切紙、堅継紙、横切継紙などと表記した。また、絵図類は、縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。

一 史料の利用にあたっては、解題を参照されたい。

目次

口絵

凡例

尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目録

解題

一 中埜半左衛門家文書の伝来と整理の方針

二 半田村・中埜半左衛門家の特徴と文書群の構造

三 庄屋・御用関係

四 役場・公職関係

五 相続講

六 中埜家

七 下佐脇新田

目次

目録

頁

一

三

三

四

八

一六

一九

二〇

二九

四七

四九

尾張国
知多郡
半田村中埜半左衛門家文書目錄

尾張国 知多郡 半田村 中埜半左衛門家文書目録 目次

尾張国 知多郡 半田村 中埜半左衛門家文書目録 目次	
庄屋・御用関係	頁 49
半田村庄屋	49
領主、庄屋引継、村政、年貢・諸役、 村方取替金、百姓扶助、御用記録綴	
成岩村庄屋	54
元治元年年貢取立勘定、慶応元年年貢 取立勘定	
岩滑村庄屋・取締役	56
領主、名寄下調、村政、年貢・諸役 争論立会人	58
尾張藩木綿世話方	59
貧民木綿織立産業世話人、木綿世話方 肝煎職	
尾張藩海岸守裁許役	60
役場・公職関係	60
副区長・戸長・村議	60
副区長、戸長、村議、公私記録綴	
教育・通信	64
学校・教育、郵便局	
相 続 講	
相続講議定・解散	65
講運営	65
利息金配分渡帳・利息配分名前帳、相 続講金勘定帳、金銭出入帳・大福帳、 講金借用、講金返済、講員困窮取計い	
中 埜 家	70
家 政	70
領主、役所、年貢・納税・所得金高届、 日録・日記、幕末政治情勢、当座帳、 金銀出入帳、職人日雇、飯米出納帳、 年内入用帳・家内入用帳、家普請、信 仰・学芸、医療、音信	
資産勘定	75
年内勘定帳、年内収支決算帳、資産差 引勘定帳、年内勘定総計下調帳、年内 収支決算下調帳、資産歳計調査帳	
醸造業	78
酒造、豊啓店(味噌)、大松屋、丸三 麦酒	
浜島木綿店	
店勘定目録、店図面、休業	79
半田倉庫	80
起業・定款、社屋建設、営業、保険、 金 融	81
金銭貸借、講、質株	
地主経営(全体)	83
田畑諸帳面書付、年貢米目録帳、田畑 掟米帳、掟米収入帳、納米勘査帳、掟 米勘査帳、掟米出納帳、掟米売却簿、 所持地・掟米、掟米・年貢米差引勘定 帳	
耕宅地譲渡・地主経営(半田村)	90
田畑譲渡証文、宅地譲渡証文、共有地 売買証文、中埜又左衛門売却地建物図 面	
耕宅地譲渡・地主経営(成岩村)	94
田畑譲渡証文、北新居田畑譲渡証文・ 新開金受取、北新居新田地掟米取立帳、 田畑実測・耕地收穫地価帳など	
耕宅地譲渡・地主経営(岩滑村)	98

田畑書入金子借用証文、田畑譲渡証文、井領米の地譲渡証文、過高譲渡証文、岩滑村田畑絵図面、掟米取立帳、越高三分米免除証文、田畑高反別書上帳、替地証文	106
耕宅地譲渡・地主経営（乙川村）	106
田畑譲渡証文、塩浜譲渡証文、乙川村控地絵図面、田畑小作掟米取立帳、塩浜掟帳、年貢目録覚帳・年貢目録井小作掟米帳、控地高反別掟米・收穫地価取調、作人扶助	112
地主経営（諸所）	112
小栗新田、大塚村、前浜新田、大府村、日長村、山方新田など	
下佐脇新田	114
領主	114
救恤、返金講、利金上納、御借金上納通	114
村	114
村況、村絵図、用水・普請	115
土地	115
開発、検地、新屋敷地帰属争論	116
年貢・諸役	116
立毛内見合附帳、年貢免定、御收納通、	
年貢勘定請取	119
戸口	119
宗門人別改帳・宗門人別差引帳、五人組帳、人別村送り状、帳入・帳外願	122
地租改正	122
地引、地券証・地価調	123
中埜家	123
掟米、下佐脇村、土地台帳、耕地売渡証券	124
立本新田	124
検見控、年貢米目録帳	

尾張国 中埜半左衛門家文書目録

知多郡
半田村

(文書記号 25E)

庄屋・御用関係

半田村庄屋

領主

(半田村庄屋役申付書) 半田村半左衛門宛 午
(弘化三年) 四月 小切紙 一通 六〇八四

(半田村庄屋役病氣退役許可) 半田村庄屋半左衛
門宛 申(嘉永元年) 四月 小切紙 一通 六〇八五

(半田村庄屋役申付書) 半田村中野半左衛門宛
子(元治元年力) 四月 小切紙 一通 六〇八二

○

覚(陣屋当分調達金請取覚) 成田久右衛門 中野
半左衛門宛 酉(文政八年力) 一二月一八日 小切紙 一通 七三一一

覚(陣屋調達金請取覚) 成田久右衛門 中野半左
衛門宛 戌(文政九年力) 一二月 小切紙 一通 七三一二

覚(鳴海陣屋調達金請取覚) 中野半六 中野半左
衛門宛 亥(文政一〇年力) 七月 小切紙 一通 七三二三

覚(鳴海陣屋調達金請取覚) 中野半六 中野半左
衛門宛 (文政一一年力) 小切紙 一通 七三三四

條々 天保二年八月 堅繼紙 一通 六〇九

御添書(條々添書) 郡奉行所 西尾領庄屋・組頭・
惣百姓宛 天保二年八月 包紙入 堅繼紙 一通 六二〇

(地方勘定所より割当御預り金三千両請取証文な
ど写) 鳴海村下郷善右衛門・半田村中野半左衛門・
小栗三郎兵衛 鳴海御陣屋宛 慶応元年一〇月 巻紙 一通 六二三

戊辰・巳巳・庚午・辛未御布令御用帖及諸願達
留 中野半左衛門 (明治元一四年) 半 一冊 一五一一

今般下々難洪御筋相省候書付 辰(明治元年) 小切紙 一通 一五一二

庄屋引継

村方小たんす入書記(小筆箭入庄屋文書引継目
録) 先役吉蔵 庄屋半左衛門宛 文政四年一二月 横長半 一冊 一五九

御年貢仕立目録(村扣) 庄屋半左衛門、南組新太
郎 北組庄助 文政五年正月 横長半 一冊 五九

差引勘定惣目録帳(庄屋交代ニ付村方諸経費年
貢未進など惣勘定) 吉蔵 庄屋半左衛門宛 文
政五年五月 横長半 一冊 一五九

覚(南納屋出普請入用・塩浜人足など差引勘定
覚) 治右衛門代忠右衛門 辰(文政三年力) 一〇月 横切繼紙 一通 一五二

文政元寅ヨリ卯辰巳マテ勤役中別段差引覚(庄
屋交代ニ付) 吉蔵 庄屋半左衛門宛 文政五年四
月改 横長半 一冊 一五三

越高分入組ニ付調入用取替（庄屋交代ニ付） 文化六年（一）文政五年	横長半 一冊 一五十四	御年貢勘定并差引目録 北組分庄屋控 文政五年一月	横長半 一冊 七
村方諸道具渡判取（庄屋退役ニ付庄屋管理の村方諸道具・文書引継帳） 半左衛門 庄屋七助宛 文政二年一月	横長半 一冊 一五	御未進取替帳（成岩村御越高未進分共） 北組 文政六年二月	横長半 一綴（二冊） 三
川堀請取帳（川堀利用船より金錢請取） 川支配 中 文化三年正月（一）二年	横長半 一冊 一四	御年貢目録并指引帳 南組新太郎 庄屋半左衛門宛 文政六年二月	横長半 一冊 三
実要帳（村方諸事書留） 中野半左衛門 文政六年正月	横長半 一冊 二七	已・午・未御年貢差引目録（辻八兵衛分） 北組庄助 辻八兵衛宛（文政六年）	横長半 一冊 六十一
善助屋敷替地売買差引目録（善助不如意ニ而家屋敷売払替地取得ニ付） 北組庄助 文政一年五月	横長半 一冊 一七	已御年貢目録 北組庄助 辻八兵衛 已（文政六年） 二月	横長半 一冊 六十二
※為取替證文之事（村方諸掛割賦取極証文） 上半田村庄屋万治郎、組頭富藏・茂平、頭百姓堀本六郎左衛門代新左衛門、彦三郎外三名 下半田村庄屋組頭頭百姓中宛 丑二月	半 一冊 四六・二一	未御年貢目録差引并申年三役麦金差引目録 北組庄助 庄屋半左衛門宛 文政七年一〇月	横長半 一冊 六
（村方耕地要覽）（井料米・名寄帳、證文引・年数引・掟下ケ引など書上） （半田村）（幕末）	横長半 一冊 四四	御年貢米差引目録 北組庄助 庄屋半左衛門宛 文政七年二月	横長半 一冊 三十一
引起井料米（書上帳）	横長半 一冊 四三	塩浜并船造場納屋敷・本田浜田并上高共成岩畑分目録 北組庄助 庄屋半左衛門宛 文政七年極月	横長半 一冊 六三・二
差出申約定之事（祭礼酒贈答ニ付仲組西組爭論取扱約定証） 頭百姓惣代徳左衛門外六名 御村方御当役衆中宛	縦紙 三通 三六・二	御年貢米差引目録 北組庄助 中野半左衛門宛 文政八年二月	横長半 一冊 六
年貢・諸役		北組西御年貢差引帳 北組庄助 文政八年二月	横長半 一冊 六
越高年済寅歳未進帳（下半田村庄屋） 新兵衛控 文化二年霜月改メ	横長半 一冊 一五	御年貢差引目録 北組庄助 庄屋中野半左衛門宛 文政九年二月	横長半 一冊 七
御年貢勘定并指引目録 南組分庄屋控 文政五年一月	横長半 一冊 七	御年貢目録并指引帳 南組新太郎 庄屋中野半左衛門宛 文政九年二月	横長半 一冊 七

御年貢目録并指引帳 南新太郎組 庄屋中野半左衛門宛 文政一〇年十一月	横長半	一冊	五
御年貢差引目録 北組庄助 庄屋中野半左衛門宛 文政一〇年十一月	横長半	一冊	七
御年貢目録并指引帳 南新太郎組 庄屋中野半左衛門宛 文政一二年十一月	横長半	一冊	六
御年貢目録并指引帳 南新太郎組 庄屋中野半左衛門宛 文政一二年十一月	横長半	一冊	七
池田地理人足帳 新田元右衛門・伴蔵控 文政一〇年三月	横長半	一冊	一六
御年貢諸役銀物差引目録(文政五・一一年分) 南組新太郎控 庄屋中野半左衛門宛 天保二年一月改	横長半	一冊	五
御年貢取立諸役物盛帳 北組庄蔵 弘化三年一月	横長美	一冊	三
新御定免御書(半田村宛当子西迄一〇年定免達) 元治元年九月	包紙入 横切紙	一通	六
(成岩村酉年分麦成先納請取書) 申七月朔日	包紙入 小切紙	二通	七
1 覚(酉年分麦成先納請取) 成岩村庄屋杉本伊兵衛 半田村庄屋半左衛門宛 申七月朔日	小切紙	一通	
2 覚(酉年分麦成先納請取) 清兵衛 半田村庄屋半左衛門宛 申七月朔日	小切紙	一通	
(年貢先納并取替上納分書上) (半田村) (江戸)	横長半	一冊	四
惣勘定(村方年貢運賃米・麦成・下用など惣勘定帳) (半田村) (江戸)	横長半	一冊	四

村方取替金

覚(調達金戻り分請取并半左衛門戻り分借用証文) 半七・又左衛門・茂右衛門・久八 中野半左衛門宛 文政五年二月	堅紙	一通	六
覚(先庄屋吉蔵代手形金請取証文) 中野半六庄屋半左衛門宛 文政八年三月二日	包紙入 堅切紙	一通	六
覚(村方取替元金請取証文) 中野半六庄屋半左衛門宛 文政九年四月四日	堅切紙	一通	六
覚(村方入用取替金元利勘定覚) 中野半六御庄屋中野半左衛門宛 子(文政一一年)七月	横切紙	一通	六
御年貢御切手米代金くり替割帳(頭百姓立合二而) 村役人(半田北組) 文政一一年二月	横長美	一冊	四
村方借金覚(化政期)	横長半	一冊	四
永代金銀差引帳(天保一三年・慶応三年庄屋附渡金引継勘定帳) 下半田村方庄屋中野半六 天保一三年極月	横長美	一冊	二
村方くり替金之事(先々庄屋庄助遺候村方くり替金内密皆済ニ付取扱書) 半左衛門(久八・藤吉・権吉・竹右衛門)宛 弘化五年四月	堅紙	一通	六
金子請取申一札(庄屋中未進年貢立替金今般請取ニ付御札) 小栗太郎兵衛 中野半左衛門・中野又左衛門宛 嘉永五年三月	包紙入 堅紙	一通	七
預り金貸目録(村方庄屋役永代金) 明治六年	横長半折	一冊	三
百姓扶助			
覚(庄屋役中給米之内利殖のため預り証文) 鳴海陣屋 半田村庄屋半左衛門宛 文政七年二月	堅切紙	一通	六

覚（米切手金三〇兩貸付方取計のため預り証文） 鳴海陣屋 半田村庄屋半左衛門宛 文政七年二月	堅切紙 一通 七二	1 為取替證文之事（村方諸掛割賦取極証文） 上半田村庄屋万治郎、組頭富藏・茂平、頭百姓堀本六郎左衛門代新左衛門、孝三郎外三名、下半田村庄屋組頭頭百姓中宛 丑一二月	一冊
覚（庄屋役中給米之内利殖のため預り証文写） 鳴海陣屋 半田村庄屋半左衛門宛 文政七年二月	堅紙 一通 六九〇五	2 （御家中儉約ニ付寺社方質素心得方達） 寺社奉行所 一二月	一冊
覚（米切手金三〇兩貸付方取計のため預り証文写） 鳴海陣屋 半田村庄屋半左衛門宛 文政七年一二月	堅紙 一通 六九〇六	3 明治五年民費明細書 下佐脇新田 明治七年六月	一冊
覚（名主・頭百姓出金の小百姓年貢扶助元金五〇兩預り証文） 鳴海陣屋 半田村庄屋中野半左衛門宛 文政八年一二月	堅紙 一綴（一通） 六八八	4 （掛金高書上） 文化一三年一月二八日	一冊
覚（小百姓年貢扶助ニ付庄屋諸色売払代七〇兩預り証文） 鳴海陣屋 半田村庄屋中野半左衛門宛 文政八年一二月	堅紙 一綴（一通） 六八八	5 （御側量御用人足・船人足高届） 師崎村庄屋源兵衛・同次助 亥一〇月	一綴
（小百姓年貢扶助元金預リニ付達書）（鳴海陣屋） 半田村庄屋中野半左衛門宛（文政八年）一二月	横切継紙 一通 七三	6 （御上下様方木錢など受取書上） 亀崎村	一冊
（小百姓年貢扶助元金預リニ付達書）（鳴海陣屋） 半田村庄屋中野半左衛門宛（文政八年）一二月	横切継紙 一通 六九〇一	7 覚（御測量船并水主費用書上） 中須村庄屋与左衛門・須佐村庄屋源三郎・片名村庄屋甚藏・大井村庄屋市右衛門 亥一〇月	一冊
（小百姓年貢扶助元金預リニ付達書写）（鳴海陣屋） 半田村庄屋中野半左衛門宛（文政八年）一二月	横切継紙 一通 六九〇二	8 （掛金高書上） 文化一二年二月	一冊
覚（小百姓年貢扶助ニ付庄屋諸色売払代七〇兩預り証文写） 鳴海陣屋 文政八年一二月	堅紙 一通 六九〇三	9 覚（下佐脇新田并下佐脇村高反別・掟米勘定帳）（江戸）	一冊
覚（名主・頭百姓出金小百姓年貢扶助元金五〇兩預り証文写） 鳴海陣屋 半田村庄屋中野半左衛門	堅紙 一通 六九〇四	10 覚（海岸測量御用経費書上） 師崎村庄屋源兵衛・治助 亥一〇月	一冊
御用記録綴	半（九冊・一綴） 四六二	（御用記録綴）（幕末）	半（二冊・一綴） 四六三
（御用記録綴）（文化一二年・明治七年）		1 乍恐御請旁御達奉申上候御事（貧民木綿産業世話方地所綿買入方申合書）（慶応二年）	一冊
		2 乍恐御達奉申上候御事（長尾村庄屋三井伝左衛門不正出入）（文久元年）	一通

- 3 乍恐御達奉申上候御事（海岸測量御用雜費
割合方緒川村成岩村不納得一件落着ニ付届）
半田村中野半左衛門・小栗三郎兵衛 鳴海陣
屋宛 子二月 一通
- 4 乍恐奉願上候御事（公儀海岸測量御用雜用
金東浦一円惣割合願）知多郡師崎村庄屋源兵
衛・治助 鳴海陣屋宛 亥一二月 一通
- 5 内々御伺旁々御願奉申上候御事（岩滑村庄
屋兵左衛門組百姓三〇軒本郷組へ組入望み
ニ付申上書）中野半左衛門・小栗三郎左衛門
午（安政五年）六月 一冊
- 6 乍恐御内々奉願上候御事（岩滑村庄新田本
郷へ組込み一件出入）兵左衛門・藤八・十助
午六日 一冊
- 7 乍恐以書付を奉申上候御事（海岸測量御用
雜費村々割合方成岩村不埒ニ付嚴重御理解
願并添付書）中野半左衛門・小栗三郎兵衛
鳴海陣屋宛 亥一二月 一冊
- 8 乍恐奉歎願候御事（長尾村庄屋三井伝左衛
門年貢諸懸不正ニ付吟味願）知多郡長尾村市
場組惣代儀助外八名 鳴海陣屋宛 文久元年一二
月 一冊
- 9 乍恐奉差上濟口證文之御事（市場組庄屋不
正出入り濟口証文）知多郡長尾村市場組百姓
惣代平兵衛外八名・相手方三井伝左衛門 鳴海陣
屋宛 文久二年四月 一冊
- 10 乍恐以書付御頼奉申上候（去ル八月大風雨
破損所見分願）下佐脇新田地主半左衛門 地
方役所宛 酉一〇月 一冊
- 11 乍恐以書付奉願上候（出奔人忤久次郎帳外
願）下佐脇新田地主伝次郎・地主代勘三郎
地方役所宛 子一二月七日 一冊

- 12 乍恐奉願上候御事（未納干鰯代金田地ニ而請
取ニ付赤坂役所へ添翰願）半田村半左衛門
鳴海役所宛・半田村庄屋新兵衛 酉七月 一冊
- 13 （御用諸事書留）（江戸） 一冊
- 14 乍恐奉御歎願上候御事（困窮ニ付未進年貢
立替金借願）乙川村百姓 下半田村中野半
左衛門宛 天保一二年一二月 一冊
- （御用記録綴）（文化一三年・明治八年） 一綴
半（二冊・一通） 四六八
- 1 （太政官布告など写）中野一郎写（慶応四
年）四月二八日 一冊
- 2 定（相統講中困窮之族出来ニ付窮家相統方
取極）（江戸） 一冊
- 3 定（相統講運當方取決め并講連中掛金家名
帳）文化一二年一二月 一冊
- 4 伺書（官林松下新屋敷地本村・新田帰属
伺書）三河国宝飯郡下佐脇村副戸長生田惣四郎・
同白井万次郎・新田副戸長深谷勘三郎 愛知県令
鷺尾隆聚宛 明治八年九月 一冊
- 5 村々江御仰渡され候御書之写（米価沸騰貧
民江御救米支給ニ付達書）（幕末）三月 一冊
- 6 （普請材料代金書上難型） 一冊
- 7 （成岩村無量寿寺切支丹宗門改ニ付廻文）
慶応三年六月 一冊
- 8 （相統講中困窮者救済仕法賛同之上署名願）
願主連名中 茂右衛門・六右衛門・半右衛門・
吉右衛門・次右衛門・通吉・彦藏・太郎兵衛宛
一二月七日（江戸） 一通

9 御連中江御願申入候口演書之事(相統講中困窮者救済仕法ニ付) 願主半左衛門・半七・中野半六・幸六・又左衛門・久八郎・八兵衛 午十一月(江戸)

10 口上覚(長尾村庄屋伝右衛門不正取締願)(文久二年)

11 後證一札之事(長尾村庄屋伝右衛門心得違い託証文并立合人中野半左衛門・小栗太郎兵衛届書)(文久二年)

12 (幕末情勢并村々取締方ニ付意見書) 戌(文久二年) 一一月二七日

13 口上覚(長尾村市場組庄屋年貢諸勘定不正ニ付口上書) 市場組 戌(文久二年) 二月

成岩村庄屋

元治元年年貢取立勘定

麦御年貢取立帳 南組銀作 元治元年五月	横長美	一冊	二六
麦御年貢取立帳(本帳) 北組六右衛門 元治元年五月	横長美	一冊	二四
麦御年貢取立帳(成岩畑) 南組銀作 元治元年五月	横長美	一冊	二七
麦御年貢取立帳(成岩畑) 北組六右衛門 元治元年	横長美	一冊	二五
麦御年貢下調帳 南組 元治元年五月	横長半	一冊	四七
麦御年貢下調帳 北組六右衛門 元治元年五月	横長半	一冊	四四
麦御年貢下調帳(成岩畑) 南組 元治元年五月	横長半	一冊	四五

麦御年貢下帳(成岩畑) 北組六右衛門 元治元年	横長半	一冊	四四
麦御年貢取立金銀出入帳 南組銀作 元治元年五月	横長半	一冊	五三
麦御年貢取立金銀出入帳 北組六右衛門 元治元年五月	横長半	一冊	五五
御本田御年貢物盛下調帳 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	三三
御本田御年貢物盛下帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	三三
諸新田御年貢物盛下調帳 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	三四
諸新田御年貢物盛下帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	三〇
御年貢物盛下調帳(成岩畑) 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	三三
御年貢物盛下調帳(成岩畑) 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	二九
御本田・諸新田北組江越高書拔帳 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	一八
御本田・諸新田南組江越高書拔帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	一八
入加懸リ高書拔帳 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	四四
入加懸ケ高書拔帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	三三
破免入加懸ケ高帳 南組銀作 元治元年一〇月	横長半	一冊	一八
破免入加懸ケ高帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	横長半	一冊	一五

家並船役貸地三分米宿株寺鋪〔百姓別役米書上〕 南組銀作 元治元年一〇月	橫長半	一冊	一七
家並船役敷地三分米宿株寺敷〔百姓別役米書上〕 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長半	一冊	一六
井領・新道・溝敷辰シ米書拔帳 南組銀作 元治元年一〇月	橫長半	一冊	九
井領・新道・溝敷辰シ米書拔帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長半	一冊	七
古未進・吉藏畑書拔帳 南組銀作 元治元年一〇月	橫長半	一冊	六
古未進書拔帳 北組三浦六右衛門	橫長半	一冊	四
三役銀・夏成・運賃米未進書拔帳 南組銀作 元治元年一〇月	橫長美	一冊	九
夏成・三役・運賃米未進書拔帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長美	一冊	三
御年貢取立金銀出入帳 南組銀作 元治元年一〇月	橫長半	一冊	五
御年貢取立金銀出入帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長半	一冊	五
御年貢諸役物盛取立帳 南組銀作 元治元年一〇月	橫長美	一冊	四
御年貢諸役物盛取立帳 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長美	一冊	四
貸借組差引書拔帳〔南北両組年貢米など貸借差引勘定〕 南組銀作 元治元年一〇月	橫長半	一冊	一六
貸借組差引書拔帳〔南北両組年貢米など貸借差引勘定〕 北組三浦六右衛門 元治元年一〇月	橫長半	一冊	一六

諸新田御年貢物盛下調帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二六	夏成・三役・運賃米未進書拔帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長美 一冊 二六
諸新田御年貢物盛下帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二五	御年貢取立金銀出入帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二五
御年貢物盛下調帳(成岩畑) 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二六	御年貢取立金銀出入帳 北組半右衛門 慶応元年一二月	横長半 一冊 二五
御年貢物盛下帳(成岩畑) 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二三	御年貢諸役物盛取立帳 南組銀作 慶応元年一月	横長美 一冊 四三
御本田・諸新田北組へ越高書拔帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二八	御年貢諸役物盛取立帳 北組半右衛門 慶応元年二月	横長美 一冊 三六
御本田・諸新田南組江越高書拔帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二八	貸借組差引書拔帳(南北両組年貢米など貸借差引) 南組銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二六
入加懸り高書拔帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二六	貸借組差引書拔帳(南北両組年貢米など貸借差引) 北組半右衛門 慶応元年一二月	横長半 一冊 二六
入加懸ヶ高書拔帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二五	年內下用勘定帳 莊屋中野半左衛門、組頭榊原銀作・半右衛門 慶応元年一二月	横長美 一冊 二二
家並船役貸地三分米宿株寺鋪(百姓別役米書上) 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二九	上下割合下用勘定帳 莊屋中野半左衛門、組頭榊原銀作・半右衛門 慶応元年一二月	横長美 一冊 二二
家並船役敷地三分米宿株寺敷(百姓別役米書上) 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二八	上下割合下用勘定帳 庄屋榊原孫右衛門、組頭藤藏・市左衛門 慶応元年一二月	横長美 一冊 二二
井領・新道・溝敷戻シ米書拔帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 二〇	岩滑村庄屋・取締役 領主 (岩滑村兼帶庄屋差免後見申付書) 半田村小栗三郎兵衛・中野半左衛門宛 (万延元年) 四月	
井領・新道・溝敷戻米書拔帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 一九		
古未進・吉藏畑書拔帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長半 一冊 一七		
古未進書拔帳 北組半右衛門 慶応元年一〇月	横長半 一冊 一五		
三役銀・麦成・運賃米未進書拔帳 南組榊原銀作 慶応元年一〇月	横長美 一冊 一八		

(岩滑村取締役申付書) 半田村中野半左衛門 卯
(慶応三年) 五月 小切紙 一通 六〇八三

岩滑村締役之記 慶応三年五月 半 一冊 三六八一

名寄下調 美 三冊 一

名寄下調 岩滑村東組 安政四丁巳年正月 美 三冊 一

村 政 横長美 一冊 六

村方差引帳 岩滑村庄屋半左衛門・小栗三郎左衛門 横長美 一冊 六

安政五年正月 横長美 一冊 六

村方差引帳 庄屋小栗三郎兵衛・中野半左衛門 元 横長美 一冊 六

治元年正月 横長美 一冊 六

村方差引帳(諸役・村人用など) 庄屋中野半左衛門 横長美 一冊 六

慶応元年正月 横長美 一冊 六

金錢出入帳 岩滑村庄屋小栗三郎左衛門・半左衛門 横長美 一冊 二七〇

安政五年正月 横長美 一冊 二七〇

金錢出入帳 庄屋小栗三郎左衛門・中野半左衛門 横長美 一冊 二七

元治元年正月 横長美 一冊 二七

金錢出入帳 下半田村方庄屋中野半左衛門代理兵衛 横長美 一冊 二七

慶応元年正月 横長美 一冊 二七

差入申一札之事(氏神造営金取扱故障ニ付) 榊 横長美 一通 三五五一

原長門 庄屋半左衛門宛 安政四年六月 横長美 一通 三五五一

乍恐御請旁御達申上候御事(岩滑村社人榊原長 横長美 一通 六六四

榊原長門借財(御造営用経費・二二六九両余) 横長半 一冊 四三

○ ※内々御伺旁々御願奉申上候御事(岩滑村庄屋 横長半 一冊 四六三十五

兵左衛門組百姓三〇軒本郷組へ組入望みニ付 横長半 一冊 四六三十五

申上書) 午(安政五年)六月 横長半 一冊 四六三十五

※乍恐御内々奉願上候御事(岩滑村午新田本郷 横長半 一冊 四六三十五

へ組込み一件出入) 兵左衛門・藤八・十助 午 横長半 一冊 四六三十五

(安政五年)六月 横長半 一冊 四六三十五

年貢・諸役 横長半 一通 五六

午年免定(知多郡岩滑村免定并卯起免割写) 山平太 横長半 一通 五六

夫 岩滑村庄屋・組頭・惣百姓宛 文政五年 横長半 一通 五六

○西組 横長半 一通 五六

辰年御年貢取建高吟味帳 西組 西組御庄屋宛 横長半 一通 五六

巳(安政四年)三月調 横長半 一通 五六

附・(寅年貢取替上納ニ付届) 半左衛門 半右衛 横長半 一通 五六

門宛 寅一二月 横長半 一通 五六

免割入加勘定下調 岩滑村(西組) 安政四年一 横長半 一通 五六

月 横長半 一通 五六

御年貢取立物盛下調帳 岩滑村西組 安政四年一 横長半 一通 五六

一月 横長半 一通 五六

本田定引・五ヶ年引・浜新田定引・三ヶ年引・ 横長半 一通 五六

砂塚引・当検見高揃下調(百姓一人別引分取調) 横長半 一通 五六

岩滑村西組庄屋 安政四年一二月 横長半 一通 五六

三御役銀麦未進書拔帳(二人別夫銀・伝馬・堤銀書 横長半 一通 五六

三分米・畑間水懸・古見取・鋪地・村見取池敷
取建下調(百姓一人別取調書)(岩滑村)(安政四年二月)

桶戸井領・村見取・畑間水懸戻シ米下調 (岩滑村)(安政四年二月)

已年下刈取立帳 西組 (安政四年二月)

御年貢取立諸弘調訳帳(岩滑村西組分) 西組宗兵衛 安政四年二月

御年貢取立諸役物盛帳 西組宗兵衛 安政四年二月

御年貢諸役物成取立帳 岩滑村西組組頭宗兵衛 安政五年二月

○東組

東組御高掛諸役銀集帳 岩滑村庄屋中野半左衛門・小栗三郎左衛門 安政四年改正

越高三役銀集帳 岩滑村庄屋東 安政五年二月

三役集金銀出入帳 岩滑村車組伴吉 安政五年二月

英比川切欠竣集金銀出入帳 岩滑村庄屋・東組組頭伴吉 安政五年五月

麦集金銀出入帳 岩滑村東組組頭伴吉 安政五年六月

麦御年貢取立帳 岩滑村東組 安政五年六月

御年貢諸役物盛取建帳 東組(岩滑村) 安政五年二月

東組定引年数引戻米調帳(年貢定引・年限引百姓一人別取調) 岩滑村(安政以降)

井領米取建集帳(村々井領米取立帳、大古根・植・角岡・高岡・卯ノ山・宮津・椋原村・乙川村(東組持平田新田)) 安政四年二月

午年三役銀諸懸割賦帳 岩滑村庄屋・組頭 惣百姓中宛 文政五年二月

(岩滑村年貢など差引勘定帳)

争論立会人

※年恐御達奉申上候御事(長尾村庄屋三井伝左衛門不正出入)(文久元年)

諸帳面取調書拔(去寅年地震ニ而用水溜池損所御普請入用金配付三付)(知多郡長尾村) 文久元年九月

※年恐奉欺願候御事(長尾村庄屋三井伝左衛門年貢諸懸不正三付吟味願) 知多郡長尾村市場組惣代儀助外八名 鳴海陣屋宛 文久元年二月

再諸帳面取調書(地震復旧御普請金取扱い疑惑三付届) 知多郡長尾村兼帶庄屋同郡龜崎村伊藤孫七郎・乙川村杉浦善治郎 鳴海陣屋宛 文久二年二月

※口上覚(長尾村市場組庄屋年貢諸勘定不正三付口上) 市場組 戊(文久二年)二月

※口上覚(長尾村市場組庄屋伝右衛門不正取締願)(文久二年)

※年恐奉差上済口證文之御事(市場組庄屋不正出入済口証文) 長尾村市場組百姓惣代平兵衛外八名、相手方三井伝左衛門 鳴海陣屋宛/立入半田村中野半左衛門・小栗太郎兵衛、長尾村兼帶庄屋龜崎村伊東孫七郎・乙川村杉浦善次郎 文久二年四月

長尾村入組 (市場組庄屋不正など二付難渋出入
取締願) 長尾村下郷組頭百姓彦吉郎外七名 鳴海
陣屋宛 戊 (文久二年) 二月

※後證一札之事 (長尾村庄屋伝右衛門心違い訛
び証文并立合人中野半左衛門・小栗太郎兵衛
届書) (文久二年)

尾張藩木綿世話方

貧民木綿織立産業世話人

(貧民木綿織立産業世話人申付書) 半田村中野半
左衛門宛 (慶応二年) 十一月

綿作皆無ニ付貧婦産業御取継方被仰付則貸綿之
覚 中野半左衛門手扣 慶応二年二月

※乍恐御請旁御達奉申上候御事 (貧民木綿産業
世話方地所綿買入方申合書) (慶応二年)

貧民木綿産業世話方被仰付 (表紙・厚紙) 慶応二
年十一月

(貧民木綿世話方任命ニ付西浦御触面之写) 奥田
伝蔵 寅 (慶応二年) 十一月二日

乍恐御答奉申上候御事 (木綿世話方大野村浜島
伝右衛門世話役譲渡願ニ付返答書) 知多郡木
綿世話方・岡村肝煎七右衛門後家、岡村竹内文之丞
後家、大野村杉山和兵衛、横須賀町方村瀬彦助 奥
田伝蔵陣屋宛 卯 (慶応三年) 二月

(貧民木綿仕法仲買人撰控) (慶応三年カ)

(貧民木綿仕法運用覚) (慶応二年カ)

(貧民木綿仕法懸りなど氏名書上) (慶応二年カ)

半 一冊 四五

半 一冊 四六・二

横切継紙 一通 六五

横半半折 一冊 七五

半 一冊 四六・三

半 一冊 四四・一

横切継紙 一通 三四・二

横切継紙 一通 三四・三

横切継紙 一通 三四・四

横切継紙 一通 三四・五

横切継紙 一通 三四・六

(晒場など設計図)

木綿世話方肝煎職

永代譲渡申一札之事 (木綿世話方肝煎株金千両
二而譲渡ニ付) 譲り主大野邑浜島伝右衛門、親類
請人浜島七郎兵衛外七名 半田村中野半六宛 嘉永
六年五月

覚 (親類浜島伝右衛門木綿世話方肝煎株譲渡証
文代印三付別心無之旨書付) 三州足助鈴木利兵
衛 尾州半田中野半六宛 嘉永六年五月

浜島木綿店移徙出願双方願書并御陣屋被申渡之
事 (大野村浜島伝右衛門木綿世話方肝煎職半
田村中野半六へ譲渡一件) (慶応二・三年)

御領内木綿他所売世話人被渡出候ニ付六軒問屋并
西浦肝煎江御歎願書之写 (貧民救済木綿新法
難儀ニ付歎願書) 慶応二年二月

(木綿世話方肝煎職譲渡済口切紙) 慶応三年七月

1 (木綿世話方肝煎職譲渡承知書) (横須賀陣
屋) 浜島伝右衛門宛 卯 (慶応三年) 七月

2 (木綿世話方肝煎職譲請承知および貧婦救
済ニ販路開拓申付書) (鳴海陣屋) 半田村中
野半六宛 卯 (慶応三年) 七月

一札 (木綿世話方肝煎株名前付替村方江引移ニ付
御恵金・相続金請取一札) 譲主伝右衛門事改名
大野村浜島五兵衛、親類惣代三州足助鈴木利兵衛、
別家惣代作兵衛 中野半六宛 慶応三年二月

八鋪 三四・七

縦継紙 一通 六六

縦紙 一通 六七

半 一冊 三八

半 一冊 三九

横切紙 (包紙あり) 二通 六六

小切紙 一通

横切紙 一通

縦継紙 一通 六六

尾張藩海岸守裁許役

(海岸守裁許役申付書并村々防方心得) (幕末)	横切紙綴 (三通)	一綴 三三
1 (海岸守裁許役見習申付書) 半田村中野半左衛門倅太一郎宛 三月	横切紙	一通
2 (海岸守裁許役申付書) 半田村半左衛門宛	横切紙	一通
3 (異国船渡来之節知多郡村々海岸守役二付心得書) 一一月	横切紙	一通
測量御用中諸入用書上帳(二八八両三分余) 亀崎村庄屋間瀬佐次平・組頭代藏 鳴海陣屋宛 亥一一月	半	一冊 三五
(御軍艦方測量御用関係往復書状) (文久三年)	一綴 (七通)	三三

役場・公職関係

副区長・戸長・村議

副区長

※明治五年壬申十一月於支庁戸長拜命以来統テ額田県庁ヨリ十一月十日副区長被命候而ヨリ愛知県ニ合併被仰出西一月三十日県庁ニ被召統テ権区長ニ転名横須賀集会所詰等日々必要略記 (明治五、六年)

半(罫紙) 一冊 三五二

※出張雜記(副区長・戸長関係) 北岳楼 (明治六年)

横小帳 一冊 三五二

正副区戸長職務章程 第七大区四小区住中埜泰 明治六年

半(木版) 一冊 一五〇

戸長

(副区戸・戸長拜命略記) (明治五、六年)

三冊 三五六

1 明治五年壬申十一月於支庁戸長拜命以来統テ額田県庁ヨリ十一月十日副区長被命候而ヨリ愛知県ニ合併被仰出西一月三十日県庁ニ被召統テ権区長ニ転名横須賀集会所詰等日々必要略記 (明治五、六年)

半(罫紙) 一冊

2 出張雜記(副区長・戸長関係) 北岳楼 (明治六年)

横小帳 一冊

3 (戸長職役務雜記) (明治六年)

横小帳 一冊

(額田表ニ而参会欠席并印紙提出届) 渡辺鉞次郎 中野半左衛門宛 (明治五年) 一一月二四日

巻紙 一通 三五二

おねがいかけつけ 竹本瀧三良

。(家財買取人竹本九三郎より売払残金取立難儀
二付取計願) 大和屋瀧三良 戸長中野小吉宛
(明治五年) 十一月二十九日

。覚(家財売払残金預け額改) 大和屋伊右衛門
村升屋九三郎宛 (明治六年)

明治七年戸籍改正第七大区各村戸数留 中野多一
明治八年五月写

(戸長役場諸伺書綴) (明治七、一八年)

布告達承認書(愛知県第七大区) 八番十七番組 明
治一一年五月

○

金銭差引簿(戸長役場金銭差引簿) 半田村戸長中
埜半左衛門、小栗三郎 明治一七年七月、同一八年
六月

金銭出納簿(戸長役場金銭出納簿) 半田村戸長中
埜半左衛門、小栗三郎 明治一七年七月、同一八年
六月

半田村会議事細則(明治一七年度)

明治十七年度半田村々費支出議案 (明治一七年
度)

明治十七年度半田村々費収入議案 (明治一七年
度)

明治十七年度地方戸数割税徴収議案 (明治一七
年度)

包紙入 四通の内 三五五

堅紙 一通 三五三

横切紙 一通 三五四

半(罫紙) 一冊 三六三

半(罫紙) 一冊 四八七

半 一冊 三五四

美 一冊 五五六

美 一冊 五五七

半(罫紙) 五冊一綴 三六六

半(罫紙) 五冊一綴 三六六

半(罫紙) 五冊一綴 三六六

半(罫紙) 五冊一綴 三六六

明治十七年度營業割賦課法 (明治一七年度)

差引徴(村費書留差引帳) (巻末に明治一七年度決
算表あり) 中埜泰公費掛 明治一八年一月

引渡目録(戸長文書・器機類) 小栗三郎 知多郡第
一組戸長中埜半左衛門宛 明治一八年一月一日

貨幣出納簿(村役場金銭出納簿) 中埜泰公費係
明治一八年一月

(八月末出入金勘定)

(二月一七日出入金勘定)

(二月六日出入金勘定)

(諸伺願書綴) (愛知県知多郡半田村戸長役場) 戸長
中野半左衛門 明治一八年

半田村等分式分五厘ヨリ(人民等級決籍書)

南部人民等級決籍書

村 議

地租改正諸布達録 中埜 明治九年六月

地位銓評委任状人名簿 (半田村二九七人署名)
明治九年八月

地租改正収獲地価毎筆賦課統計御届 尾張国知多
郡半田村議員・地主総代兼小栗長左衛門・中埜多一、
用係榊原万治郎・榊原弥吉 愛知県令安場保和宛
明治一〇年九月

地租改正収獲地価毎筆賦課統計御届 第八大区尾
張国知多郡半田村議員・地主総代兼小栗長左衛門・
中野多一、用係榊原万治郎・榊原弥吉 愛知県令安
場保和宛 明治一〇年九月

半(罫紙) 五冊一綴 三六六

横半列 一冊 五六一

美 一冊 一五三

横半列 一冊 五六一

小切紙 一通 五六一

小切紙 一通 五六一

小切紙 一通 五六一

半(罫紙) 一綴 四八六

半(罫紙) 一冊 三四

半(罫紙) 一冊 三五

版本 一冊 三六

半(罫紙) 一冊 三六

半(罫紙) 一綴 三五七

半(罫紙) 一綴 三五七

公私記録綴

(公私記録綴込) (文政五年～明治一八年)

半
(八冊・一綴
一通) 四六・一

1 村方困窮ニ付元建金借用金証文之写 三州宝飯郡下佐脇村名主惣兵衛・定右衛門外五名 尾州半田半左衛門宛／羽倉外記手代北村荒三郎 文政五年一二月

2 借用金証券(二九九〇円) 借用主半田村樋口万吉外一名 半田村三百六十三番地中埜半左衛門宛 明治一八年一月二四日

3 (愛知県第八区進達留) 明治一一年

一冊

4 (人民差別争論訴答并済口証文) 被告人第七大区四小区知多郡成岩村副戸長北村橋藏・副戸長介榎原伊助 明治七年三月

一冊

5 願(倅強氣理不尽ニ付懲役願) 岩滑村新美兵左衛門 愛知県令鷲尾隆聚宛 明治七年一二月

一通

6 第七大区四小区岩滑村新美兵左衛門家督相統之儀ニ付御尋問有之私奉職中取扱候補始末書 半田村四百四十一番地 商中埜多一 愛知県七等判事芹沢政温宛 明治九年五月

一冊

7 (岩滑村新美兵左衛門家督相統一件ニ関スル旅費日当調) (中埜多一) (明治九年五月)

一冊

8 第七大区四小区知多郡岩滑村新美兵左衛門家督相統之儀ニ付御尋問有之私役中取扱候補始末左ニ奉申上候 半田村四一番地中埜多一 愛知県七等判事芹沢政温宛 明治九年五月五日

一冊

9 衣ヶ浦築港建議 築港有志者 県令宛

一冊

(公私記録綴込)

半
(一綴
七冊) 四六・四

1 溝渠場所換願(半田村字北条九番溝渠水利不便ニ付場所替願・絵図) 半田村三浦介弥・中野半左衛門・地主惣代小栗七左衛門・渡辺伴七 愛知県令勝間田稔宛 明治一八年八月

三冊

2 北新居本田坪数下調

一冊

3 (下半田村半左衛門扣地書上)

一冊

4 成岩北新居田畑坪数調

一冊

5 (浜新田扣地作人書上)

一冊

(公私記録綴込)

半(三冊・一綴
一通) 四六・五

1 譲り渡証文之事(村扣井領米譲渡証文写) 岩滑村譲り主村方、請人組頭太兵衛外頭百姓〇名 乙川村長作宛 嘉永二年一二月

一冊

2 売渡添証券(岩滑村井領米譲渡証文写) 売主乙川村山田長作、証人同村竹内彦太夫 岩滑新田新美柳二宛 明治八年四月

一冊

3 (知多郡内罹災窮民救助配付金明細表および施金人名記) 明治一四年一〇月

(二冊・一通)

4 所有地反別地価届(雛型共) 半田村中野半左衛門 愛知県知多郡役所宛 明治一二年一月

一冊

5 條約書(愛知県士族小川政徳半田学校教員ニ雇用ニ付) 知多郡公立第三十番小学校学務委員雇者中埜半六・同県士族被雇者小川政徳 明治一三年九月

一冊

6 戸長役場区域表 北岳校所藏 明治一七年七月

一通

7 伺(半田村戸長役場書役ら村内協議費および学校費など不正徴収之件ニ付伺書) (明治一七年頃カ)

一冊

- 8 学校土木入用金(勘定書) 惣代藤田茂兵衛
明治一四年二月二三日 一冊
- 9 (学校建設経費積り書) (明治一四年)
10 (所得税納税通知) 愛知県知多郡長長坂重孝
半田町中埜半左衛門宛 (明治二〇年一三〇年)
(一綴)
11 (豊橋支庁警察所ニ而窮民家作の件ニ付書状)
渡辺敬寛 中野御主人・松幸御主人宛 九月
二三日 (明治初年) 一通
- 12 新聞代前金受取証 半田小栗参平 中埜半左
衛門宛 明治二二年七月 一通
- 13 受取証(前金受取証) 小栗参平 中野半左衛門
宛 明治二四年三月二日 一通
- 14 受取証(新聞雜誌代前金) 半田町新聞売捌所小
栗参平 中野半左衛門 明治二三年八月八日 一通
- 15 公債証書借用之証(額面二〇〇〇円) 半田町
借用主榊原孝平 中野半左衛門宛 明治二四年二
月二三日 一通
- 16 預り証(金五〇〇円預り証) 中埜半左衛門 山
中七十郎宛 明治一六年二月六日 一通
- 17 借用金証(金三〇円) 半田村新美兵左衛門 中
埜半左衛門宛 明治二二年五月 一通
- 18 売付証(中埜又左衛門所有宅地買受約定ニ
付) 半田町小栗及兵衛 榊原孝平宛 明治二
四年二月二七日 一冊
- 19 借用証券(金六〇円) 借用主榊原久兵衛 中野
多一宛 明治一六年八月九日 一通
- 20 預り金之内請取証 半田村渡辺多市ノ祖父渡辺
伴七 中野半左衛門宛 明治二〇年六月 一通

- 21 借用証券(一四四円) 借用主榊原久兵衛 中野
半左衛門宛 明治一九年四月七日 一通
- 22 地所売渡証(三町七反一畝二九歩、代金二九二
〇円) 半田村売主榊原孝助・請人服部光次郎
半田村樋口万吉宛 明治一八年二月二〇日 一冊
- 23 証明書(三河国碧海郡志貴崎村扣地掟米高
証明書) 半田村樋口万吉 三河国碧海郡刈谷
町穴戸隆一宛 明治二五年二月二〇日 一通
- 24 地所売渡約定証(碧海郡志貴崎村三町七反一畝
二九歩、代金二八七〇円) 半田町樋口万吉 碧
海郡穴戸隆一宛 明治二五年二月四日 一通
- 25 委任状(樋口万吉方碧海郡志貴崎村耕地書
入借用金返済ニ付書入取消ノ件) 半田村中
埜半左衛門 明治二五年二月 一通
- 26 (袋数書上覧) (明治)
27 売渡証券(地所建物売渡証、代金一七〇〇円)
半田町中埜又左衛門 半田町半田倉庫合資会社宛
明治二八年六月二六日 一冊
- 28 借地証券(北街・中村学校用地借用ニ付)
半田村右学校係中埜多一・同村人民総代小栗三郎・
同小栗七左衛門 中埜半六宛 明治二二年一〇月 一冊
- 29 地所売渡証(乙川村田地反別四反一畝一三歩、
代金一三〇円) 半田町売渡人服部光二郎 買受
人中埜半左衛門宛 明治二六年二月二二日 一通
- 30 地所売渡証(成岩村田地七反三畝二四歩、代金
四三五円) 知多郡半田町売渡人服部光二郎 買
受人中埜半左衛門宛 明治二六年二月二二日 一冊

教育・通信

学校・教育

公立小学校教員雇入方心得 愛知県令国貞廉平代理愛知県少書記官野村賀真 明治一三年八月二三日

版本 一冊 三七

(半田学校敷地取得書類) 明治一四年九月

綴 (一通) 六五

1 記(宅地売渡代金請取書) 半田村売主中埜半六・証人中埜又左衛門・半田学校学務委員山本倉藏・小栗長左衛門・半田村南組惣代小栗三郎・中野半左衛門宛 明治一四年九月三〇日

竪紙(竪紙) 一通

2 地所売渡証(宅地二反八畝三步学校敷地として売渡証文) 売主半田村中埜半六・証人中埜又左衛門・半田学校学務委員山本倉藏・同小栗長左衛門・半田村南組惣代小栗三郎・同中野半左衛門宛 明治一四年九月三〇日

竪紙 一通

※(半田村第四区御預ケ金校舎建築のため元利共返却通知) 半田町長中埜半助 中埜半左衛門宛 明治四〇年九月二三日

竪(竪紙) 一通 五〇・四

郵便局

郵便局勘定書 浜島店茂兵衛 明治九年四月〜同一〇年六月

横半半折 一冊 五七

郵便局勘定書 郵便局詰浜島 明治一〇年六月一日〜同一一年六月一日

横半半折 一冊 五七

郵便局目録 郵便局浜島 明治一一年六月一日〜同一二年六月一日

横半半折 一冊 五七

郵便局目録 浜島 明治一二年六月一日〜同一三年六月一日

横半半折 一冊 五七

郵便局勘定表 浜島 明治一三年六月一日〜同一四年六月一日

横半半折 一冊 五〇

郵便局勘定表 浜島 明治一四年六月一日〜同一五年六月一日

横半半折 一冊 五二

郵便局勘定表 浜島 明治一五年七月一日〜同一六年六月一日

横半半折 一冊 五三

郵便局勘定表 浜島 明治一六年六月一日〜同一七年六月一日

横半半折 一冊 五三

郵便局勘定表 浜島 明治一七年七月一日〜同一三〇日

横半半折 一冊 五四

相 続 講

相続講議定・解散

永宮相続講取極申証文之事 中野半左衛門外二四名 文化一二年一二月
附・当社八幡宮江誓紙之写

竪綴紙 一通 六四二

・講中世代替り之節調印〔明治一六年まで四八名〕

誓詞（永宮相続講取結誓詞下書）（文化一二年カ）

竪紙 一通 六四四

※（相続講運宮方取決并講中掛金家名帳） 文化一二年一二月

半 一冊 四八八三

（永宮相続講清算ニ付委任狀・差入証） 永栄相続講中宛 明治二四年一二月

半（竪紙）一綴 六五九

講 運 営

利息金配分渡帳・利息配分名前帳

相続講利足金配分渡帳 当番支配方中野半六・小栗久八・中野半左衛門 天保八年一二月

横長半 一冊 一〇二

利息金配分渡帳 相続講中支配人半六 天保九年一二月

横長半 一冊 一〇三

利息金配分渡帳 相続講中支配人半六 天保一〇年一二月晦日

横長半 一冊 一〇四

利息金配分渡帳 天保一一年一二月二九日

横長半 一冊 一〇五

利息金配分渡帳 天保一二年一二月 横長半 一冊 一〇六

利息金配分渡帳 相続講中支配人中野半六 天保一三年一二月二八日 横長半 一冊 一〇七

利足金配分渡帳 当番中野半六、加役又左衛門・久八 天保一四年一二月 横長半 一冊 一〇八

利足金配分渡帳 当番中野半六、加役中野又左衛門・小栗久八 天保一五年一二月二八日 横長半 一冊 一〇九

利息金配分渡帳 当番中野半六、加役中野又左衛門・小栗久八 弘化二年一二月二八日 横長半 一冊 一一〇

利息金配分渡帳 当番中野半六、加役中野又左衛門・小栗久八 弘化三年一二月二八日 横長半 一冊 一一一

利息金配分渡帳 当番中野半六、加役中野又左衛門・小栗久八 弘化四年一二月二八日 横長半 一冊 一一二

利息金配分渡帳 嘉永元年一二月二八日 横長半 一冊 一一三

利息金配分渡帳 嘉永二年一二月二八日 横長半 一冊 一一四

利息金配分渡帳 嘉永三年一二月二八日 横長半 一冊 一一五

利息金配分渡帳 嘉永四年一二月 横長半 一冊 一一六

利息金配分渡帳 嘉永五年一二月 横長半 一冊 一一七

利息金配分渡帳 嘉永六年一二月 横長半 一冊 一一八

利息金配分渡帳 嘉永七年一二月 横長半 一冊 一二九

利息金配分渡帳 安政二年一二月 横長半 一冊 一三〇

利息金配分渡帳 安政三年一二月 横長半 一冊 一三一

利息金配分渡帳 安政四年一二月 横長半 一冊 一三二

利息金配分渡帳 月 会本小栗太郎兵衛 安政五年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席中野又左衛門 安政五年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席三浦六右衛門 万延元年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席中野半左衛門 文久元年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席小栗富次郎 文久二年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席小栗半右衛門 文久三年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席中野半六 元治元年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席小栗久八郎 慶応元年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席小栗半七 慶応二年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席中野又左衛門 慶応三年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席小栗太郎兵衛 明治元年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席三浦六右衛門 明治二年一 月二八日	利息金配分渡帳 会席中野半左衛門 明治三年 一月二八日	利息金配分名前帳 会席中野半六 明治四年一 月二八日
横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
二三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六
利息金配分名前帳 月二八日	永栄講利息配分名前帳 一月二八日	利息金配当渡名前帳 年一月二八日	利息金配分名前帳 郎当番之所差支ニテ 明治八年一月二八日	利息金分賦人名帳 一月二八日	利息金分賦人名帳 一月二八日	利息金分賦帳 月二八日	利息金分賦帳 一月二八日	利息金分賦帳 一月二八日	利息金分賦帳 一月二八日	利息金分賦帳 二月八日	利息金分賦帳 一月二八日	利息金分賦帳 二月二八日	利息金分賦帳 二月二八日
会席小栗富次郎 明治五年一 月二八日	会本小栗半七 明治六年 一月二八日	会同本中野又左衛門 明治七 年一月二八日	会合所三浦六右衛門(小栗久八郎当番之所差支ニテ) 明治八年一月二八日	会合所中桠半六 明治一〇年一 月二八日	会合所中桠半六 明治一〇年一 月二八日	会合本小栗富次郎 明治一一年一 月二八日	会合本中野又左衛門 明治一二年一 月二八日	会合本小栗半右衛門 明治一三年一 月二八日	会同本三浦六弥 明治一四年一 月二八日	会同本中桠半六 明治一五年一 月二八日	会同本中桠半左衛門 明治一六年一 月二八日	会同本小栗富次郎 明治一七年一 月二八日	会同本小栗富次郎 明治一七年一 月二八日
横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半	横長半
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇

相統講金勘定帳

永宮相統講金勘定帳〔文化一〇年〕文政七年まで

講員一人別勘定 支配方当番加役中 文政八年一月

横長美 一冊 二七四

講金勘定帳〔永宮相統講〕 支配方当番加役中 文政八年一月〔文政八年〕明治二十四年

横長美 一冊 二七六

金銭出入帳・大福帳

金銀出入帳 相統講仲間中 文化一二年一月〔明治二十四年〕

横長美 一冊 二六九

大福帳〔講金運用〕 相統講仲間中 文化一二年一月〔明治二十四年〕

横長美 一冊 二七九

金銀出入帳 相統講中 天保八年一月二八日

横長半 一冊 五五六

覺〔講金元利差引勘定帳〕 中野半六 中野半左衛門宛 卯極月

横長美 一冊 四七

覺〔金錢元利勘定帳〕 中野半六 中野半左衛門宛 未二二月

横長半 一冊 四五五

講金借用

〔永宮相統講金借用証文〕 〔文政四年〕安政四年

一綴 (一三三) 六四五

借用申金子之事〔金二五兩〕 借用主新左衛門、請人文助 下半田庄助取次宛 天保四年七月

堅紙 一通 六四三

借用申金子之事〔金一〇兩〕 借用主新左衛門、受人文助 下半田庄助取次宛 文政四年七月

堅紙 一通 六四四

預り金子之事〔金一五兩〕 村控分証人庄屋吉藏、質主庄助 永々講御支配中野半六 取次七助宛 文政四年一月

堅紙 一通 六四一

添証文〔新左衛門要用三五兩分〕 金子支配庄助外 受人二名 永々講中支配衆中宛 文政四年二月

堅紙 一通 六四五

借用申金子之事〔金一〇兩〕 借用主新左衛門、請人文助 庄助宛 文政六年一月

堅紙 一通 六四六

借用申金子之事〔金二五兩〕 借用主新左衛門、請人文助 竹本庄助取次宛

堅紙 一通 六四七

借用申金子之事〔金一〇兩〕 借用主新左衛門、受人文助 庄助取次宛 文政六年一月

堅紙 一通 六四八

借用申金子之事〔金一〇兩〕 借用主新左衛門、請人平助 竹本庄助取次宛 文政九年二月

堅紙 一通 六四九

一札〔講金三兩借用証文〕 利兵衛 講元当番中野半左衛門宛 文政九年極月

堅紙 一通 六五〇

地所質物書入借用申金子之事〔永々相統講金之内二〇兩〕 金借り主吉藏、請人太郎兵衛 相統講世話人中野半六・同半左衛門宛 文政一一年一月

堅紙 一通 六五一

借用金子之事〔金一〇兩〕 北新居金借り主平七、請人次左衛門 相統講取次中野半左衛門宛 文政一二年一月

堅紙 一通 六五二

拝借申金子之事〔相統講之内金二兩〕 金借り主吉右衛門娘きた外二名 中野半左衛門・小栗半右衛門宛 安政四年二月

堅紙 一通 六五三

借用申金子之事〔永代講金一兩〕 入口屋八右衛門 中野半左衛門・講中宛 亥二月

堅紙 一通 六五四

新田御用一札之事〔三州西小柳新田之内十町歩八ヶ年質入三而金八百兩借用二付一札〕 永宮講引請惣代中野半六、当番支配人又左衛門・半左衛門 小栗半七宛 天保二年一月

堅紙 一通 六五五

借用申金子一札之事（相統講より家名相統元手金借用証文） 竹本吉右衛門・同与四郎・入口屋八右衛門 中野半左衛門・中野半六・小栗半七・中野又左衛門・相統講連中宛 天保九年十一月

元緒年済証文之事（永宮相統講金借用証文雛型） 金子年済主新左衛門外二名 永宮相統講当番中野半六外二名 天保一二年二月

（永宮相統講金借用証文雛型）

預り申金子之事（雛型） 金預り主何之誰 御造營世話人何之誰宛

地所質物書入借用申金子之事 金借り主何兵衛半田村相統講世話人宛

（永宮相統講關係書類）

1 覚（相統金借用ニ付田地指出覚） 新左衛門庄助宛 申一二月二日

2 覚（西之内袋帳など品代書上） 中野半左衛門子二二月

3 書状（永宮講金借用願） 小栗太郎兵衛 中野半左衛門宛 七月九日

4 覚（相統講金一五兩借用ニ付） 小栗太郎兵衛 相統講世話人中野半六・半左衛門・小栗半七宛 天保二年六月朔日

5 覚（相統講金村方引受分覚） 相統講世話人小栗七助宛 亥七月

6 覚（相統講懸金・利息引渡覚） 太郎兵衛 相統講当番之内中野半左衛門宛 巳一二月二八日

堅紙 一通 六六

堅紙 一通 六四

（一綴）
（四通） 六六

堅紙 一通 六四六一

堅紙 三通 六四六二

（一綴）
（九通） 六五三

小切紙 一通

横切紙 一通

横切紙 一通

小切紙 一通

小切紙 一通

横切紙 一通

7 覚（預金一七二兩余引渡覚） 中野半六 相統講連中宛 子一二月二八日

8 覚（与四郎相統講配当金一兩請取覚） 小栗半七 中野半六宛 戌二月八日

9 覚（相統金借用ニ付書入田畑覚） 新左衛門 戌二月

講金返済

（永宮相統講金返済關係書類）

1 （相統講金返済大延引ニ而返済心当ニ付書状） 新左衛門 下半田竹本庄助宛 一二月二三日

2 （西はた吉右衛門家代金遅滞ニ付相統講連中へ相談之旨書状） 佐太郎代長左衛門 中野半六・同半左衛門宛 一二月二八日

3 （講金返済滞ニ付書入地所売渡ニ而返金之旨書状） 新左衛門 講会連中・庄助取次宛 一二月二八日

4 口上（相統講利足配当米差遣方ニ付問合せ廻章） 半左衛門 小栗半七・中野半六・又左衛門・久八宛 一二月一九日

5 （御上調達金借用ニ而上納之所返済滞ニ付書状） 庄助 永々相統講連中宛 一二月二八日

6 （講金返済滞ニ付書状） 上新左衛門 下半田三浦八兵衛宛 一二月晦日

7 添書之事（講金返済滞ニ付書入質地譲渡之旨添書） 新左衛門 中野半左衛門宛 亥一二月

小切紙 一通

小切紙 一通

横切紙 一通

（一綴）
（九通） 六四七

横切紙 一通

横切紙 一通

横切紙 一通

横切紙 一通

横切紙 一通

横切紙 一通

小切紙 一通

8 (新左衛門講金返済滞ニ付親類中へ触れ置かれたき旨書狀(下書)) (中埜半左衛門) 上半田市右衛門宛 一二月朔日

9 (相統講金返済工面中ニ付猶予願) 上新左衛門 下半田中埜半左衛門宛 一二月二四日

横切紙 一通
横切紙 一通
横長半 一冊
六五三

乍恐当相統講江奉歎候御事(不精者八兵衛御利解願) 八兵衛分家中 相統講世話人衆中宛 戊辰一月二八日

堅紙 一通
六五七

今度其方儀不届之次第札明之事(八兵衛不届之次第札明書) 伯父三浦閑十郎 八百八(八兵衛宛) 文久二年

半 一冊
六六六

議員困窮取計い

(相統講中困窮人救済願など綴)

一綴
六五三

1 乍恐口上(困窮者別段ニ賢考願) 困窮者理平治・与四郎・利兵衛・新兵衛・清兵衛・吉右衛門 相統講御当役衆中・連中宛 申一二月

包紙入 一通
小切紙

2 乍恐(困窮者へ当年限り今一度御救願) 困窮者利平治・与四郎・喜平・忠右衛門・清兵衛・吉右衛門 相統講支配衆中当役中宛 酉一二月

横切紙 一通

3 定(講中渡世難洪者助成ニ付同人方へ質素儉約申付定) 丑一二月

横切紙 一通

4 (氏神瑞籬造営入用相統講中へ出金之有無、出金額など伺い) 村方 相統講支配衆中宛 一二月一八日

横切紙 一通

乍恐困窮ヲ忍兼不埒成口書を以奉願上置候御事(世情高借ニ付永宮相統講配当金増額願) 願人与四郎外五名 永々相統講支配中宛 巳三月

半 一冊
六四八

※(相統講中困窮者救済仕法賛同之上署名願) 願主連名中 茂右衛門・六右衛門・半右衛門・吉右衛門・次右衛門・通吉・彦藏・太郎兵衛宛 一二月七日(江戸)

横切紙 一通
四八八八

※御連中江御願申入候口演書之事(相統講中困窮者救済仕法ニ付) 願主半左衛門・半七・中野半六・幸七・又左衛門・久八郎・八兵衛 午一二月(江戸)

半 一冊
四八八九

※定(相統講中困窮之族出来ニ付窮家相統方取決め) (江戸)

半 一冊
四八八二

(相統講参加之困窮者江金十両拝借願) 困窮者惣代与四郎 永々相統講支配衆中宛 巳一〇月

半 一冊
四六九

乍恐以口上書御願上候事(御上調達金相統金借用ニ而上納之所返済滞ニ付殘金合力願) 願主庄助・親類正七 相統講中支配方中野半六・同半左衛門・同又左衛門宛 未一二月

半 一冊
六五〇

神文一札誓書之事(相統講中百姓困窮ニ而講金拝借ニ付神文下書)

堅紙 一通
六五五

中 埜 家

家 政

領 主

※(吉藏跡半田村庄屋役申付書) 知多郡半田村半左衛門宛 巳(文政四年) 二月一七日	小切紙	一通	六八二
※(半田村庄屋役申付書) 半田村半左衛門宛 午(弘化三年) 四月	小切紙	一通	六八四
※(半田村庄屋役病氣退役許可) 半田村庄屋半左衛門宛 申(嘉永元年) 四月	小切紙	一通	六八五
※(半田村庄屋役申付書) 半田村中野半左衛門宛 子(元治元年) 四月	小切紙	一通	六八二
※(海岸守裁許役見習申付書) 半田村中野半左衛門倅太一郎宛 三月	横切紙	一通	六三一
※(海岸守裁許役申付書) 半田村半左衛門宛 一月	横切紙	一通	六三二
※(岩滑村兼帶庄屋差免後見申付書) 半田村中野半左衛門・小栗三郎兵衛宛 (万延元年) 四月	横切紙	一通	六三五
※(岩滑村取締役申付書) 半田村中野半左衛門宛 卯(慶応三年) 五月	小切紙	一通	六八三
(窮民江施物奇特二付銀一枚被下御書付・目錄) 半田村半左衛門宛 二月	包紙入 横折紙	二通	六六
(中野半左衛門苗字帶刀免許狀)	一綴 (五通)	七三	

役 所

1 (去亥春献金奇特二付宗門自分一札一代切免許狀) 半田村中野半左衛門宛 子九月	横切紙	一通	
2 村々より御軍費差上金論方骨折二付一代切御目見免許狀) 半田村中野半左衛門宛 丑正月	横切紙	一通	
3 (御軍費上納奇特二付苗字帶刀免許狀) 半田村半左衛門宛	横切紙	一通	
4 (一代切苗字免許狀) 半田村下半田分庄屋半左衛門宛 九月	横切紙	一通	
5 (去春御軍用金上納、且去ル寅年已來窮民江施物取計二付宗門自分一札苗字免許狀) 半田村中野半左衛門宛 七月	横切紙	一通	
乍恐奉願上候御事(老衰二付庄屋退役家名倅多一へ相統願) 中野半左衛門	豎紙	二通	三八三
地券證申受帳(中埜家分) 四小区半田村中埜半左衛門 明治六年	半(豎紙)	一冊	三五九
戸籍帳中民産書載可致旨御達三付調査録(中埜家不動産書上) 中埜半左衛門 明治七年一〇月	半(豎紙)	一冊	三五八
書入地券証明細書 (明治)	半(豎紙)	一冊	七七
年貢・納税・所得金高届			
御年貢差引目錄 (下半田村) 北組庄助・南組兵吉 半左衛門宛 天保二年極月	横長半	一冊	四四
(貸地貸家所得金高并地租公費及雜費調) (明治一七年一〇年)	半(豎紙)	一冊	三七九
(明治二〇年度所得予算下調) (明治二〇年)	半(豎紙)	一冊	三八〇

(貸地貸家所得金并地租公費下調) (明治二二年度カ)			半(野紙) 一冊 三六二
所得金高届(含、宝飯郡長宛所得税納入地届) 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二〇年七月三〇日			半(野紙) 一冊 三八
所得金高届(含、宝飯郡長宛所得税納入地届) 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二一年四月			半(野紙) 一冊 三三
所得金高届(含、所得金高届明細書并宝飯郡長宛所得税納入地届) 半田村 知多郡長長坂重孝宛 明治二二年四月二二日			半(野紙) 一冊 三五
(貸地貸家所得金并地租公費下調) (明治二二年度カ)			半(野紙) 一冊 三四
所得金高届 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二四年四月一七日			半(野紙) 一綴 三六
所得金高届(含、所得金高届明細書) 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二五年四月一五日			半(野紙) 一綴 三七
所得金高届 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二六年四月二八日			半(野紙) 一綴 三八
所得金高届 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二六年四月二八日			半(野紙) 一綴 三九
所得金高届(含、所得金高届明細書) 半田村中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二六年四月二八日			半(野紙) 一綴 三〇
式拾六年度貸地家所得予算表 (明治二六年四月)			半(野紙) 一冊 三九
(貸地貸家所得金等下調并所得金高届明細書) (明治二六年)			半(野紙) 一冊 三九二
(貸地貸家所得金など下調) (明治二七年)			半(野紙) 一冊 三九三
所得金高届(含、居住地外ニ属スル所得明細書、公債証書株券区分明細書、営業ニ非サル貸金明細書) 半田町農中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二七年四月二七日			半(野紙) 一冊 三九四
所得金高届(含、住居地以外ニ属スル所得明細書、公債証書株券区分明細書、営業ニ非サル貸金明細書、居住地内所得明細書) 半田町農中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二八年四月			半(野紙) 一冊 三九五
(貸地貸家所得金など下調) (明治二八年)			半(野紙) 一冊 三九六
(貸地貸家所得金など下調) (明治二九年)			半(野紙) 一冊 三九七
所得金高届(含居住地外ニ属スル所得明細書、公債証書株券区分明細書、営業ニ非サル貸金明細書、居住地内ニ属スル所得明細書) 半田町農中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治二九年四月			半(野紙) 一冊 三九九
(貸地貸家所得金など下調) (明治三〇年)			半(野紙) 一冊 三九八
所得金高届(含、居住地外ニ属スル所得明細書、公債証書株券区分明細書、居住地内ニ属スル明細書、荒地年季分調書) 半田町農中埜半左衛門 知多郡長長坂重孝宛 明治三〇年四月三〇日			半(野紙) 一冊 四〇〇
所得金高届(含、公債証書株券区分明細書、居住地他ニ属スル所得明細書、居住地内ニ属スル所得明細書) 半田町農中埜半左衛門 知多郡長服部直衛宛 明治三一年四月			半(野紙) 一冊 四〇一
(貸地貸家所得金など下調) (明治三一年)			半(野紙) 一冊 四〇二
所得金高届(含、貸地貸家所得下調) 半田町中埜半左衛門 半田税務署長堀遠宛 明治三二年四月三〇日			半(野紙) 一冊 四〇三
所得金高届(含、貸地貸家所得金下調) 半田町中埜半左衛門 半田税務署長吉川新太郎宛 明治三三年四月			半(野紙) 一冊 四〇四

七二

所得金高届〔含、貸地貸家所得金下調〕	中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四〇六
半田稅務署長永田錦之丞宛	明治三四年四月		
所得金高届〔含、貸地關係所得下調〕	半田町農中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四〇五
半田稅務署長永田錦之丞宛	明治三五年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸宅所得金下調〕	中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四〇七
稅務署長永田錦之丞宛	明治三六年四月三〇日		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四〇八
半田稅務署長永田錦之丞宛	明治三七年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田稅務署長宛	半〔罫紙〕一冊	四〇九
署長宛	明治三八年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四一〇
半田稅務署長窪村広弥宛	明治三九年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四二一
半田稅務署長関本鉉太郎宛	明治四〇年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四二三
半田稅務署長関本鉉太郎宛	明治四一年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四二三
半田稅務署長藤田寛宛	明治四二年四月		
所得金額申告〔含、貸地貸家所得金下調〕	半田町中埜半左衛門	半〔罫紙〕一冊	四二三
半田稅務署長藤田寛宛	明治四二年四月		
已歲晴雨日録〔天候・來客・家事日録〕	中埜半左衛門	橫長半一冊	七五〇
明治二年正月			
庚午年陰晴日録〔天候・來客・家事日録〕	中埜氏台所	橫長半一冊	七五一
明治三年正月			

明治五千申歲日録〔天候・來客・家事日録〕	中野半左衛門	橫長半一冊	七五三
明治五年			
幕末政治情勢			
諸国風土記〔幕末諸藩情勢書留・村方心得書〕	未一〇月〔維新期〕	半〔罫紙〕一冊	四三七
正実直言記・問策十則	土肥謙藏	半〔罫紙〕一冊	四三八
御家中江御戒御書付之写	北岳楼	半〔小〕一冊	三五二
武家秘冊表標紙	慶応三年春	半一冊	三五〇
〔幕末風聞記〕	北岳楼〔文久三年筆記〕	半一冊	三四七一
〔幕末政治変革へ参加を求める檄文〕		綴一綴	三四七二
元治元年甲子風聞書〔幕末政治社会状況の書留〕	元治元年	半一冊	三四六一
〔大政奉還上表文など写〕	〔慶応三年一〇月〕	横切縦紙一通	三四六二
〔朝廷改革御用のため尾張家など五大名家臣提供の仰出〕	〔慶応三年〕卯二月	横切縦紙一通	三四六三
〔維新期の数え歌など写〕		横切縦紙一通	三四六四
〔假名手本忠臣蔵芝居役者写・子一二月長治定芝居にて興業〕	〔元治元年〕子一二月	豎紙〔大〕一通	三四六五
慶応四戊辰風説書	慶応四年	半一冊	三四五一
〔徳川亀之助駿府に封ず旨など御触書写〕	〔明治元年〕五月二五日	横切紙一通	三四五十二
〔日蘭・日米和親条約写〕	〔安政二年力〕	豎紙一通	三四六三

当座帳

当座万用記(入用覚・買入覚・職人日雇・大工・奉公人・医師方・米春屋出しなど品目別に記載) 中野半左衛門 天保二年正月作帳(天保二年・三年)	横長半	一冊	二六八
当座帳(入用・買入物・職人日雇・奉公人・納戸渡しなど品目別に記載) 中野半左衛門 天保九年正月	横長半	一冊	二六八
当座帳(運賃勘定など) 勢徳丸芳次郎 明治二年九月作帳(明治三年まで)	横長半	一冊	二六八
当座帳(金銭出入など雑記) 中野半左衛門 明治六年一月	横長半	一冊	七五
当座帳(金銭米穀人足など出入帳) 中野半左衛門 明治七年一月	横長半 (表紙厚紙)	一冊	五三一
(川方横堤・大手堤普請人足書) (明治七年)	横折紙	一通	五二二
(明治八・九年米穀高より諸掛り差引勘定) 中野半左衛門	横折紙	一通	五二三
(下佐脇新田荒田・田地埋三付人足数・代金書付)	横折紙	一通	五三四
当座簿 中野半左衛門 明治一一年一月	横長半 (表紙厚紙)	一冊	五三
当座帳 中野半左衛門 明治一四年一月	横長半 (表紙厚紙)	一冊	五三
当座徴 中野半左衛門 明治一八年二月	横長半 (表紙厚紙)	一冊	五四
当座徴 中野半左衛門 明治一九年二月	横長半 (表紙厚紙)	一冊	五五
金銭出入帳			
金銀出入帳(月日順金銭出入) 中野半左衛門 寛政一三年正月(享和二年・二三月)	横長半 (表紙厚紙)	一冊	二六八
金銀出入帳 中野半左衛門 文化二年正月	横長半	一冊	二五五

金銀出入帳 中野半左衛門 文化三年正月	横長半	一冊	二五八
金銀出入帳 中野半左衛門 文化五年正月	横長半	一冊	二五七
金銀出入帳 中野半左衛門 文化六年正月	横長半	一冊	二五八
金銀出入帳 中野半左衛門 文化七年正月	横長半	一冊	二五九
金銀出入帳 中野半左衛門 文化八年正月	横長半	一冊	二六〇
金銀出入帳 中野半左衛門 文化一〇年正月	横長半	一冊	二六一
金銀出入帳 中野半左衛門 文化一二年正月	横長半	一冊	二六三
金銀出入帳 中野半左衛門 文化一三年正月	横長半	一冊	二六三
金銀出入帳 中野半左衛門 文化一四年正月	横長半	一冊	二六四
金銀出入帳 中野半左衛門 文化一五年正月	横長半	一冊	二六五
金銀出入帳 中野半左衛門 文政二年正月	横長半	一冊	二六六
金銀出入帳 中野半左衛門 文政三年正月	横長半	一冊	二六七
諸入用帳(日用代など) 文化四年一二月	横長半	一冊	二六七
雑用書拔帳(天保二・五年金銭払方勘定帳) 中野半左衛門	横長半	一冊	二六八
書拔帳(金銭貸借) 中野半左衛門 天保八年 正月 改正	横美列	一冊	七五
差引帳(金銭) 豊玉屋富次郎 中野半左衛門宛 安政七年正月	横長半	一冊	二七一
(諸品買物帳) (残欠) 明治三二・三四年	縦長半 (表紙厚紙を再編)	一通	七〇

職人日雇

職人日雇徴〔大工・畳屋・結髪女・縫裁婦など雇人帳〕 中埜半左衛門 明治一〇年二月（明治一二年）

職人日雇帳 中埜氏宮繕課 明治二二年二月

職工日雇勘査帳 中埜半左衛門 明治一三年一月（明治一八年）

職工日雇帳 中埜氏宮繕課 明治一四年二月（明治一五年）

職工日雇帳〔大工・左官・庭師・畳屋など〕 中埜氏會計課 明治一八年二月

職人日雇帳〔大工・庭師・左官・石工・下女・畳屋など〕 中埜氏 明治一九年二月

職工日雇帳〔大工・庭師・左官・小僧など〕 中埜氏 明治一〇年一月

記（雇日書上）

記（彦作ら七人雇入日書上）（明治二二年）

飯米出納帳

飯米出納帳 中埜氏會計課 明治一三年一月

飯米出納帳 中埜氏 明治一八年一月

飯米出納帳 中埜氏 明治一九年二月

飯米出入帳 中埜氏會計課 明治二二年一月

年内入用帳・家内入用帳

年内入用帳〔家内入用、地主経営人用など勘定帳〕 中埜半左衛門 弘化二年正月

年内入用帳〔家内入用、地主経営人用など勘定帳〕 中埜半左衛門 嘉永七年正月

家内雑用帳〔家内入用書上勘定書〕 中埜半左衛門 天保六年正月

家内入用帳（中埜半左衛門） 天保七年

家内入用帳（中埜半左衛門） 天保九年正月

家内入用帳 中埜半左衛門 天保一二年正月

家内入用帳 中埜半左衛門 天保一三年正月

家 普 請

岩滑村伴吉別宅入用記〔伴吉別宅買取移築入用帳〕 明治元年冬

※上（座敷一棟移築代金ニ付書状） 卯吉

信仰・学芸

祠堂淨財領納証〔小栗半左衛門家内祠堂永代大施餓鬼修行ニ付〕 光照院住職中講義柴田證全 半田村戸長役場宛 明治一六年五月

附・証〔小栗平左衛門祠金位牌料受取書〕 光照院住職柴田證全 半田村戸長役場宛 明治一六年五月

（寺院預り金差引勘定覚） 中埜半左衛門 明算宛 午三月

誓約之事（音曲表組伝授誓約文） 貞（瓜印） 於春宛 天保二年正月

起請文之事（相伝三曲之大秘伝授起請文） 国分奈代 於春宛 天保一〇年一〇月

横長半 一冊 二八三

横長半 一冊 二八三

横長半 一冊 二八四

横長半 一冊 二八五

横長半 一冊 二八六

横長半 一冊 二八七

横半半折 一冊 三〇〇

小切紙 一通 六七二

包紙入 一通 三〇

横長半 一冊 三六

横長半 一冊 三七

横長半 一冊 三七

横長半 一通 七六

横長半 一通 七六

横長半 一通 七六

横長半 一冊 二六二

医療

諸葉按摩帳〔家内投薬日々書留〕 中埜氏 明治一九
年二月（明治二十一年）

横長半
（表紙厚紙） 一冊 五〇四

音信

（書狀類綴）（江戸）明治

一綴
（三二通） 七〇〇

資産勘定

年内勘定帳

年内勘定帳（年内収支総勘定帳） 中野半左衛門 天
保七年極月

横長美 一冊 二〇一

年内勘定帳 中野半左衛門 天保八年極月

横長美 一冊 二〇二

年内勘定帳 中野半左衛門 天保九年極月

横長美 一冊 二〇三

年内勘定帳 中野半左衛門 天保一〇年極月

横長美 一冊 二〇四

年内勘定帳 中野半左衛門 天保一一年極月

横長美 一冊 二〇五

年内勘定帳 中野半左衛門 天保一二年極月

横長美 一冊 二〇六

年内勘定帳 中野半左衛門 天保一三年極月

横長美 一冊 二〇七

年内勘定帳 中野半左衛門 天保一四年極月

横長美 一冊 二〇八

年内勘定帳 中野半左衛門 弘化元年極月

横長美 一冊 二〇九

年内勘定帳 中野半左衛門 弘化二年極月

横長美 一冊 二一〇

年内勘定帳 中野半左衛門 弘化三年極月

横長美 一冊 二一一

年内勘定帳 中野半左衛門 弘化四年極月

横長美 一冊 二一二

年内勘定帳 中野半左衛門 嘉永元年極月

横長美 一冊 二二三

年内勘定帳 中野半左衛門 嘉永二年極月

横長美 一冊 二二四

年内勘定帳 中野半左衛門 嘉永三年極月

横長美 一冊 二二五

年内勘定帳 中野半左衛門 嘉永四年極月

横長美 一冊 二二六

年内勘定帳 中野半左衛門 嘉永五年極月

横長美 一冊 二二七

年内勘定帳 中野半左衛門 安政四年極月

横長美 一冊 二二八

年内勘定帳 中野半左衛門 万延元年極月

横長美 一冊 二二九

年内勘定帳 中野半左衛門 文久元年極月

横長美 一冊 二三〇

年内勘定帳 中野半左衛門 元治元年極月

横長美 一冊 三三一

年内勘定帳 中野半左衛門 明治二年極月

横長美 一冊 三三二

年内勘定帳 中野半左衛門 明治六年極月

横長美 一冊 三三三

年内勘定帳 中野半左衛門 明治七年一二月

横長美 一冊 三三四

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一一年一二月

横長美 一冊 三三五

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一二年一二月

横長美 一冊 三三六

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一三年一二月

横長美 一冊 三三七

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一四年一二月

横長美 一冊 三三八

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一五年一二月

横長美 一冊 三三九

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一六年一二月

横長美 一冊 三四〇

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一七年一二月

横長美 一冊 三四一

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一八年一二月

横長美 一冊 三四二

年内勘定帳 中野半左衛門 明治一九年一二月

横長美 一冊 三四三

年内勘定帳	中埜半左衛門	明治二〇年二月	横長美	一冊	五〇三	年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治四〇年二月	横長美	一冊	四九二	
年内収支決算帳	中埜半左衛門泰逸	明治二一年一月	横長美	一冊	四七四	年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治四三年二月	横長美	一冊	四九三	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二二年二月	横長美	一冊	四七五	差引簿(資産差引勘定帳)	中埜半左衛門	明治二九年一月	美(罫紙)	一冊	五六三	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二三年二月	横長美	一冊	四七六	(資産差引勘定帳)	中埜半左衛門	明治三一年	美(罫紙)	一冊	五八	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二四年二月	横長美	一冊	四七七	(資産差引勘定帳)	(中埜半左衛門)	明治三七年	美(罫紙)	一冊	五九一	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二六年二月	横長美	一冊	四七八	(中埜銀行口座金勘定)	中埜	(明治)	美(罫紙)	一冊	五九二	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二七年二月	横長美	一冊	四七九	(貸借金勘定)	(明治)		横切紙	一通	五九三	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二八年二月	横長美	一冊	四八〇	為替尻貸借勘定表	中埜銀行	明治四〇年六月二三日	洋紙	一通	五九四	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治二九年二月	横長美	一冊	四八一	(資産差引勘定元帳)	(中埜半左衛門)	明治三七年	美(罫紙)	一通	五六一	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三〇年二月	横長美	一冊	四八二	(当座勘定差引決算通知)	中埜銀行	中埜半左衛門宛	明治三七年	堅(活版)	一通	五〇二
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三一年二月	横長美	一冊	四八三	(借用金勘定)	(明治)			一通	五〇三	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三二年二月	横長美	一冊	四八四	(半田村第四区御預ケ金校舍建築のため元利共返却通知)	半田町長	中埜半左衛門宛	明治四〇年九月二三日	堅(罫紙)	一通	五〇四
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三三年二月	横長美	一冊	四八五	(資産差引勘定帳)	中埜半左衛門	明治四五年	美(罫紙)	一冊	五六一	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三四年二月	横長美	一冊	四八六	年内勘定總計下調帳	明治八二四年		横長半	一綴	五三	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三五年二月	横長美	一冊	四八七	年内總勘定下調(明治七分分)	明治八年五月		横長半		五三二七	
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三六年二月	横長美	一冊	四八八							
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三七年二月	横長美	一冊	四八九							
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三八年二月	横長美	一冊	四九〇							
年内収支決算帳	中埜半左衛門	明治三九年二月	横長美	一冊	四九一							

歲計貸借調査帳 中埜半左衛門 明治三十六年〜三十九年

横長美 一冊 五二

釀造業

酒造

(酒造株証文写) (酒造高三百石) 勘定奉行所知
多郡横須賀町方善八郎宛 文久二年一月二日

包紙入 堅切紙 一通 六九二

譲渡申証文之事 (酒造蔵屋敷建物不残譲渡証文)
譲り主中野又左衛門、証人小栗富治郎 中埜半左衛門宛 慶応元年九月

包紙入 堅紙 一通 六九三

午冬造酒分壬申五月勘定帳 (収支勘定帳) 中野蔵所三文字 明治三年五月

横長半 一冊 三〇〇

辛未三月勘定帳 三文字平六 明治四年

横長半 一冊 二九六

有荷調差引勘定 三文字平六 明治四年三月

横長半 一冊 二九六

未三月釀揚勘定帳 三文字平六 明治四年

横長半 一冊 二九六

庚午冬造酒勘定帳 三文字平六 明治四年一月

横長半 一冊 三〇二

明治四年未冬造分酒釀揚ケ勘定帳 中野蔵所三文字 明治五年五月

横長半 一冊 三〇二

有物引合勘定帳 (貸借などを含む家資産の勘定) 中野蔵所三文字 明治五年五月

横長半 一冊 一七〇

明治四年未冬造酒癸酉五月勘定帳 中野三文字 明治六年五月

横長半 一冊 三〇三

有物調勘定帳 三文字 明治六年五月

横長半 一冊 二九七

明治五年壬申冬釀造酒分甲戌五月勘定帳 三文字 明治七年五月

横長半 一冊 三〇四

酉冬清酒釀造勘定帳 三文字 明治七年五月

横長半 一冊 三〇六

有物調勘定帳 三文字 明治七年五月

横長半 一冊 二九八

明治六年酉冬釀造酒分乙亥五月勘定帳 三文字 明治八年五月

横長半 一冊 三〇五

有物調勘定帳 三文字 明治八年五月

横長半 一冊 二九八

亥冬造酒勘定帳 明治二二年四月

横長半 一冊 三〇〇

豊啓店 (味噌)

子冬造酒・丑年造味噌溜勘定帳 明治二三年四月

横長半 二冊 五五五

味噌溜勘定帳 明治二四年一月

横長半 一冊 五五一

味噌会所勘定帳之写 明治二六年

横長半 一冊 五五五

卯年内味噌溜勘定帳 ⑨味噌会所 明治二五年一月改

横長半 一冊 五五二

味噌会所勘定帳之写 元緒小栗富治郎 中埜半左衛門宛

横長半 一冊 五五三

未年内勘定帳 (味噌) 豊啓店 明治二九年一月

横長半 一冊 五〇四

申年内勘定帳 (味噌) 豊啓店 明治三〇年一月

横長半 一冊 五〇五

酉年勘定帳 (味噌) 豊啓店 明治三二年一月

横長半 一冊 五〇六

決算帳 (醬油) 豊啓社 明治三三年四月〜明治三四年三月

横長半 一冊 五五二

三三年度利益配当案 豊啓店 (明治三三年)

横紙用箋 一通 五五二

大松屋

大松屋出金中野半左衛門 (酒造) 勘定元増三郎や店 嘉永六年

横長半 一冊 五五七

丸三麦酒

丸三麦酒株式会社発起目録見書 明治一九年三月 半(野紙) 一冊 三六

浜島木綿店

店勘定目録

店勘定目録 (木綿繰綿)	浜島茂兵衛	明治三年七月	横半半折	一冊	二八
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治四年七月	横半半折	一冊	二九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治五年七月	横半半折	一冊	二九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治六年七月	横半半折	一冊	五六
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治七年七月	横半半折	一冊	二九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治八年七月	横半半折	一冊	二九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治九年七月	横半半折	一冊	二九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治一〇年七月	横半半折	一冊	五七
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治一一年七月	横半半折	一冊	五八
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治一二年七月	横半半折	一冊	五九
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治一三年七月	横半半折	一冊	五〇
店勘定目録	浜島茂兵衛	明治一四年七月	横半半折	一冊	五一
店勘定目録	浜島木綿店茂兵衛	明治一五年七月	横半半折	一冊	五二
店勘定目録	浜島木綿店茂兵衛	明治一六年七月	横半半折	一冊	五三
臨時店勘定帳	浜島木綿店茂兵衛	明治一六年一 月	横半半折	一冊	五四

店勘定目録 浜島木綿店茂兵衛 明治一七年七月 横半半折 一冊 五七

店勘定目録 浜島店茂兵衛 明治一七年一〇月 横半半折 一冊 六四〇

○ (浜島木綿店売上品勘定) (明治元年) 横折紙 一通 六五

白・玄米請渡記 浜島御店三浦国吉 明治一七年八月 横半半折 一冊 五五

書狀 (船難事ノ件金員弁償之所、証書受領決議ニ付借用証書送付依頼、および借用証書雛型) 東京駿河町三越綿店 尾張国半田浜島伝右衛門宛 明治一五年五月四日 一通 六〇〇

金額借用証券 (金百十七円) 半田浜島伝右衛門 東京駿河町三越得右衛門宛 明治一五年五月二三日 縦折紙 (二綴) 一通 六三

書狀 (品代償年賦返済金皆済ニ付証書返却之旨) 東京駿河町三越綿店 浜島伝右衛門宛 明治一七年一〇月二四日 一通 六三

金銭出入帳 (木綿繰綿など取扱いニ付) 浜島 明治一七年七月作帳 (明治二一年) 半 一冊 二五

(有金勘定書) (明治一八年カ) 縦紙 (野紙) 一通 二五

店 図 面

(浜島店買入地所元図面) (慶応四年二月味淋屋喜七より買入) 65×95cm 一鋪 七五

休 業

浜島諸道具附立帳 立合人孝助・昇松・植助 明治一八年四月五日 横長半 一冊 六四

(浜島木綿店関係領収書等綴) 明治 (一八年) 小切紙 (九綴) 六三

浜島殘品配分品 元締中野半左衛門 明治一八年八月一八日

浜島諸道具売立金書拔(藤田茂兵衛へ売却、代金三百円余) 明治二〇年九月二二日

旧浜島木綿店半六差引 中野半六 中野半左衛門宛 明治二〇年九月二四日

記(配当金請取) 中野又左衛門 中埜半左衛門宛 明治二〇年九月二五日

(浜島木綿店暫ク休業之處、今般当地藤田茂兵衛へ相続方委任ニ付書状写) 中野半六 知多郡木綿問屋行司中島七右衛門宛 明治二〇年二月一五日

(浜島木綿店整理関係書類) (明治二〇一二年)

(浜島木綿店休業之處、今般木綿売買一切之事務当地藤田茂兵衛へ委任ニ付書状写) 浜島半六 東京呉服木綿問屋組合事務所宛 明治二一年一月一二日

(浜島木綿店休業之處、今般藤田茂兵衛へ委任ニ付書状写) 浜島半六 大伝馬町行事宛 明治二一年一月

(浜島木綿店諸道具払勘定) 中埜酢店 浜島家懸り中宛 明治二一年五月

浜島取換金 中野半六 浜島御仲間中宛 明治二一年五月

(配当金など勘定) (明治二一年力)

横切半半折 一冊 四四三

半(罫紙)一冊 四四二

半(罫紙)一冊 四四一

小切紙 一通 二五二

横切罫紙 一通 三六

一綴(五通) 三六

横切罫紙 一通 三七

横切罫紙 一通 三八

横切罫紙 一通 三九

横長半 一冊 四三

横切紙 一通 二五五

半田倉庫

起業・定款

(半田倉庫合資会社創立并定款更正許可書) 愛知県知事岩村高俊 半田町小栗三郎外一〇名宛 明治二四・二五年

半田倉庫合資会社契約書 知多郡半田町小栗三郎外九名 明治二五年七月六日

半田倉庫合資会社定款 半田倉庫合資会社社員中埜半六外六名 明治三二年六月三〇日

社屋建設

半田倉庫合資会社建築費仕払帳 明治二九年三月

半田倉庫合資会社建築費仕訳簿 明治二九年三月

半田倉庫見積り目細書 半田町小栗徳治郎 半田倉庫合資会社新築係榊原孝助宛 明治二九年四月

請負証(倉庫四棟新築請負) 半田町小栗徳次郎 半田倉庫合資会社新築係榊原孝助宛 明治二九年五月三〇日

(半田倉庫新築ニ付石垣・高塀など見積) 服部光二 半田倉庫合資会社新築係中宛 (明治二九年)

倉庫仕様書(附・図面三点) (小栗徳次郎) (明治二九年力)

半田倉庫合資会社御店及ヒ門見積り目細書 半田小栗徳次郎 明治三〇年一月

油倉・火鉢場見積り書 小栗徳次郎 半田倉庫合資会社新築係榊原幸助宛 明治三〇年三月二八日

罫紙 二通 六〇

美(罫紙)一冊 五九

美(罫紙)一冊 五〇

半(罫紙)一冊 五四

半(罫紙)一冊 五五

半(罫紙)一冊 六五

半(罫紙)一冊 六四

一綴(九通) 六二

半(罫紙)一冊 六六

半(罫紙)一冊 六七

半 一冊 六八

半田倉庫合資会社店及門地形〔倉庫新築關係〕 服部幸治郎（光二） 明治三〇年 橫長半 一冊 六三

高塀・雪隠見積り書 小栗徳二郎 半田倉庫合資会社宛（明治三〇年） 半（罫紙）一冊 六九

倉庫様ノ見積り書（明治三〇年） 半 一冊 六七

記（左官手間代金請取） 尾張半田港松孝商店 半田倉庫合資会社新築委員宛 明治三二年一月二八日 縦紙（罫紙）一通 六七

（建築・模様替諸品書上） （小栗徳治郎） 半 一冊 六七

營業

契約書（半田倉庫利用契約書） 株式会社半田米油取引所理事長小栗平蔵、半田倉庫合資会社業務担当社員中野半左衛門 明治二七年一〇月 美（罫紙）一綴（二冊） 五二

株式会社半田米穀商品取引所・半田倉庫合資会社契約書（半田米穀商品取引所の半田倉庫利用に關する契約） 半田倉庫合資会社業務担当社員中野半六、株式会社半田米穀商品取引所理事長小栗平蔵 美（罫紙）一冊 五二

約定書（愛知銀行半田支店より半田倉庫へ貸金三付） 愛知銀行半田支店支配心得鈴木常介、半田倉庫合資会社業務担当社員中野半六 明治三二年八月一三日 美（罫紙）一冊 五三

保險

（半田倉庫器材購入領収書・保險加入証書・会社敷地図など綴）（明治二九、三〇年） 一綴（六通） 六三

半田倉庫特約書（火災保險特約証書・倉庫目錄など） 日本火災保險株式會社名古屋支店、半田倉庫合資会社業務執行社員中野半左衛門（明治三〇年、四一年） 一綴 六八

金融

金銭貸借

覚（金子借用仮証文・金一〇〇兩） 三州東浦山中七左衛門 中野半左衛門宛 安政五年六月晦日 小切紙 一通 六七 四

借用申金子之事（金一〇〇兩） 金借主山中七左衛門、受人同七左衛門 中野半左衛門宛 安政三年七月 縦紙 一通 六七 四七

一札（金二〇兩返済のところ証文紛出ニ付請取一札） 中野半左衛門 小栗七左衛門宛 安政五年極月 縦切紙 一通 六七 四八

預り置申金子之事（金一〇〇兩） 中野半左衛門（三河國東浦） 山中七左衛門宛 元治元年十一月 縦切紙 一通 六九 一

預り申金子之事（金一五〇兩） 中野半左衛門 山中七左衛門宛 明治二年一〇月一〇日 小切紙 一通 六九 二

預り申金子之事（金二五〇兩） 中野半左衛門 山中七左衛門宛 明治二年十一月十五日 小切紙 一通 六九 三

預り申金子之事（金一三〇兩） 金子預り主中野半左衛門 請人陸井太右衛門 橋本和七宛 明治四年四月 縦紙 一通 六九 四

質地書入借用申金子証文之事（金五〇〇兩・質物中野半左衛門より下佐脇新田一兩） 金主借用主半田村板阪屋幸助、質主証人中野半左衛門 中尾重右衛門宛 慶応二年九月 縦紙 一通 六七 四九

地券書入借用金証券（金二五〇〇兩） 三河國東浦借主山中七左衛門、証人中野半左衛門外三名 尾張國半田中野半六宛 明治七年一〇月 縦紙 一通 六七 五〇

借用仕金子之事（金五〇〇兩） 半田はた 小栗三郎・中野半左衛門外五名宛 明治九年五月一六日 縦紙 一通 六七 五一

証(種引当金受取証文)〔金五五〇円〕 小栗代吉 中埜半左衛門宛 明治一四年八月一七日	堅切紙 一通 六七五	借用申兩德講金之事〔金六四兩〕〔反故〕金子借用主中野半左衛門 酒榮兩德講連中宛 慶應三年一〇月	堅紙 一通 六四
借用金証券〔金二五円〕 金借用主新美兵左衛門 中埜半左衛門宛 明治一五年四月二七日	堅紙(裏紙) 一通 六七五	借用申酒榮講金之事〔金四四八兩〕〔反故切取あり〕 借用主中野半左衛門、請人小栗三郎左衛門 酒榮講連中宛 安政四年九月	堅紙 一通 六三
借用之記〔金六四五〇錢〕 半田村借用主榊原助左衛門、引受人榊原田藏 榊原久兵衛宛 明治一六年二月	堅紙 一通 六七五	大黒講頼母子帳〔文政〕天保期中野家加入の講別掛金覺) 中野半左衛門 文政七年正月	横長半 一冊 二七三
金子借用証券〔金四四五〇錢〕 半田村借用主榊原田藏、引受人榊原助左衛門 榊原久兵衛宛 明治一六年二月	堅紙 一通 六七五	地所書入年賦済金借用証券〔附図あり〕 半田村金借用主鈴木種吉、受人柴田孝治郎 光主講當番柳原孝助・小栗平藏宛 明治一七年六月	堅紙 一通 七〇
金貨借用証券〔金一〇〇円〕 成岩村今村善兵衛 榊原光助・河合仙治郎宛 明治一七年一月	堅紙 一通 六七五	一札(頼母子講満会、證文手形行衛不明措置ニ付御札一札) 北大坂屋茂右衛門 当村方頼母子御支配中野半左衛門宛 天保一五年四月	横切紙 一通 七〇
借用証〔金一二円〕 半田村借用主伊藤房次郎、保証人伊藤松三郎 半田村服部幸次郎宛 明治一七年八月二五日	堅紙(下札あり) 一通 六七五	一札(村方頼母子講満会證文紛失措置ニ付御札一札) 松左衛門事竹藏 中野半左衛門宛 嘉永四年五月	堅紙 一通 七〇
借用金証〔金一五円〕 新美兵左衛門 中埜半左衛門宛 明治二〇年三月二二日	堅紙(裏紙) 一通 六七五	定(講運宮世話料取決書)	半 一冊 四六三
借用証〔金一二五円〕 三河国碧海郡平七村油各又三郎 榊原孝助宛 明治二〇年一〇月三〇日	堅紙(裏紙) 一通 六七五	質 株	
借用金添証券(雛型)〔金一五〇〇円〕 明治二二年一〇月一日	堅紙(裏紙) 一通 六七五	(質株札御為金請取証) 鳴海陣屋 半田村半左衛門宛 天保元年六月	包紙入 一通 六九
上(座敷一棟移築代金ニ付書状) 卯吉	小切紙 一通 六七五	覚(午年質職冥加金請取覚) 質職緒方塚本源左衛門 半田村中野半左衛門宛 午一一月	小切紙 一通 六九
借用申金子之事(雛型)	堅紙(掛紙あり) 一通 六七五	覚(質職御冥加金請取覚) 世話方間瀬安兵衛 未一一月	小切紙 一通 七〇
講			
惣益講掛金請取通 半田中野半左衛門 明治四年五月	横美半折 一冊 二七五		
借用申酒榮兩德講金之事〔金二四兩〕 中野半左衛門 酒榮兩德講連中宛 明治三年一〇月二六日	堅紙 一通 六五		

地主経営(全体)

田畑諸帳面書付

田畑諸帳面書付類入	中野半左衛門	文政一二年	折込帳入	一一冊	七五四
。覚(灰俵代金勘定覚)	村方増蔵	中野半左衛門宛 丑(文政一二年)三月	横切継紙	一通	七五四
。覚(灰俵駄賃勘定)	増蔵	中野半左衛門宛 丑(文政一二年)三月	横切継紙	一通	七五四
。覚(納米差引勘定)	岩滑村久助	下半田村中野半左衛門宛 丑(文政一二年)五月	横切継紙	一通	七五四
。子年御年貢勘定帳	(乙川庄右衛門組)	中野半左衛門扣 文政一一年一二月	横長半	一冊	七五四
。覚(米代金差遣シニ付書状)	乙川組頭庄右衛門	半田村中野半左衛門宛 丑(文政一二年)五月二八日	巻紙	一通	七五四
。新田御年貢米(新田御年貢米差引勘定帳)	北あらい伊助	中野半左衛門宛 子(文政一一年)一二月二九日	横長半	一冊	七五四
。覚(差引金銭差上覚)	円六	半田半左衛門宛 丑(文政一二年)七月二五日	小切紙	一通	七五四
。覚(中間田人足代など勘定)	円六	下半田村中野半左衛門宛 丑(文政一二年)七月	小切紙	一通	七五四
。覚(掟米差引勘定残金差上覚)	沢田清兵衛	中野半左衛門宛(文政一二年カ)正月五日	横切継紙	一通	七五四
。覚(子年新開掟米差上覚)	沢田清兵衛	中野半左衛門宛 子(文政一一年)一〇月二九日	横切紙	一通	七五四
。 (反別掟米など一人別書上帳)			横長半	一冊	七五四
。 (新開道并道切込地代金書上)	成岩村役人	中野半左衛門宛 丑(文政一二年)四月	横長半	一冊	七五四
。 測量御用人足帳	布土村庄屋頼三郎		横長半	一冊	七五四
。 附・測量御用勘定中入用帳	布土村庄屋頼三郎		横長半	一冊	七五四
。 子盆前払方(金銭支払帳)	(文政一二年)		横長半	一冊	七五四
。 終山田畑掟米帳(大府村終山分)	文政一一年一二月		横長半	一冊	七五四
。 覚(岩滑村分小作米年貢など差引勘定覚)	小作支配久助	中野半左衛門宛 子(文政一一年)一二月	横切継紙	一通	七五四
。 掟米取建目録勘定帳(村々総小作地)	中野半左衛門 文政一一年一二月		横長半	一冊	七五四
。 子年田畑小作掟米取立帳	乙川村兵九郎	中野半左衛門宛 文政一一年極月	横長半	一冊	七五四
。 子年掟米取納帳	岩滑村支配人榊原久助	下半田村中野半左衛門宛 文政一一年九月	横長半	一冊	七五四
。 田畑諸帳面書付類入	中野半左衛門	文政一二年	折込帳入	九冊一通	七五四
。 折戸勘六田地埋人足帳	岩滑新田善右衛門ひか	文政一二年三月一七日	横長半	一冊	七五四
。 丑新田検見帳	文政一二年一〇月		横長半	一冊	七五四
。 掟米定徳米取建録(村々総小作地)	中野半左衛門 文政一二年一二月		横長半	一冊	七五四
。 小作米御年貢目録帳	岩滑村支配人久助	下半田村中野半左衛門宛 文政一二年一二月	横長半	一冊	七五四

。丑年田畑小作掟米取立帳 乙川村伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文政一二年極月	橫長半 一冊 七五五
。覚(小作人へ塩灰木之灰など遣方代金勘定覚) 岩新田兵左衛門 半田中野半左衛門宛 丑(文政一二年) 一二月	横切継紙 一通 七五五
。丑年御年貢勘定帳 乙川庄右衛門組 中野半左衛門宛 文政一二年一二月	橫長半 一冊 七五七
。柊山田畑掟米帳(大府村) 文政一二年一二月	橫長半 一冊 七五八
。柊山江端検見帳 中野半左衛門、改人榊原久助・定助 文政一二年九月	橫長半 一冊 七五九
。佐脇村本田新田御年貢目録メ出シ帳 半田村地主中野半左衛門代久助 文政一二年一〇月	橫長半 一冊 七五〇
。田畑諸帳面書附之類入 中野半左衛門 文政一三年(天保元年)	八冊・一綴・九通 七五〇
。 (小作米取立年貢勘定書類綴) (文政一三年)	一綴 (二冊・一〇通) 七六一
。覚(師崎村より布土村へ船道具など貸附物覚)	橫長半 一冊 七六一
。 (酒など諸品代勘定書)	横折紙 一通 七六三
。寅年御年貢差引目録 南組支配兵吉・当役庄助半左衛門宛 文政一三年一二月	橫長半 一冊 七六四
。覚(丑年貢過納分差上覚) 久助 中野半左衛門宛 (文政一三年) 六月二二日	横切紙 一通 七六五
。覚(木皿など品々損料書上)	橫長半 一冊 七六六
。 (灰代金勘定書上) 増蔵 中野半左衛門宛 (文政一三年) 寅五月	橫長半 一冊 七六七
。覚(灰代勘定覚) 増蔵 中野半左衛門宛 (文政一三年) 一二月二六日	横切紙 一通 七六八
。 (大府村作人納米勘定)	横折紙 一通 七六九
。 (作人年貢諸勘定) (天保元一二年)	横折紙 一通 七七一〇
。覚(大府村古家買請建直し経費書上) (天保二年) 一二月四日	横折紙 一通 七七一
。覚(田とこしめ人足など勘定、及び江端・柊山灰駄賃勘定)	横折紙 一通 七七一
。覚(堤直シ人足諸役銀書上、江端・柊山灰駄賃勘定) 助三郎 中野半左衛門宛 寅年(文政一三年)	横折紙 一通 七五二三
。寅年御三役銀覚 中野半左衛門宛 寅年(文政一三年)	横折紙 一通 七五二四
。寅年御年貢勘定帳 乙川組頭庄右衛門 半田村中野半左衛門宛 天保元年一二月	橫長半 一冊 七五二五
。掟米取立目録帳(村々総掟米) 中野半左衛門 文政一三年一二月	橫長半 一冊 七五二六
。寅年田畑小作掟米取立帳(乙川村) 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 天保元年極月	橫長半 一冊 七五二七
。柊山田畑掟米取立帳(大府村柊山) 文政一三年一二月	橫長半 一冊 七五二八
。田畑諸帳面書附之類 中野半左衛門 天保二年	折込帳入 一三冊 七五七
。覚(御払居米代金請取覚) 美濃屋惣兵衛 中野半左衛門宛 子(文政一一年カ) 一二月	横切紙 一通 七五七一
。 (御年貢取立当年より嚴重取計ニ付達書) (天保元年) 丑五月	縦紙 一通 七五七二
。諸所田畑収納米帳 中野半左衛門 天保二年一二月	橫長美 一冊 七五七三

○ 覚(岩滑村子丑掟米不納分取立帳) (文政一一・一二二年分)	横長半	一冊	七五七四
○ 寅年岩滑村掟米不足(分取立帳) (天保元年)	横長半	一冊	七五七五
○ 卯年御年貢不足扣帳(岩滑・植木・乙川村) 中野半左衛門 卯(天保二年) 一一月	横長半	一冊	七五七六
○ (納米取立覚)	横長半	一冊	七五七七
○ 丑新田田検見帳 有脇村 天保二年一〇月	横長半	一冊	七五七八
○ 掟米取建目録帳(村々総掟米) 地主中野半左衛門 天保二年一二月	横長半	一冊	七五七九
○ 田畑掟米取米勘定帳(岩滑村分) 地主中野半左衛門 天保二年九月	横長半	一冊	七五八〇
○ 成岩村北新田反畝掟扣へ帳 半田村中野半左衛門 天保二年二月	横長半	一冊	七五八二
○ 柁山田畑掟米帳 天保二年一一月	横長半	一冊	七五八三
○ 柁山・江端地検見帳 中野半左衛門、支配人助三郎、差添人増藏・定助 天保二年	横長半	一冊	七五八三
○ 卯歲御年貢勘定帳 中野半左衛門 天保二年一二月	横長半	一冊	七五八四
○ 卯年田畑小作掟米取立帳(乙川村) 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 天保二年極月	横長半	一冊	七五八五
田畑諸帳面書付之類入 中野半左衛門 天保三年	折込帳入 綴・四通	一冊	七五八六
○ 柁山・江端掟米取建帳 天保三年一一月	横長半	一冊	七五八七
○ 新開掟米取立目録帳(北新居) 差配伊助 半左衛門宛 天保三年一一月	横長半	一冊	七五八八
○ 辰年田畑小作掟米取立帳(乙川村) 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 天保三年一一月	横長半	一冊	七五八三
○ (耕地毎反別掟米書上)	横切縫紙	一通	七五八四
○ (東古浜田地作人掟米覚)	小切紙	一通	七五八五
○ (西小浜田地作人掟米覚)	小切紙	一通	七五八六
○ (子見取西古浜分反別掟米覚)	小切紙	一通	七五八七
○ 掟米取建目録帳(村々総掟米) 中野半左衛門 天保三年一二月	横長半	一冊	七五八八
○ 辰歲御年貢勘定帳(乙川村兵九郎) 中野半左衛門 天保三年一二月	横長半 (貼紙あり)	一冊	七五八九
○ 諸所田畑収納米帳 中野半左衛門 天保三年一二月	横長美	一冊	七五九〇
○ 辰年内輪検見帳 半田村中野半左衛門 天保三年一〇月	横半半折	一冊	七五九二
○ 辰年検見帳(大府村柁山) 中野半左衛門 天保三年一〇月	横半半折	一冊	七五九三
○ (小作米取立年貢勘定書類綴) (天保三年)	綴・九通	一冊	七五九三
○ 田畑雜入用書留(小作地所持村々) 中野半左衛門 天保三年正月	横長半	一冊	七五九四
○ 岩滑村掟帳 地主中野半左衛門 天保三年九月	横長半	一冊	七五九五
田畑諸帳面書附之類入 中野半左衛門 天保四年	折込帳入 綴・四通	一冊	七五九六
○ 諸所田畑収納米帳 中野半左衛門 天保四年一二月	横長美	一冊	七五九一

。覚（宿泊賃など請取覚） 布袋屋仁左衛門 中野半左衛門・文平宛 二月一〇日	巻紙 一通 七五九二	田畑諸帳面書付之類入 中野半左衛門 天保五年	折込帳入 八冊・一綴 七六〇
。覚（助治郎など反別・掟米・検見引覚）	横切継紙 一通 七五九三	。御年貢諸役高懸リ上納（下佐脇村、同新田之内半左衛門分上納高書上）	半 一冊 七六〇一
。田畑諸雜用控帳 中野半左衛門 天保四年正月	横長半 一冊 七五九四	。午歳御年貢勘定帳 中野半左衛門 天保五年二月	横長半 一冊 七六〇二
。天保四已年振帳表覚（天保三辰年振帳写とも） 岩滑村組頭金兵衛 下半田村中野半左衛門宛 午（天保五年）正月	横長美 一冊 七五九五	。午年田畑小作掟米取立帳（乙川村） 向山兵九郎 中野半左衛門宛 天保五年二月	横長半 一冊 七六〇三
。午年検見（柵山分） （天保五年）	横折紙 一通 七五九六	。柵山・江端掟米取建帳 天保五年極月	横長半 一冊 七六〇四
。歳暮大宝恵（文政二二年・天保元年分） （天保元年カ）	横長半 一冊 七五九七	。岩滑新田子作人中江夫食米遣シ帳 地主中野半左衛門、差支人新美兵左衛門 天保五年五月	横長半 一冊 七六〇五
。おほへ（粉高書上） 丸屋久兵衛 中野半左衛門宛（天保四年カ）	横切継紙 一通 七五九八	。田畑雜用帳 地主中野半左衛門 天保五年正月	横長半 一冊 七六〇六
。已年麦年貢取立勘定 当番庄右衛門・金兵衛 中野半左衛門宛 已（天保四年）七月四日	一綴 七五九九	。丑新田検見帳 有脇村 天保五年一〇月	横長半 一冊 七六〇七
。掟米取建目録帳（村々総掟米） 中野半左衛門 天保四年二月	横長半 一冊 七六〇〇	。丑新田掟米計帳 有脇村吉兵衛 天保五年十一月	横長半 一冊 七六〇八
。岩新用已年検見分立帳 中野半左衛門、改人新美兵左衛門・定助 已（天保四年）九月	横長半 一冊 七五九二	。掟米年貢勘定書類綴 （天保五年）	一綴 七六〇九
。已年新田御年貢目録帳 北新居差配伊助 中野半左衛門宛 天保四年極月	横長半 一冊 七五九三	田畑諸帳面書附之類	（四冊・三一綴） 七六〇九
。已歳御年貢勘定帳 中野半左衛門 天保四年二月	横長半 一冊 七五九三	。検見合附留（大府村柵山扣地） 中野半左衛門内定助・村木増藏・江端助三郎 天保七年九月	折込帳入 七冊・一綴 七六一
。柵山・江端検見帳 中野半左衛門、支配人助三郎、差添人増藏・定助 天保四年九月	横長半 一冊 七五九四	。検見合附留（乙川村扣地） 中野半左衛門内定助・文平・支配人兵九郎 天保七年九月	横半半折 一冊 七六一二
。柵山・江端掟米取建帳 天保四年霜月	横長半 一冊 七五九五	。検見合附留（岩滑村扣地） 中野半左衛門内定助、差添人成岩太助 天保七年九月	横半半折 一冊 七六一三
。已年田畑小作掟米取立帳（乙川村） 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 天保四年二月	横長半 一冊 七五九六	。検見合附留（岩新田扣地） 中野半左衛門内定助、支配人差添兵左衛門 天保七年九月	横半半折 一冊 七六一四

○(後申見取東大手堤普請人用割付書)	横切紙	一通	七六一五
○(納米勘定書)	小切紙	一通	七六一六
○(納米勘定書)	小切紙	一通	七六一七
○(岩滑村検見合附留)	横長半	一冊	七六一八
○(柗山・江端掟米取建帳〔大府村分〕)	横長半	一冊	七六一九
○(申年田畑小作掟米取立帳〔乙川村〕)	横長半	一冊	七六二〇
○(野半左衛門宛 天保七年二月)	横長半	一冊	七六二一
○(掟米年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六二二
田畑諸帳面書附之類	折込帳入綴・三通	六冊・一通	七六二三
○(未年検見覚〔半田村力〕)	横長半	一冊	七六二四
○(村木・江端・岩滑・柗山坪切覚)	横長半	一冊	七六二五
○(覚〔掟米高書上〕)	横長半	一冊	七六二六
○(未歲御年貢勘定帳〔乙川村〕)	横長半	一冊	七六二七
○(天保六年二月)	横長半	一冊	七六二八
○(柗山・江端掟米取建帳)	横長半	一冊	七六二九
○(未年田畑小作掟米取立帳〔乙川村〕)	横長半	一冊	七六三〇
○(野半左衛門宛 天保六年二月)	横長半	一冊	七六三一
○(半田村榮太郎丑年分年貢諸役、助三郎上納二付請取)	横折紙	一通	七六三二
○(半田村榮太郎子年分年貢諸役、助三郎上納二付請取)	横折紙	一通	七六三三

○(半田村榮太郎亥年分年貢諸役、助三郎上納二付請取)	横折紙	一通	七六三四
○(大府村庄屋 一二月一七日)	一綴	一冊	七六三五
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六三六
田畑諸帳面書附之類	折込帳入綴・三通	六冊・一通	七六三七
○(検見合附留〔岩滑新田扣〕)	横長半折	一冊	七六三八
○(成岩太助、支配人兵左衛門)	横長半折	一冊	七六三九
○(検見合附留〔岩滑村扣地〕)	横長半折	一冊	七六四〇
○(差添入成岩村太助)	横長半折	一冊	七六四一
○(西年検見帳〔乙川村〕)	横長半折	一冊	七六四二
○(天保八年九月)	横長半折	一冊	七六四三
○(検見合附留〔大府村柗山扣地〕)	横長半折	一冊	七六四四
○(天保八年九月)	横長半折	一冊	七六四五
○(人足覚帳〔堤普請人足覚帳〕)	横長半	一冊	七六四六
○(彦吉 天保八年二月三日)	横長半	一冊	七六四七
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六四八
田畑諸帳面書附之類	折込帳入綴・三通	六冊・一通	七六四九
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六五〇
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六五一
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六五二
○(掟米・年貢勘定書類綴)	一綴	一冊	七六五三

○(掟米・年貢勘定書類綴) (天保一二年)	一綴 七四一四 (三冊・二四通)	田畑塩浜掟帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川村) 中野半左衛門 文化一二年正月	横長半 一冊 三六
○(掟米・年貢勘定書類綴) (天保一三年)	一綴 七四一五 (二冊・三通)	田畑塩浜掟帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川村) 中野半左衛門 文化一二年	横長半 一冊 三九
○(掟米・年貢勘定書類綴) (天保一四年)	一綴 七四一六 (三冊・二八通)	田畑掟米帳(半田上下、岩滑村、成岩村) 中野半左衛門 文化一四年九月	横長半 一冊 三三
○數万覺帳(人足覺帳) 孫右衛門 子(天保一一年)二月	横長半 一冊 七四一七	田畑掟米帳(半田上下、成岩村、岩滑村) 中野半左衛門 文政元年九月	横長半 一冊 三三
○(人足覺帳) 子(天保一二年)	横長半 一冊 七四一八	田畑掟米帳(半田上下、成岩村、岩滑村など) 中野半左衛門 文政二年九月	横長半 一冊 三三
○(年貢諸掛札)	一綴 七四一九	田畑掟米帳(半田上下、成岩村、岩滑村、乙川村など) 中野半左衛門 文政三年九月	横長半 一冊 三四
○(年貢諸掛札)	一綴 七四二〇	田畑掟米取立帳(半田村、成岩村、岩滑村、乙川村など) 尾州半田中埜半左衛門 文政四年九月(表紙厚紙)	横長半 一冊 三五
年貢米目録帳	横長半 一冊 二	掟米取立帳(半田村、岩滑村、成岩村、乙川村など) 中野半左衛門 文政五年九月(表紙厚紙)	横長半 一冊 三六
御年貢目録扣帳 中野半左衛門 文政七年九月	横長半 一冊 三	田畑掟米取立勘定帳(半田村、成岩村、岩滑村、乙川村など) 中野半左衛門 文政六年九月(表紙厚紙)	横長半 一冊 三七
御年貢米目録帳 中野半左衛門 文政八年九月	横長半 一冊 三	田畑掟米取立勘定帳(半田村、岩滑村、成岩村、乙川村など) 半田中野半左衛門 文政七年九月(表紙厚紙)	横長半 一冊 三八
御年貢米目録帳 中野半左衛門 文政一〇年九月	横長半 一冊 三	掟米請取帳(半田村、岩滑村、成岩村、乙川村など) 中野半左衛門 文政八年九月	横長半 一冊 三九
田畑掟米帳	横長半 一冊 三〇	田畑掟米帳(半田村、有脇村、岩滑村など) 中野半左衛門 文政九年九月	横長半 一冊 四〇
田畑掟扣帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川塩浜分) 中野半左衛門 文化八年九月	横長半 一冊 三五	田畑掟米帳(半田村、岩滑村、成岩村、乙川村など) 中野半左衛門 文化一〇年九月	横長半 一冊 四一
田畑塩浜掟扣帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川村) 中野半左衛門 文化九年九月	横長半 一冊 三六	田畑掟米帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川村など) 中野半左衛門 文化一〇年正月	横長半 一冊 四二
田畑塩浜掟帳(半田上下、岩滑村、成岩村、乙川村) 中野半左衛門 文化一〇年九月	横長半 一冊 三七		

掬米收入帳

(掬米收入帳)〔村々掬米一人別取立帳〕 左衛門 明治一七年二月	(中埜半左衛門)	横長美	一冊	四五八
掬米收入帳〔裏表紙欠損〕 中埜半左衛門 明治一八年二月		横長美	一冊	四五七
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治二二年二月		横長美	一冊	四五八
戊子歲掬米收入帳〔成岩村分〕 支配人本美李三・ 蟻川治三郎 明治二二年二月		横長美	一冊	四五九
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治二二年二月		横長美	一冊	四六〇
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治三三年二月		横長美	一冊	四六一
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治三九年二月		横長美	一冊	四六二
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治三三年二月		横長美	一冊	四六三
掬米收入帳 中埜半左衛門 明治三四年二月		横長美	一冊	四六四
掬米收入帳 中埜氏 明治三五年二月		横長美	一冊	四六五
掬米收入帳 中埜氏 明治三六年二月		横長美	一冊	四六六
掬米收入帳 中埜氏 明治三七年二月		横長美	一冊	四六七
掬米收入帳 中埜氏 明治三八年二月		横長美	一冊	四六八
掬米收入帳 中埜氏 明治三九年二月		横長美	一冊	四六九
掬米收入帳 中埜氏 明治四〇年二月		横長美	一冊	四七〇
掬米收入帳 中埜氏 明治四一年二月		横長美	一冊	四七一
掬米收入帳 中埜氏 明治四二年二月		横長美	一冊	四七二
掬米收入帳 中埜氏 明治四三年二月		横長美	一冊	四七三

納米勘査帳

納米勘査帳 中埜半左衛門 明治一五、二七年	横長美	一冊	四三八
掬米勘査帳			

掬米勘査帳〔村々掬米一人別勘定帳〕 中埜半左衛門
明治一八年二月

各處掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治二二年二月	横長美	一冊	四四一
掬米勘査帳 中埜 明治二二年一月	横長美	一冊	四四二
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治二九年二月	横長美	一冊	四四三
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三〇年二月	横長美	一冊	四四七
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三三年二月	横長美	一冊	四四八
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三四年二月	横長美	一冊	四四九
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三五年二月	横長美	一冊	四四四
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三六年	横長美	一冊	四四五
掬米勘査帳 中埜半左衛門 明治三八年二月	横長美	一冊	四四六
掬米勘査帳 中埜氏 明治四〇年二月	横長美	一冊	四四七
掬米勘査帳 明治四二年二月	横長美	一冊	四四八
掬米勘査帳 中埜氏 明治四三年二月	横長美	一冊	四四九
(掬米勘査帳) 中埜半左衛門〔表紙欠損〕	横長美	一冊	四四六
(掬米勘査帳) 中埜氏〔表紙欠損〕	横長美	一冊	四四三
掬米出納帳			
納米出納帳〔小作地岩滑村などよりの納米出納〕 中 埜半左衛門 明治一四年二月(明治一七年)	横長半	一冊	五三〇

納米出納帳 中埜半左衛門 明治一八年一〇月

横長半 一冊 五三

掟米出納帳 中埜半左衛門 明治一九年一月

横長半 一冊 五三

掟米売却簿

売却米勘査帳〔村々掟米収納・売却高勘査〕 中埜半左衛門 明治八年（明治一四年）

横長美 一冊 五九

掟米売却簿 中埜半左衛門 明治二八年一二月（同三七年一二月）

美（縣紙）一冊 五四一

（明治二八年掟米之内越年米高書上）

一通 五四二

（明治二九年掟米之内越年米高書上）

一通 五四三

（明治三四年掟米之内売却米書上）

一通 五四四

所持地・掟米

田畑永代録〔中埜家所持田畑書上〕（文政期方）

美大 一冊 一八

證文写〔田畑買入地書上〕（文化・文政）

半 一冊 四九

（半左衛門扣地取得年別書上）（幕末）

半 一冊 四八五

（地所別反当り金高書上）

一通 四八四

（掟米年貢関係書類綴）

一綴 七九

村方支配掟米目録〔紙背文書〕 中埜半左衛門扣元治二年四月

横半半折 一冊 三〇七

覚（金錢差引勘定帳）

横長半 一冊 四六

（掟米切札）

札 二〇綴 七五一

（掟米切札）

札 一四綴 七五二

掟米・年貢差引勘定帳

歲々御年貢皆済写帳〔文政二・一一年半田村、天保元・二年岩滑村、掟米・年貢差引勘定〕 下半田村中埜半左衛門 文政二年一二月

横長半 一冊 六〇

耕宅地讓渡・地主経営（半田村）

田畑讓渡証文

（半田村田畑讓渡証文綴）（寛政三年・明治二〇年）

包紙入 一綴（四三通） 六一

。讓渡申家屋敷之事〔金一〇五兩〕 売主庄屋孫四郎外証人四人 兵吉宛 寛政三年二月

豎紙 一通 六八三

。永代讓渡申添証文之事〔家屋敷一ヶ所 金七〇兩〕 売主兵吉、証人半兵衛 利兵衛宛 寛政一一年一二月

豎紙 一通 六八四

。売渡申家屋敷之事〔金三〇兩〕 うち主八藏、証人利兵衛 三郎兵衛宛 寛政一二年八月

豎紙（掛紙あり） 一通 六八五

。借用申金子之事〔金八兩・質入畑七畝一五歩〕 金かり主伊左衛門、受人伊兵衛 利兵衛取次宛 寛政一三年二月

豎紙 一通 六八六

。売渡申田地之事〔田二一歩・金八兩二分銀一匁〕 預り主金右衛門、請人善八 弥助宛 享和二年三月

豎紙 一通 六八一

。永代讓渡申一札之事〔金五〇兩〕 借用主七右衛門 半左衛門・おくめ宛 享和二年七月

豎紙 一通 六八二

。永代売渡申田畑之事〔田畑一畝一九歩・金四兩〕 下半田村売主藤吉、証人上半田村四郎左衛門・北あらい庄屋伊助 当村孫助宛 文化一一年正月

豎紙（包紙あり） 一通 六八七

。地所売渡証(田地売渡代金八五円) 半田村売主榊原富藏 受人森又右衛門 中野半左衛門宛 明治一六年一月六日	堅繼紙	一通	六八二〇	。地所売渡証(代金九五〇円) 半田村売主小栗康吉、保証人中山武平 中野半左衛門宛 明治二三年四月二二日	堅紙	一綴	六八一〇
。耕地売渡証(代金一七円) 半田村売主渡辺喜代松、請人森松助 中野半左衛門宛 明治一六年一月二十九日	堅繼紙	一通	六八一三	。売渡証(宅地二畝一九步・代金一五八円) 半田町売渡人竹内彦左衛門 買得人中埜半左衛門宛 明治二七年二月一八日	堅紙	一通	六八一四
。土地売渡証券(稻干場二八步・代金二〇錢) 半田村売主小栗岩太郎外二名 中野半左衛門宛 明治一八年八月五日	堅繼紙	一通	六八一三	。地所売渡証(宅地三筆・代金九〇〇円) 半田町売主榊原孝助、保証人榊原孝平 中野半左衛門宛 明治二二年一月三〇日	堅紙	一綴	六八一四
。売渡証券(田地一畝二二步・代金七四円) 半田村売渡人榊原惣兵衛、保証人榊原才次右衛門 中野半左衛門宛 明治一九年四月二七日	堅繼紙	一通	六八一三	。地所売却証書(原野・代金二円) 半田町田中清八 中埜半左衛門宛 明治三〇年二月一五日	堅紙	一通	六八一三
。地所登記済証御下付願(畑地買受け地券書換三付登記証下付願) 買受人中埜半左衛門 半田登記所宛 明治二〇年二月二二日	堅紙	一通	六八一四	。地所売却証書(田地四步・代金三円六〇錢) 半田町榊原由一 中埜半左衛門宛 明治三〇年二月一日	堅紙	一通	六八一三
附・(登記料及手数料領収書) 明治二〇年二月二二日 半田登記所 中野半左衛門宛				宅地讓渡証文			
。土地売渡証券(畑地二筆・代金一三五円) 半田村売渡人鈴木市兵衛、保証人榊原長兵衛 中野半左衛門宛 明治二〇年二月二二日	堅繼紙	一通	六八一三	(半田村宅地讓渡証文) (明治一四年)	包紙入	一綴	六八一
。地所登記済証御下付願(宅地買受け地券書換出願三付登記証下付願) 半田村榊原孝助 熱田治安裁判所半田出張所宛 明治二三年三月一日	堅紙	一通	六八一三	1 証(半田村宅地売渡代金請取書) 半田村売主浜島伝右衛門、証人中埜半左衛門 小栗三郎宛 明治一四年九月二〇日	堅紙	一通	
附・(地券手数料受取証) 三月一三日 半田村戸長役場地券係榊原孝助宛				2 地所売渡証(半田村宅地一五步) 半田村売主浜島伝右衛門、証人中埜半左衛門 小栗三郎宛 明治一四年九月三〇日	堅繼紙 包紙入	一通	
。記(売渡居宅・土蔵引渡書) 半田村小栗七左衛門 小栗及兵衛宛 明治二三年三月一二日	堅紙	一冊	六八一七	3 証(半田村宅地売渡代金請取書) 半田村売主三浦六弥外証人二名 中埜半左衛門 明治一四年九月三〇日	堅紙	一通	
。請取証(宅地売渡殘金二六〇〇円請取証) 小栗七左衛門 榊原孝助宛 明治二三年三月一二日	堅紙	一通	六八一六	4 地所売渡証(半田村宅地一畝二二步) 半田村売主三浦六弥外証人二名 中埜半左衛門宛 明治一四年九月三〇日	堅繼紙	一通	

5 地所売渡証書〔半田宅地一畝二歩〕半田村売主三浦小三郎外証人一名 小栗三郎宛 明治一四年一〇月	堅繼紙	一通
6 記〔半田村宅地売渡代金請取書〕半田村三浦小三郎 小栗三郎宛 明治一四年一〇月	堅紙	一通
7 〔三浦小三郎宅地図面〕三浦小三郎 〔明治一四年一〇月〕	25.0×34.0cm	一鋪
畝高名寄并捉米目録〔田畑五ヶ年限売渡二付〕売主中野又左衛門、請人中野半六 中野半左衛門宛 天保九年三月	横長美	一冊 四三〇

共有地売買証文

〔半田村共有地所売渡証文〕 〔明治一六年一〇月〕	包紙入	一綴 六七四
1 地所売渡証書〔田地二筆・代金三一円九〇銭〕半田村売主小栗富治郎、証人小栗松助 中埜又左衛門・中埜半左衛門宛 明治一六年九月	堅繼紙	一通
2 地所売渡証書〔田一畝歩・金三〇円〕半田村売主鈴木市兵衛、保証人磯貝源六 中野半左衛門宛 明治一六年一〇月五日	堅繼紙	一通
3 地所売渡証書〔宅地二五歩・売渡代金六〇円〕半田村売主樋谷石松、保証人新美太右衛門 中野半左衛門宛 明治一六年九月	堅紙	一通
4 地所売渡証書〔田地二筆・売渡代金八二円〕半田村売主三浦六弥、証人小栗半右衛門 中野半左衛門宛 明治一六年一〇月	堅紙	一通
5 地所売渡証書〔田地三筆・代金二一三円〕半田村売主三浦六弥、証人小栗半右衛門 中埜又左衛門・中埜半左衛門宛 明治一六年一〇月	堅紙	一通
6 地所売渡証書〔田地三筆・代金二四一円〕半田村売主鈴木市兵衛、保証人磯貝源六 中野半左衛門・中野又左衛門宛 明治一六年一〇月五日	堅繼紙	一通

7 地所売渡証書〔宅地一畝二〇歩・代金三二円六七銭〕半田村売主小栗三郎、保証人小栗七左衛門 中野半左衛門宛 明治一七年一月二三日	堅繼紙	一通
8 地所売渡証書〔田地一三歩・代金一三円〕半田村売渡人中の平太夫、保証人新美久吉 中埜半左衛門宛 明治一七年四月二五日	堅紙	一通
9 地所売渡証書〔宅地一一歩・代金五五円〕半田村売主小栗又右衛門、証人榊原五平 中埜半左衛門宛 明治一七年六月九日	堅紙	一通
10 地所売渡証書〔宅地一一歩・代金三二円一銭〕半田村売主小栗末吉、証人小栗伊松 中埜半左衛門宛 明治一七年七月二九日	堅紙	一通
11 土地売渡証書〔溝敷九歩・代金二円〕半田村売渡人三浦六弥、保証人三浦六右衛門 半田村中野半左衛門宛 明治二〇年一月一五日	堅紙 (野紙)	一通

中埜又左衛門売却地建物図面

〔中埜又左衛門売却地建物図面〕 明治二八年六月二九日	鋪	三鋪 七四
1 尾張国知多郡半田村字北條廿九番第一郡村宅地式反歩中埜又左衛門持地内同町甲九百五十二番戸建物図面 半田町五六九番戸売渡人中埜又左衛門 明治二八年六月二九日	24.6×34.1m	一鋪
2 尾張国知多郡半田村字北條廿九番郡村宅地之内建物九百五拾貳番戸 〔図面〕	27.0×29.1m	一鋪
3 〔半田町北條二十九番郡村宅地之内九百五十二番地図面〕	25.0×33.1m	一鋪

耕宅地讓渡・地主経営（成岩村）

田畑讓渡証文

（成岩村田畑讓渡証文綴）（享和元年～明治三十七年）

包紙入 一綴
（二三通） 六二

1 差添一札（売渡田地ニ付差添書） 西成岩村田
売主庄助外三名 半田村半左衛門宛 享和元年一二
月

點紙
（貼紙三
点あり） 一通

附・永代ニ相渡申畑之事（下畑一反四畝一六歩・
金二九兩二分） 売主成岩村庄助外三名 下
半田村半左衛門宛 享和元年一二月

點紙
（包紙あり） 一通

2 売渡申田地之事 うり主山口正伯外三名 半田中
野半左衛門宛 文政元年一二月

點紙
（貼紙三
点あり） 一通

附・相渡し申田地之事（金四八兩二分） うり主
長右衛門外三名 山口正伯宛 享和元年一二月

點紙 一通

3 讓渡地所改正確定証書 第八区成岩村北新居惣
代蟪川重藏外三名 半田村中埜半左衛門宛 明治一
〇年九月

點紙
（買紙） 一通

4 地所売渡証券（畑一畝一步・代金一円七〇錢）
第八区成岩村売主佐藤芳太郎、受人佐藤權之 半田
村中埜半左衛門宛 明治一一年三月

點紙 一通

5 地所売渡証（成岩村田地三筆・代金二一七円二九
錢） 東端村前野小平治、半田村証人小栗康吉 半
田村柳原孝助宛 明治一一年一二月

點紙 一通

6 不動産売渡証書（田一反二五歩・代金七〇円八三
錢） 成岩村売渡人竹内專吉、保証人竹内佐次右衛
門 買請人半田村中野半左衛門宛 明治一二年五月

點紙
（貼紙あり） 一通

附・記（田地売渡代金請取金） 成岩村竹内專吉
半田村中野半左衛門宛 明治一二年五月三
〇日

小切紙 一通

7 添証券（成岩村地所売渡代請取ニ付） 売主内
海村前野小平治代理小栗康吉 中野半左衛門宛 明
治一二年五月

點紙
（下札あり） 一通

附・地所売渡証（成岩村田地三反一畝九歩・代金
一二九円一九錢） 知多郡内海村売主前野小
平治、半田村証人小栗康吉 半田村中野半左
衛門宛 明治一二年五月

點紙 一通

・地所売渡証（三名共有之内成岩村田地売渡
証文） 内海村売主前野小平治外二名 半田
村中野半左衛門宛 明治一二年五月

點紙 一通

8 売附証券（田地売渡本証券引替約定書） 成岩村竹
内佐次右衛門 伝右衛門取次中野半左衛門宛 明治
一三年一〇月二七日

點紙
（堅切紙） 一通

附・添証券（田地売渡添金受取書） 成岩村売主
竹内佐次右衛門 中野半左衛門宛 明治一三
年一〇月三十一日

點紙
（貼紙買紙
あり） 一通

・不動産売渡証券 成岩村売渡人竹内佐次右
衛門、保証人竹内佐右衛門 中野半左衛門
宛 明治一三年一二月

點紙 一通

・添証券（田地売渡添金受取書） 成岩村竹内
佐次右衛門 中野半左衛門宛 明治一三年一
一月

點紙
（買紙） 一通

9 不動産売渡証券（田地一町八反四畝一八歩・代金
九九〇円二四錢） 成岩村売渡人竹内佐次右衛門外
二名 買得人半田村中野半左衛門宛 明治一三年三
月

點紙 一通

10 田地売渡証券（田地五畝二七歩・代金二五円九錢）
成岩村河合平左衛門、保証人蟪川權四郎 中埜半
左衛門宛 明治一六年三月

點紙
（貼紙あり） 一通

附・記（田地売渡殘金受取書） 河合平左衛門
中埜半左衛門宛 三月二九日

小切紙 一通

11 不動産売渡証券（田地一反二畝歩・代金一二〇円）
成岩村売渡人杉江和助、保証人杉江松左衛門 中
埜半左衛門宛 明治一六年九月二九日

點紙 一通

- 12 添証券 (田地売渡代金受取書) 売主成岩村竹内專吉 中野多一宛 明治一九年九月九日 堅紙 一通
- 附・不動産売渡証券 (代金二三八円) 売渡人成岩村竹内專吉、保証人同村竹内直七 買得人半田村中野多一宛 明治一六年九月 堅紙 一通
- 13 請取証 (場所売渡代金請取書) 成岩村竹内佐右衛門 中野半左衛門宛 明治一八年一月 堅紙 一通
- 14 場所売渡証券 (田地一町五畝一六歩・代金七〇九円三七錢) 成岩村主竹内佐右衛門、保証人竹内佐次右衛門 半田村中野半左衛門宛 明治一八年一月 堅紙 一通
- 15 受取証 (北新開売却金受取書) 土井八藏代人新美又助 中野半左衛門宛 明治一八年一月一六日 堅紙 一通
- 附・場所売渡証券 (田地三筆・代金三〇二円九七錢) 成岩村売渡人土井八藏、請人榑原太藏 半田村買受人中野半左衛門宛 明治一八年正月 堅紙 一通
- 16 不動産売渡証券 (田地一反一畝八歩・代金一一五円) 成岩村売渡人石原作兵衛、保証人市埜孫三郎 買受人中野半左衛門宛 明治一九年四月二七日 堅紙 一通
- 17 耕地永代売渡証券 (田地一反一畝一六歩・代金一二五円) 成岩村売渡人榑原仁左衛門、保証人榑原文治郎 中野半左衛門宛 明治一九年四月 堅紙 一通
- 18 場所売渡し証券 (畑地九畝二歩・代金四〇円) 成岩村売主石田わき外一名 中野半左衛門宛 明治一九年五月 堅紙 一通
- 19 場所売渡証券 (田地五畝一九歩・代金六二円一〇錢) 成岩村売主石原專三郎、保証人大橋辰次郎 中野半左衛門宛 明治一九年五月一二日 堅紙 一通
- 20 受取証 (北新田など売渡代金受取書) 成岩村本美李三 中野半左衛門宛 明治二二年五月 堅紙 (野紙) 一通

- 21 土地姓名更正登記申請書 登記名義人中野半左衛門代人新美万七 半田区裁判所宛 明治三七年一月二二日 堅紙 (野紙) 一綴 (二通)
- 22 場所売渡証 (田地一畝一八歩・代金九四円) 成岩町榑原梅三郎、保証人榑原多三郎 半田町買得人中野半左衛門宛 明治二五年三月一日 堅紙 (野紙) 一通
- 23 (成岩村耕地地徳米勘定覚) (明治) 横切紙 一通
- 差出申一札之事 (田地買請ニ付約定一札) 西成岩村彦七 半田村半左衛門宛 嘉永七年極月 堅紙 一通
- 北新居田畑譲渡証文・新開金請取
- (成岩村北新居田畑譲渡証文并新開金請取覚) (文化二二年) (安政四年) 包紙入 一綴 (八通) 六八三
- 1 譲り渡申新開地之事 (金三〇両) 成岩村北新居讓主孫七、請人藤吉、庄屋伊助 半田村中野半左衛門宛 文化一一年 堅紙 一通
- 2 譲り渡申新開地之事 (金七二両二分) 成岩村北新居讓り主藤吉、請人伊助、庄屋孫七 半田村中野半左衛門宛 文化一一年 堅紙 (包紙あり) 一通
- 3 証文之事 (当村新開へ歩合二厘指加ニ付) 成岩村組頭孫次郎・同断四六 下半田村半左衛門宛 文化一一年二月 堅紙 (包紙あり) 一通
- 4 譲り渡申新田之事 (金一七両・一反八畝二八歩) 讓り主竹蔵、請人勘七、地仲間惣代藤吉・伊助 下半田村松四郎宛 文政二二年正月 堅紙 (包紙あり) 一通
- 5 永代譲り渡新田之事 (金一〇両二分・中田一反一畝一歩) 北新居村讓り主勘七、請人竹蔵、地仲間惣代藤吉・伊助 下半田村松四郎宛 文政二二年二月 堅紙 (包紙あり) 一通

6 一札(北新居村田畑越高手遠三付取扱い一札) 北新居村庄屋伊左衛門、組頭治助、中野半六・又 左衛門宛 文政三年正月 附・永代譲渡申田地之事(田畑四筆・金一八兩二 分)北新居村譲り主孫七外二名 中野半六・ 又左衛門宛 文政三年正月	堅紙 一通
7 譲渡申田地之事(畑二筆・金五兩) 北新居村地 譲主庄吉、請人勘七、半田村又左衛門宛 文政六年 九月	堅紙 一通
8 譲り渡申畑之事(下畑三畝・金一兩三分) 北 新居売主伊助外二名、半田村中野半左衛門宛 天 保二年九月	堅紙 一通
9 譲り渡申畑之事(下畑二四歩・金六兩) 北新居譲 り主伊左衛門、請人源右衛門、半田村又左衛門宛 天保三年二月	(貼紙あり) 一通
10 譲り渡申田地之事(金二兩三分) 北新居譲り主 佐右衛門、請人平右衛門、半田村又左衛門宛 天保 七年三月	堅紙 一通
11 譲り渡申畑之事(畑二筆・金四兩二分銀一匁五分) 北新居譲り主甚蔵、請人伊助、半田村又左衛門宛 天保七年四月	堅紙 一通
12 譲り渡申田地之事(中田一二歩・金六兩二分) 北新居譲り主孫右衛門、請人源右衛門、半田村又左 衛門宛 天保八年三月	堅紙 一通
13 譲り渡申畑之事(畑二筆・金三兩二分) 北新居譲 主紋助、請人又三郎、半田村又左衛門宛 天保八年 四月	堅紙 一通
14 譲渡申地所之事(神家人用二地所譲渡証文) 北 新居譲り主惣百姓若家治左衛門、組頭伊左衛門、庄 屋庄兵衛、中野半左衛門宛 安政三年二月	(堅紙 包紙あり) 一通
15 永代三譲渡申田地之事(田二筆・金七兩二分余) 譲主太助、請人惣五郎、安政四年正月	(堅紙 包紙あり) 一通
16 永代売渡シ申新開之事(三筆・金一五兩) 売主 惣右衛門外三名、下半田半左衛門宛 (年未詳)	堅紙 (包紙あり) 一通
17 永代三売渡シ申新開之事(新開地三筆・金一五兩) 売主仁右衛門外三名、半田半右衛門宛 (年未詳)	堅紙 一通
18 永代売渡シ申新開之事(新開地四筆・金一五兩) 売主文四郎外三名、半田半左衛門宛 (年未詳)	堅紙 一通
19 覚(新開金四兩請取覚) ならわ北孫次郎、半田 村中野半左衛門宛 戊辰三月三日	小切紙 一通
20 覚(新開金四兩受取覚) 成岩村孫次郎、半田村 半左衛門宛 戊辰三月二六日	小切紙 一通
21 覚(新開金三兩受取覚) ならハ与左衛門、中野 半左衛門宛 戊辰三月二九日	小切紙 一通
22 覚(新開金四兩請取覚) 成岩孫次郎、半田半左 衛門宛 戊辰四月二五日	小切紙 一通
23 覚(新開金四兩受取覚) 成岩村孫次郎、半田村 半左衛門宛 戊辰六月二五日	小切紙 一通
24 覚(北新居新開之内五厘分代金之内五四兩請 取覚) 蟻川孫七、中野半左衛門宛 文化二年一 二月三日	小切紙 一通
25 覚(新田金四兩請取覚) 成岩孫次郎、半田村半 左衛門宛 酉二月二八日	小切紙 一通
26 覚(新田金六兩二分請取覚) 成岩村孫四郎 半田半左衛門宛 子七月二一日	小切紙 一通
27 覚(成岩新開分一厘五毛譲渡金六兩請取覚) ならわ与左衛門、下半田村中野半左衛門宛 三月二 六日	横切紙 一通

28 (畝附覽)

(成岩村北新居地所讓渡証文) 成岩村譲り主長左衛門、証人孫九郎、北新居証人伊助・清六 中野半六・又左衛門宛 文政三年正月

小切紙
一綴
(三三通)
横長美 一冊 四六

北新居新田地掟米取立帳

成岩村新開反別分帳 (掟米取立帳) 中野半左衛門 文化 四年九月

横長半 一冊 二四七

成岩新田反別分掟帳 中野半左衛門 文政元年九月

横長半 一冊 二四八

成岩新田反別分掟帳 中野半左衛門 文政二年九月

横長半 一冊 二四九

卯年新開掟米取立帳 北新居村 中野半左衛門宛 文政二年二月

横長半 一冊 二四四

成岩新田反別分掟帳 中野半左衛門 文政三年九月

横長半 一冊 二五〇

成岩新田反別掟帳 中野半左衛門 文政六年九月

横長半 一冊 二五一

未年新田御年貢取立帳 (小作地年貢取立勘定帳) 北新居分 中野半左衛門宛 文政六年二月

横長半 一冊 二四五

成岩新田反別掟帳 中野半左衛門 文政七年九月

横長半 一冊 二五三

中年新田掟米帳 北新居分 (小作支配人伊助) 中野半左衛門扣 文政七年二月

横長半 一冊 二四六

成岩新田反別帳 (掟米取立帳) 中野半左衛門 文政八年九月

横長半 一冊 二五三

成岩新田反別帳 中野半左衛門 文政一〇年九月

横長半 一冊 二五十一

亥年新田取米 (掟米取立勘定帳) (北新居村) 伊助 中野半左衛門宛 文政一〇年極月二八日

横長半 一冊 二五四

成岩村新開惣町数廿六町之内北新居支配之内式町六反歩半田村半左衛門扣分 (掟米書上) 北新居七話人・伊助・孫七・藤吉 (江戸) 辰年5御年貢勘定調直シ (成岩村カ)

横長半 一冊 五三
横長半 一冊 四八

田畑実測・耕地收穫地価帳など

成岩村田畑実地測量帳 (中惣家地主地分) 中惣半左衛門 明治八年九月

横長半 一冊 五四四

成岩村耕地收穫地価帳 (中惣家地主地分) 中惣半左衛門 明治九年八月

横長半 一冊 五四五

成岩村耕地反別帳 中惣半左衛門 明治一〇年四月查写

横長半 一冊 五四六

成岩村耕地地測量帳 中惣半左衛門 明治一〇年四月查写

横長半 一冊 五四七

成岩村耕地收穫地価帳 半田村下組共有分 明治一〇年八月

横長半 一冊 五四八

成岩村耕地掟米調査帳 中惣半左衛門 明治一二年四月

横長半 一冊 五四九

耕地譲渡・土地経営 (岩滑村)

田畑書入金子借用証文

(岩滑村・岩滑新田分金子借用証文) (寛政六年) 文政九年

一綴
(六一通の内四三通) 六七

。借用申金子之事 (金一八両) 岩滑村田主与八郎、請人権右衛門・兵左衛門 下半田村半左衛門宛 寛政八年二月

豎紙 一通 六七六

○借用申金子之事(金一〇兩) 岩滑村金借用主藤十、受人權兵衛 下半田村半左衛門宛 寛政一〇年八月	堅紙	一通	六七七	○借用申金子之事(金二〇兩) 岩滑新田借用主善右衛門、受人兵左衛門 半田村半左衛門宛 文化五年一二月	堅紙	一通	六七十三
○借用申金子之事(金八兩) 岩滑村借用主佐次右衛門、請人右吉 下半田村半左衛門宛 寛政一三年二月	堅紙	一通	六七八	○借用申金子之事(金一三兩二分) 岩滑新田借用主利右衛門、受人兵左衛門 半田半左衛門宛 文化六年一二月	堅紙	一通	六七十三
○借用申金子之事(金四兩) 借り主岩滑村佐次右衛門、請人藤七 下半田村半左衛門宛 享和元年極月	堅紙	一通	六七十一	○借用申金子之事(金二〇兩) 岩滑村借用主森周意、受人兵左衛門 下半田村半左衛門宛 文化七年五月	堅紙	一通	六七十四
○借用申金子之事(金六兩三匁九分四厘) 岩滑村金借り主藤七、同村受人和七 下半田村半左衛門宛 享和三年二月	堅紙	一通	六七四	○借用申金子之事(金一〇兩三分) 岩滑村借用主藤十、受人權兵衛 下半田村半左衛門宛 文化七年一二月	堅紙	一通	六七十五
○借用申金子之事(金二〇兩) 岩滑新田借用主与八郎、受人兵左衛門・同断権右衛門 下半田村半左衛門宛 享和三年一二月	堅紙	一通	六七十二	○借用申金子之事(金七兩三分二朱) 岩滑村借用主覚右衛門、受人和七 下半田村半左衛門宛 文化八年正月	堅紙	一通	六七十六
○借用申金子之事(金六兩一分二匁一分四厘) 岩滑村借用主藤七、受人和七 下半田村半左衛門宛 享和四年二月	堅紙	一通	六七五	○借用申金子之事(金一兩一分六匁六分・井領米五斗六升八合書入) 岩滑村井領米主長三郎、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化八年極月	堅紙	一通	六七十七
○借用申金子之事(金六兩三分七匁五分) 岩滑村借用主藤七、受人和七 下半田村半左衛門宛 享和四年四月	堅紙	一通	六七三	○借用申金子之事(金二兩三分) 岩滑新田田主善右衛門、受人兵左衛門 半田半左衛門宛 文化八年一二月	堅紙	一通	六七十八
○借用申金子之事(金二兩二分ト一匁) 岩滑村借用主勘兵衛、受人久兵衛 下半田村半左衛門宛 文化二年二月	堅紙	一通	六七九	○借用申金子之事(金二兩・定引高二斗書入) 岩滑村引高主利左衛門、受人喜左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一〇年三月	堅紙	一通	六七十九
○借用申金子之事(金三兩一分ト三匁) 岩滑村借用主久三郎、受人勘兵衛 下半田村半左衛門宛 文化二年二月	堅紙	一通	六七一〇	○借用申金子之事(金一二兩一分) 岩滑村畑主安明寺、受人惣代佐右衛門・伴吉・久助 下半田村半左衛門宛 文化一〇年三月	堅紙	一通	六七二〇
○借用申金子之事(三兩) 借用主岩滑村善八、受人藤右衛門 下半田村半左衛門宛 文化三年正月	堅紙 (貼紙あり)	一通	六七一二	○借用申金子之事(金四兩) 乙川村金借り主又吉、請人孫市 半田村半左衛門宛 文化一一年一〇月	堅紙	一通	六七十三

○借用申金子之事(金二分二朱) 岩滑村田地主孫三郎、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化一一年極月	堅紙	一通	六七十三
○借用申金子之事(金一兩一分) 岩滑新田地主權右衛門、受人万助 半田半左衛門宛 文化一一年二月	堅紙	一通	六七十三
○借用申金子之事(金二六兩) 岩滑新田地主与八郎、請人權右衛門 半田半左衛門宛 文化一二年二月	堅紙	一通	六七十四
○借用申金子之事(金一〇〇兩) 新開地主惣代金借り主成岩村佐次右衛門・孫治郎・伊助・市原村吉右衛門、請人成岩村孫七 半田村中野半左衛門宛 文化一二年七月	堅紙	一通	六七十五
○借用申金子之事(金五九兩) 岩滑新田地主与右衛門、受人万三郎 半田半左衛門宛 文化一三年一月	堅繼紙	一通	六七十六
○借用申金子之事(金一八兩) 岩滑新田かり主与八郎、受人權右衛門 半田村半左衛門宛 文化一三年二月	堅紙	一通	六七十七
○借用申金子之事(金一〇兩) 岩滑新田借用主富藏、受人藤八 文化一四年一二月	堅紙	一通	六七十八
○借用申金子之事(金八兩一分二朱) 岩滑新田借用主万右衛門、受人万藏 半田半左衛門宛 文化一四年一二月	堅紙	一通	六七十九
○借用申金子之事(金二一兩) 岩滑新田借用主元右衛門、受人伴藏 半田半左衛門宛 文化一四年二月	堅紙	一通	六七三〇
○借用申金子之事(金六兩一分) 岩滑新田かり主権右衛門、受人与八郎 下半田半左衛門宛 文化一五年正月	堅紙	一通	六七三一
○借用申金子之事(金一〇兩) 岩滑新田借用主伴藏、受人元右衛門 半田村半左衛門宛 文化一五年正月	堅紙	一通	六七三三
○借用申金子之事(金二三兩二分) 岩滑新田借用主利右衛門、受人弥藏 半田半左衛門宛 文政元年二月	堅紙	一通	六七三三
○借用申金子之事(金一二兩二分二朱) 岩滑新田借用主伴右衛門、請人兵左衛門 下半田村半左衛門宛 文政二年十一月	堅紙	一通	六七三四
○借用申金子之事(金八兩) 金子借用主岩滑新田兵作、請人兵左衛門 下半田村半左衛門宛 文政二年十一月	堅紙	一通	六七三五
○借用申金子之事(金五兩) 岩滑新田かり主新右衛門、受人善右衛門 下半田半左衛門宛 文政二年十二月	堅紙	一通	六七三六
○借用申金之事(金六兩) 金借用主岩滑村磯右衛門、請人忠三郎 文政二年一二月	堅繼紙	一通	六七三七
○借用申金子之事(金一六兩) 金借用主岩滑新田与八郎、請人權右衛門 半田村半左衛門宛 文政三年一二月	堅紙	一通	六七三八
○借用申金子之事(金一九兩二分) 岩滑新田借用主弥藏、受人元右衛門 下半田村半左衛門宛 文政三年一二月	堅紙	一通	六七三九
○借用申金子之事(金六兩) 岩滑新田金借用主善右衛門、受人清六 半田村中野半左衛門宛 文政四年二月	堅紙	一通	六七四〇
○借用申金子之事(金四兩三分) 岩滑村借用主磯右衛門、受人増右衛門 下半田村半左衛門宛 文政五年七月	堅紙	一通	六七四一
○借用申金子之事(金一一兩二分) 金借用主岩滑新田権右衛門、請人与八 文政七年三月	堅紙	一通	六七四三

田畑讓渡証文

。借用申金子之事（金五兩） 借用主弥助 中野半左衛門宛 文政九年一二月

堅紙 一通 六〇七三

（岩滑村田畑讓渡証文）（寛政十一年一明治八年）

（綴一通） 六〇

。田地一札之事（質地永代讓渡証文） 岩滑村田村主藤十外三名 半田村半左衛門宛 寛政一二年一二月

堅紙 一通 六〇一二

。預り申田地之事（下田二畝一五歩、小作請負証文） 岩滑新田与八郎 下半田村半左衛門宛 享和三年一二月

堅紙 一通 六〇一

。永代三相渡シ申田之事（下田一反八畝二七歩・金四三兩） 岩滑村田主佐右衛門、同村取次久助外一名 下半田村半左衛門宛 文化一〇年閏一二月

堅紙 一通 六〇一三

。永代三相渡シ申定引高之事（引高四斗二升一合・金四兩一分） 岩滑村引高主八右衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化一〇年一二月

堅紙 一通 六〇四

。永代三相渡シ申定引高之事（定引高一石一斗八升・金一兩） 岩滑村定引主六左衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化一〇年極月

堅紙 一通 六〇一五

。永代三相渡シ申定引之事（高三斗三升八合・金三兩一分七匁七分） 岩滑村讓主忠左衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化一〇年極月

堅紙 一通 六〇一六

。永代三相渡シ申定引高之事（高三石五斗一升二合・金三五兩一分七匁七分）（岩滑村）佐右衛門、受人久助 半左衛門宛 文化一一年一二月

堅紙 一通 六〇一七

。永代三相渡シ申候田畑之事（畑五畝一〇歩・金一三兩一匁二分七匁五厘）（岩滑村）田主清右衛門、受人助七 下半田村半左衛門宛 文化一一年一二月

堅紙 一通 六〇一八

。永代三相渡シ申田地之事（山方見取三畝五歩・金六兩二分） 地主岩滑新田伴右衛門、受人庄右衛門 下半田半左衛門宛 文化一二年極月

堅紙 一通 六〇一九

。田地預り申証文之事（小作請負証文） 岩滑新田田地預り主伴右衛門、同所受人庄右衛門 下半田半左衛門宛 文化一二年極月

堅紙 一通 六〇二〇

。永代三相渡シ申田地之事（畑六畝八歩・金六兩一分一匁六分） 岩滑村田地讓り主兵七、請人五郎右衛門 下半田半左衛門宛 文化一二年極月

堅紙 一通 六〇二一

。永代三相渡シ申田之事（亥新田下畑六畝一八歩・金七兩一分） 岩滑村田地主七郎左衛門、請人二名 下半田村半左衛門宛 文化一二年一二月

堅紙 一通 六〇二三

。永代三相渡シ申定引高之事（高一石一斗三升九合・金一兩三分二厘） 岩滑村引高讓主惣左衛門、受人權左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一三年正月

堅紙 一通 六〇二三

。永代三相渡シ申田畑之事（下畑五畝一歩・金一三兩）（岩滑村）田畑讓り主阿弥陀堂、受人半兵衛 下半田村半左衛門宛 文化一三年五月

堅紙 一通 六〇二四

。永代三相渡シ申田地之事（下田七畝九歩・金四兩三分六匁七分五厘） 岩滑村田地主忠左衛門、請人權左衛門 文化一三年極月

堅紙 一通 六〇二五

。永代三相渡シ田之事（七筆二反二九歩・金二九兩三分一〇匁五分） 岩滑村田地主忠左衛門、受人權左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一三年一二月

堅紙 一通 六〇二六

。永代三相渡シ申定引之事（定引高三斗九升一合・金三兩三分九匁六分） 岩滑村定引讓り主次右衛門、受人七郎左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一三年極月

堅紙 一通 六〇二七

。永代三相渡シ申定引高（高一石五斗五升四合・金一五兩二分銀二匁四分） 岩滑村引高主忠左衛門、請人權左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一四年九月

堅紙 一通 六〇二八

○永代譲り申田并定引之事(田九畝歩・定引高八升三合・金八兩二分八匁五分) 岩滑村譲り主兵七、受人五郎右衛門 下半田村半左衛門宛 文化一四年極月 堅継紙 一通 六八〇一九

○永代ニ譲り申田之事(田八畝二八歩・金五兩) 岩滑村田譲り主七郎右衛門 受人磯八 下半田村半左衛門宛 文化一四年極月 堅紙 一通 六八〇二〇

○永代ニ相渡シ申田之事(中畑一畝二四歩・金一九兩一分七匁) 岩滑村田地主譲り主磯右衛門、請人兵七 半左衛門宛 文化一四年極月 堅紙 一通 六八〇二二

○永代ニ相渡シ申田之事(畑八畝二〇歩・下畑二七歩・金一三兩) 岩滑村地主惣兵衛、請人相和七 下半田村半左衛門宛 文化一四年 堅紙 一通 六八〇二三

○永代ニ相渡申田畑之事(高一升・金三兩) 岩滑村田畑譲り主次右衛門、受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一四年極月 堅紙 一通 六八〇三三

○永代ニ相渡シ申田之事(山方見取田三畝二八歩・畑一九歩・金九兩二朱) 岩滑村田地主孫三郎、受人権左衛門 半左衛門宛 文化一四年一二月 堅紙 一通 六八〇三四

○永代相渡申田之事(下田二畝三歩・金五兩二分銀六匁七分五厘) 岩滑村田譲り主伝六、受人久助 下半田村半左衛門宛 文化一四年極月 堅継紙 一通 六八〇三五

○永代ニ相渡シ申田之事(下畑一畝一八歩・金七兩) 岩滑村地主藤蔵、受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文政元年一二月 堅紙 一通 六八〇三六

○永代ニ相渡シ申田之事(掟下ヶ引高之事(掟下ヶ引高三斗二升八合・金三兩一分) 岩滑村高譲り主仙右衛門、受人藤蔵 下半田村半左衛門宛 文政元年七月 堅紙 一通 六八〇三七

○永代ニ相渡シ申田地之事(下田高一升九合・金二兩) 岩滑村田主金右衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政二年正月 堅紙 一通 六八〇三六

○借用申金子之事(質地畑一畝二三歩・金二朱) 岩滑新田かり主八左衛門・新助、証人与八 下半田村半左衛門宛 文政二年一二月 堅紙 一通 六八〇一六

○譲り渡申田之事(田五畝歩・金三兩二分銀五匁) 岩滑村田譲り主孫三郎、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅紙 一通 六八〇一五

○譲り相渡申田之事(中田三歩・金二兩三分二朱) 岩滑村田譲り主藤蔵、受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅紙 一通 六八〇一三

○譲り渡申田之事(田七畝四歩・金五兩) 岩滑村田譲り主増右衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅紙 一通 六八〇一三

○譲り渡申田之事(中田六歩五厘・金四兩一分銀二匁一分四厘) 岩滑村田譲り主又六、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅紙 一通 六八〇一三

○譲り渡申田之事(田六畝二〇歩・金三兩三分) 岩滑村田譲り主次右衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅紙 一通 六八〇一四

○譲り渡田地之事(浜新田上田四畝六歩四厘・金一〇兩二分銀一二匁七分五厘) 岩滑村田譲り主半七外証人一名 半田村半左衛門宛 文政二年一二月 堅紙 一通 六八〇一五

○譲り渡申田地之事(浜新田上田一反九歩・金一三兩二分) 岩滑村田譲り主半六、受人半兵衛 半田村半左衛門宛 文政二年一二月 堅継紙 一通 六八〇一六

○譲り渡シ申引高之事(引高三斗七升五合・金二兩三分) 岩滑村引高譲り主伝助、受人元吉 下半田村半左衛門宛 文政二年極月 堅継紙 一通 六八〇一七

○永代ニ相渡シ申田地之事(下田一反二五歩・金一五兩三分銀三匁) 岩滑村田地譲り主忠左衛門、受人久助外一名 下半田村半左衛門宛 文政三年一月 堅紙 一通 六八〇一六

永代ニ相渡シ申畑之事(亥新田下畑三畝歩・金四兩一分銀三匁八分) 岩滑村畑譲り主忠左衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政三年十一月	堅紙	一通	六〇一三
○讓申田地之事(田三畝七步・下畑二畝一步、金五兩三分) 岩滑村田譲り主市左衛門、受人五郎右衛門 半田村半左衛門宛 文政三年極月	堅紙	一通	六〇一四
○讓り渡田地之事(下田四畝一八歩・金八兩銀二匁二分四厘) 岩滑村田譲り主伴吉、受人久助 下半田半左衛門宛 文政三年極月	堅紙	一通	六〇一四
○永代ニ相渡シ申田地之事(浜新田下田三步・金八兩三分銀八匁) 乙川村田地譲り主作平、岩滑村受人久助 文政四年六月	堅紙	一通	六〇一四
○永代ニ相渡申田地之事(後亥新田下々畑二畝二八歩・金四兩銀六匁三分) 岩滑村田地主八右衛門、受人久助 下半田村半左衛門宛 文政四年八月	堅紙	一通	六〇一四
○讓渡申田地之事(高一斗八升三合・金一五兩一分銀一〇匁七分) 岩滑村田譲り主藤十、受人六右衛門 下半田村半左衛門宛	堅紙	一通	六〇一四
○讓渡申田地之事(中田一畝六歩・金一兩一分銀六匁九分) 岩滑村田譲り主李右衛門外一名 半田村半左衛門宛 文政四年極月	堅紙	一通	六〇一四
○永代ニ相渡シ申田地之事(下田二畝三步五厘・金四兩銀一二匁四分一厘) 岩滑村田地主広吉、受人重吉 下半田村半左衛門宛 文政五年七月	堅紙	一通	六〇一四
○讓り渡シ申田地之事(田七畝七步五厘・金八兩)(岩滑村) 田譲主孫平、受人藤藏 下半田村半左衛門宛 文政五年極月	堅紙	一通	六〇一四
○讓り申田地之事(四筆田一反一畝三步・金八兩二朱) 岩滑村田地譲り主忠三郎、受人八右衛門 下半田村半左衛門宛 文政五年二月	堅紙	一通	六〇一四
○讓り渡田地之事(田畑一反八畝二九歩・金三二兩銀八匁七分八厘) 岩滑村地所譲り主忠左衛門、受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文政五年極月	堅紙	一通	六〇一四
○讓り渡シ申田地之事(後亥新田下畑一畝一九歩・金四兩一分銀五匁六分五厘) 岩滑村田地譲り主孫三郎、受人伝七 下半田村半左衛門宛 文政五年極月	堅紙	一通	六〇一四
○永代讓り渡シ定引高事(高九斗九升八合・金一〇兩) 岩滑村譲り主忠三郎、受人忠左衛門 下半田村半左衛門宛 文政六年七月	堅紙	一通	六〇一五
○永代ニ相渡シ申田地之事(上田五畝歩・金五兩一分) 岩滑村田地主磯右衛門、受人忠三郎宛 下半田村半左衛門宛 文政六年七月	堅紙	一通	六〇一五
○永代ニ相渡シ申田地之事(田九畝一七歩・金一一兩二分二朱) 岩滑村田地主磯右衛門、受人忠三郎 下半田村半左衛門宛 文政六年七月	堅紙	一通	六〇一五
○永代ニ相渡シ申田地之事(下田二反三畝一歩・金二〇兩三分) 岩滑村田地主久兵衛、受人太郎左衛門 下半田村半左衛門宛 文政六年七月	堅紙	一通	六〇一五
○讓り渡申定引高之事(浜新田高四斗・金四兩) 岩滑村定引譲り主半六、請人円七 下半田村半左衛門宛 文政六年十二月	堅紙	一通	六〇一五
○讓り渡シ申田地之事(中畑二〇歩五厘・金一四兩二分銀一〇匁四分六厘) 岩滑村田畑譲り主市左衛門、請人五郎右衛門 下半田村半左衛門宛 文政六年十二月	堅紙	一通	六〇一五
○讓渡申田地之事(田地一反六畝歩・金一八兩) 岩滑村田地譲り主八右衛門、受人庄三郎 下半田村半左衛門宛 文政六年極月	堅紙	一通	六〇一五
○讓渡申田地之事(金一六五兩) 岩滑村田畑譲り主忠左衛門、受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文政六年極月	堅紙	一通	六〇一五

<p>。譲り渡し申田地之事（畑地五畝一步・金二兩） 岩滑村田地譲り主伝六、請人庄右衛門 下半田村半左衛門宛 文政七年二月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一五</p>
<p>。譲渡田地之事（浜新田上田七步六厘・金八兩三分銀一三四四分） 岩滑村田地譲り主半六、受人半兵衛 下半田村半左衛門宛 文政七年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一〇</p>
<p>。譲渡田地之事（下田一畝歩・金七兩三分銀二匁二厘） 岩滑村田地譲り主半七、受人甚右衛門 下半田村半左衛門宛 文政七年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一六</p>
<p>。譲渡田地之事（下畑二步・金七兩銀一四匁五分） 岩滑村田地譲り主庄三郎、受人八右衛門 下半田村半左衛門宛 文政七年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一三</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（下畑一畝八歩・金二兩銀四匁三分） 岩滑村田地主助左衛門 受人円藏 半田村半左衛門宛 文政八年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一三</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（下田七步・金一六兩）（岩滑村）田地譲り主善太郎、請人五兵衛 中野半左衛門宛 文政九年一二月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一四</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（下田三畝六歩五厘・金三兩銀八匁七分） 岩滑村田地主藤藏、同村請人仙右衛門 中野半左衛門宛 文政九年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一五</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（下田三畝六歩五厘・金六兩一分銀一匁二分） 岩滑村田地譲り主藤藏、同村受人仙右衛門 中野半左衛門宛 文政九年極月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一六</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（田地四筆・金一七兩三分） 岩滑村田地主清兵衛、受人五郎右衛門 下半田村中野半左衛門宛 文政一〇年正月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一七</p>
<p>。譲り渡し申田地之事（下田一畝歩・金八兩二分） 田地譲り主岩滑村庄三郎、受人利右衛門 下半田村中野半左衛門宛 文政一〇年一二月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一六</p>
<p>。譲り渡し申井領米定引之事 譲り主上半田村新左衛門、受人文助 下半田村中野半左衛門宛 文政一年二月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一六</p>
<p>。永代ニ相渡し申田地之事（下畑三畝九歩・金四兩三分一朱） 田畑主岩滑村平三郎、受人六右衛門 下半田村中野半左衛門宛 文政一年四月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>
<p>。永代譲り渡し申田地之事（田地三筆・金二八兩） 譲り主岩滑村久助、請人久兵衛 半田村半左衛門宛 文政一三年二月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>
<p>。永代ニ譲り渡し申田地之事（田地五筆・一八兩） 譲り主岩滑村伝六、請人久助 半田村半左衛門宛 文政一三年二月</p>	<p>堅繼紙 一通 六〇一七</p>
<p>。譲渡申田地之事（田地二筆・金一九兩） 岩滑新田地主善右衛門、請人太八 半田村中野半左衛門宛 天保五年正月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>
<p>。譲相渡し申地面之事（小栗新田之内田畑三町七反歩・金三七〇兩） 譲主三州中畑村金左衛門外証人二名 尾州半田中野半左衛門宛／奥印 小栗新田地主小栗半七 天保六年三月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>
<p>。永代ニ譲り渡し申田地之事（下々田九畝四歩・金一兩） 田譲り主岩滑村藤藏、受人吉兵衛 下半田村半左衛門宛 天保六年五月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一五</p>
<p>。譲り渡し田地之事（田地四筆・金三兩二分） 田譲り主岩新田多八、受人久兵衛 半田村中野半左衛門宛 嘉永七年一二月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一六</p>
<p>。譲渡申田地之事（一畝二七歩・金五兩一分銀五匁） 譲主岩滑新田兵左衛門、請人清六 半田村半左衛門宛 天保九年四月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>
<p>。永代ニ譲り渡し申田地之事（田畑二筆・一一兩） 田地譲り主岩滑村文吉、受人權左衛門 下半田村半左衛門宛 天保一二年正月</p>	<p>堅紙 一通 六〇一七</p>

譲り渡田地之事 (田地二畝六步五厘・金二六兩三分銀四匁二分) 田地譲主岩滑村忠左衛門、請人惣吉 下半田村中野半左衛門宛 天保一三年一月二日	堅紙	一通	六〇七九	一札 (岩滑村安明寺扣地讓渡ニ付念書) 地所譲主岩滑村安明寺、請人大野光蓮寺外一名 半田村中埜半左衛門宛 明治二年五月	堅紙	一通	三七
永代ニ譲り渡シ申田地之事 (下畑二畝一九步・金四兩二分銀一匁) 田地譲り主庄三郎、請人八右衛門 半田中野半左衛門宛 天保一四年三月	堅紙	一通	六〇一〇	井領米の地讓渡証文			
譲り渡シ申田地之事 (下畑二筆・金二五兩銀七匁八分六厘) 田地譲り主岩滑村金兵衛、請人久兵衛 半田村中野半左衛門宛 天保一五年二月	堅紙	一通	六〇一八	讓渡田畑井領米之事 (金一六兩銀六匁五分) 渡り主岩滑村畑井領米和兵衛、同村請人又兵衛 下半田村半左衛門宛 文政七年極月	堅紙	一通	六九
譲り渡シ申田地之事 (田地六筆・金一六三兩三分銀六匁一分五厘) 田地譲り主岩滑村源右衛門、請人久助 中野半左衛門宛 天保一五年一〇月	堅紙	一通	六〇一三	相讓申池敷井領米之事 (金一六兩・井領米五斗六升) 岩滑新田村重助外四名 下半田村半左衛門宛 天保一〇年一月二日	堅紙	一通	六〇
譲り渡シ証文之事 (金一五六兩銀三匁) 譲り主源右衛門外請人二名 中野半左衛門宛 天保一五年一〇月	堅紙	一通	六〇一三	過高讓渡証文			
相渡シ申田地之事 (下畑四畝一二步・金七兩二分銀六匁) 田譲り主佐右衛門、受人惣吉 中野半左衛門宛 嘉永元年四月	堅紙	一通	六〇一四	(岩滑村過高讓渡証文) (文化一三年) 弘化三年	包紙あり (一綴 五通)	六七三	
壳渡シ申田地之事 (田地四筆) 岩滑村壳主久助、請人源右衛門 下半田村中野半左衛門宛 嘉永六年一月二日	堅紙	一通	六〇一五	1 永代相渡シ申過高之事 (浜新田過高二斗五升・金三兩二分) 岩滑村過高主忠左衛門、同村受人権左衛門 下半田村半左衛門宛 文化一三年一月	堅紙	一通	
譲り渡申定引高之事 (田地一二筆・金六六兩二分銀一匁) 岩滑村御証文引定引譲り主半兵衛外請人二名 半田村中野半左衛門宛 弘化二年四月	堅紙	一通	六〇一六	2 永代ニ相渡シ申過高之事 (過高一石一斗一升七合・金一五兩二分二朱) 過高譲り主岩滑村阿弥陀堂、請人半六 半田村半左衛門宛 文化一三年三月	堅紙	一通	
讓渡申証文之事 (田地六筆一反七畝二八步) 智城尼親類中野半左衛門、証人小栗富次郎 中野半左衛門宛 明治六年四月	堅紙	一通	六〇一七	3 永代相渡シ申過高之事 (過高七斗二升・金一〇兩) 過高譲り主岩滑村安明寺外受人二名 下半田村半左衛門宛 文政元年極月	堅紙	一通	
証 (中埜家門之内絶戸跡式相続ニ付商業資本金讓受証文) 岩滑村渡辺伴吉 証人半田村小栗三郎 中埜半左衛門宛 明治八年三月	堅紙	一通	六〇一八	4 永代ニ相渡シ申過高之事 (過高一石三斗二升一合・金一九兩) 過高譲り主岩滑村久助 受人長三郎 下半田半左衛門宛 文政元年極月	堅紙	一通	

5 譲り渡し過高之事 (過高五斗四升九合・金九兩二分銀六匁四分) 過高讓主源右衛門、受人久助
中野半左衛門宛 弘化三年極月

縦紙 一通

岩滑村田畑絵図面

岩滑村田畑絵図面 (中野半左衛門扣地) 中野半左衛門

折込映入 三八

○ (土地坪間数鹿絵図・耕地片木札)

木札 一鋪
一二枚 三八一

○ (土地坪間数鹿絵図・耕地片木札)

木札 一鋪
八枚 三八二

○ (成岩村彦津山田百六拾蒨田地十七枚の図)

24.6×24.6m 一鋪 三八三

○ (成岩村彦ず田地十七枚の図)

33.2×23.4m 一鋪 三八四

○ (太兵衛讓畑など書上)

横切紙 一通 三八五

○ (土地間数略図)

20.0×16.0m 一鋪 三八六

○ (富藏田略図)

16.0×20.0m 一鋪 三八七

○ (土地間数略図)

16.0×20.0m 一鋪 三八八

○ (質取田地略図) 慶応元年十一月改

17.0×24.6m 一鋪 三八九

○ (田地坪間数略図)

20.0×26.5m 一鋪 三九〇

○ (成岩村彦洲上池堤間数略図)

12.0×15.5m 一鋪 三九一

○ (岩滑村鹿絵図)

42.6×22.0m 一鋪 三九二

○ (半左衛門・半兵衛替地勘定絵図)

23.6×27.0m 一鋪 三九三

○ (田地坪間数略図)

25.0×25.0m 一鋪 三九四

○ (土地坪間数略図)

34.0×24.5m 一鋪 三九五

○ (土地間数略図)

31.5×57.0m 一鋪 三八一六

○ (土地間数略図)

68.0×27.0m 一鋪 三八一七

○ (半左衛門所持岩滑村分耕地図)

24.0×33.0m 一綴 三八一八

○ (半左衛門所持岩滑村耕地図掟米高)

31.4×44.0m 一綴 (八鋪) 三八一九

○ 岩滑新田扣地図面

包紙入 一九鋪 三八二〇

○ 岩滑新田平古之図 (半左衛門扣地反別・掟米高書入耕地図)

86.0×43.5m 一鋪 三八二一

○ (岩滑村折戸九郎左衛門分より取得耕地図)

32.8×24.4m 一鋪 三八二二

○ (岩滑新田伴右衛門分より取得耕地図 作人うり主伴右衛門)

34.0×25.0m 一鋪 三八二三

○ (利右衛門より取得岩滑新田中割耕地図 作人岩滑新田伴右衛門)

25.0×34.0m 一鋪 三八二四

○ (折戸与八より取得耕地図 作人讓主与八)

34.0×25.0m 一鋪 三八二五

○ (岩滑新田折戸耕地略図)

34.0×25.0m 一鋪 三八二六

○ (岩滑新田だん周辺耕地略図)

25.0×34.0m 一鋪 三八二七

○ (岩滑新田折戸耕地略図)

34.0×25.0m 一鋪 三八二八

○ (岩滑新田伴右衛門ら三人より取得耕地図)

44.0×46.5m 一鋪 三八二九

○ 池田絵図面 (池田周辺取得耕地図)

57.0×38.0m 一鋪 三八三〇

○ (岩滑新田池田周辺耕地図) 安政四年二月

32.0×24.3m 一鋪 三八三一

。池田絵図〔池田周辺半左衛門扣地図〕	24.0×28.2cm	一鋪	三八・一〇	田畑高反別書上帳			
。岩滑新田中島田地之図面 文久二年冬改竄人	24.8×23.2cm	一鋪	三八・一〇	田畑高御前扣帳 知多郡岩滑村森万右衛門 安永七年八月	美	一冊	一六七
。(岩滑村池田周辺耕地図)	24.8×24.1cm	一鋪	三八・一〇	岩滑村田畑高反別書上帳〔中野家扣分〕 中野半左衛門 明治五年九月一五日調	横長半	一冊	三三六
。(岩滑新田折戸九郎左衛門より取得耕地図)	22.0×21.2cm	一鋪	三八・一〇	岩滑村耕地測量帳〔中野家扣分〕 中野半左衛門 明治一〇年二月	横長半	一冊	三三〇
。(岩滑新田北脇口伴右衛門より取得耕地図)	31.3×23.2cm	一鋪	三八・一〇	岩滑新田耕地測量帳〔中野家扣分〕 中野半左衛門 明治一〇年二月	横長半	一冊	三三一
。(岩滑新田中島与右衛門より取得耕地図)	43.2×21.2cm	一鋪	三八・一〇	替地証文			
。岩滑新田伴藏分絵図〔取得耕地図〕	31.4×21.2cm	一鋪	三八・一〇	替地証文之事〔又助・半左衛門替地証文〕 岩滑村田主又助・同村口合善太郎 下半田村半左衛門宛 文化一四四年三月	縦紙	一通	六六六
。(岩滑新田善右衛門より取得耕地図 作人岩滑新田六兵衛)	31.3×23.2cm	一鋪	三八・一〇	替地為取替証文之事〔久助・半左衛門替地証文〕 池田譲り主岩滑村久助・同村受人長三郎 下半田村半左衛門宛 文政五年正月	縦紙	一通	六六七
掬米取立帳							
戌年半左衛門小作掬米取立帳 岩滑村小作支配人久助 文政九年一〇月	横長半	一冊	二〇〇	耕宅地讓渡・地主經營〔乙川村〕			
亥年掬米取立帳 岩滑村田畑支配人久助 下半田村中野半左衛門宛 文政一〇年極月	横長半	一冊	二四二	田畑讓渡証文			
越高三分米免除証文				〔乙川村田畑売買証文綴〕〔寛政八年・嘉永七年〕	包紙入(三〇通)	一綴	六七六
証文之事〔越高三分米半左衛門控小作地のみ免除証文〕 岩滑村庄屋榊原国助・同断忠左衛門、組頭久助・同断惣右衛門 半田村半左衛門宛 文政四年一二月	縦紙	一通	六三三	。永代相渡申田方之事〔西浜田一反一〇歩〕 乙川村本人文左衛門、同村證人半兵衛 下半田又左衛門宛 寛政八年一二月	縦紙	一通	六七八
証文之事〔越高三分米半左衛門控小作地のみ免除証文〕 岩滑村庄屋又右衛門、組頭太兵衛・同断庄右衛門、頭百姓金兵衛外四名 下半田中野半左衛門宛 嘉永二年極月	縦紙	一通	六四四	。永代相渡申田之衷〔本田四畝一二歩・御山方見取畑一畝一步〕 乙川村本人要助、同村肝煎孫市 半田村半左衛門宛 寛政八年一二月	縦紙〔貼紙あり〕	一通	六七八

○永代相渡シ申田方之事〔午新田・中田四反三畝三步〕乙川村本人吉右衛門、同村肝煎伊三郎 下半田村半左衛門宛 寛政九年六月 <small>（貼紙四枚あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七一五	○永代相渡シ申田方之事〔本田・亥新田、一反四畝二七步〕乙川村本人徳左衛門、同村肝煎庄次右衛門 下半田村半左衛門宛 寛政一〇年六月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七一六	○永代相渡申畑方之事〔本田六畝一二步〕乙川村本人伊三郎 半左衛門宛 寛政一二年正月 <small>堅紙</small> 一通 六七一七	○永代相渡シ申畑方之事〔後酉新田上畑一畝歩〕乙川村本人林七、肝煎兵吉 下半田村半左衛門宛 享和元年二月 <small>堅紙</small> 一通 六七一八	○永代相渡シ申田方之事〔本田三畝一五步〕乙川村本人忠五郎後家、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 享和二年八月 <small>堅紙</small> 一通 六七一九	○永代相渡シ申田方之事〔西古浜子見取田八畝二三步〕乙川村本人作右衛門、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化元年四月 <small>（貼紙二枚）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二〇	○永代相渡シ申田方之事〔西古浜子見取田一反二〇步〕乙川村本人要助、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化元年六月 <small>堅紙</small> 一通 六七二一	○永代相渡申田方之事〔本田二反四畝九步〕乙川村本人海藏寺、同村肝煎孫市 下半田村新兵衛宛 文化元年十一月 <small>堅紙</small> 一通 六七二二	○永代相渡申田方之事〔午新田中田五畝九步五厘〕半田村本人仙左衛門、同村肝煎伝六 孫市宛 文化二年七月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二三	○永代相渡申田方之事〔乙川村中浜田本田一反六畝歩〕下半田村本人七蔵、乙川村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化二年一〇月 <small>堅紙</small> 一通 六七二四	○永代相渡シ申田方之事〔西古浜子見取田一反二畝二〇歩〕乙川村本人治右衛門、同村肝煎孫市 下半田村新兵衛宛 文化二年一二月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二五	○永代相渡申畑方之事〔本田一畝一二步〕乙川村向山本人兵治郎、同村肝煎孫市 下半田村新兵衛宛 文化三年三月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二六	○永代相渡申畑方之事〔後酉新田下畑三畝八歩〕乙川村本人浅井半三郎、同村肝煎孫市 半田村新兵衛宛 文化三年三月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二七	○永代相渡シ申畑之事〔西古沢子見取・山方見取本田一反六畝一二步〕乙川村本人佐七、同村肝煎孫市 半田村半左衛門宛 文化三年九月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二八	○永代相渡シ申畑之事〔西水浜午新田・東古浜申見取六反五畝一六歩五厘〕乙川村本人徳左衛門、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化三年一〇月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七二九	○永代相渡シ申田畑之事〔西古浜子見取田五畝一三步〕乙川村本人磯右衛門、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化三年一二月 <small>（貼紙あり）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七三〇	○永代相渡申田方之事〔西水浜午新田中田二反一畝二二步〕乙川村本人吉三郎、同村肝煎孫市 下半田村新兵衛宛 文化三年一二月 <small>堅紙</small> 一通 六七三一	○永代相渡申田方之事〔西古浜子見取田八畝二六歩〕乙川村本人文右衛門、同村肝煎孫市・下半田村半左衛門宛 文化四年二月 <small>（貼紙二枚）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七三二	○永代相渡申畑方之事〔午新田下畑一畝一四歩〕乙川村本人仁助、同村肝煎孫市 半田村半左衛門宛 文化四年三月 <small>堅紙</small> 一通 六七三三	○永代相渡申田方之事〔酉新田下田一反三畝歩〕乙川村本人兵治郎、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化四年三月 <small>（貼紙四枚）</small> <small>堅紙</small> 一通 六七三四
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○永代相渡申田方之事〔西古浜子見取一反三畝九步〕
乙川村本人甚助、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化八年一月
堅紙 一通 六六・一三

○永代相渡申田方之事〔古浜子見取田九畝二步〕
乙川村本人兵右衛門・同村肝煎彦次右衛門 下半田半左衛門宛 文化一〇年二月
堅紙 一通 六六・一四

○讓渡申畑方之事〔五十浜塩屋台畑六畝二八步〕
乙川村本人義平治、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文政元年七月
堅紙
貼紙(板あり) 一通 六六・一五

○讓渡申田方之事〔後申見取田四反三畝一〇步〕
乙川村本人義平治、同村肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文政元年七月
堅紙
(包紙あり) 一通 六六・一六

○借用申金子之事〔金三〇両、村方要用ニ付〕
乙川村庄屋義平治・同断善治郎 下半田村中野半左衛門宛 文政八年二月
堅紙 一通 六六・一七

○永代讓渡申田方之事〔細江通り埋田一反一二步〕
乙川村庄屋稻葉藤左衛門、百姓惣代善治郎 下半田村半左衛門取次藤右衛門宛 天保一〇年一〇月
堅紙 一通 六六・一八

○讓渡申畑方之事〔辰見取畑一反五畝二二步〕
乙川村本人喜右衛門、同村肝煎孫三郎 半田村半左衛門宛 天保二二年五月
堅紙
(包紙あり) 一通 六六・一九

○讓渡申畑方之事〔辰見取畑一反一畝二五步〕
乙川村讓主茂助、請人武兵衛 半田村中野半左衛門宛 嘉永七年四月
堅紙 一通 六六・二〇

塩浜讓渡証文

(乙川村塩浜壳渡証文綴) (文化元年・文化二一年)
(二八通) 六六

1 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜五畝二二步七厘五毛・金四両〕
乙川村本人要助、肝煎孫市 半田村新兵衛宛 文化元年三月
堅紙 一通

2 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜三反六畝二〇步・金一六両〕
乙川村本人彦六、肝煎新右衛門 孫市宛 文化元年四月
堅紙
(包紙あり) 一通

3 永代相渡シ申塩浜之事〔新塩浜六畝一五步・金三両三分〕
乙川村本人善兵衛、肝煎松右衛門 孫市宛 文化元年六月
堅紙 一通

4 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜七畝二九步・金四両〕
乙川村本人久治郎、肝煎作太夫 孫市宛 文化元年七月
堅紙 一通

5 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜八畝一七步五厘・金五両〕
乙川村本人四郎作、肝煎久助 孫市宛 文化元年七月
堅紙 一通

6 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜八畝一七步五厘・金九両〕
乙川村本人善藏、肝煎兵次郎 孫市宛 文化元年七月
堅紙 一通

7 永代相渡申塩浜之事〔塩浜七畝二九步・金五両〕
乙川村向山本人兵次郎、肝煎善藏 孫市宛 文化元年七月
堅紙 一通

8 永代相渡申塩浜之事〔塩浜八畝一七步五厘・金六両三分〕
乙川村向山本人藤七、肝煎善藏 孫市宛 文化元年七月
堅紙 一通

9 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜七畝八步五厘・金四両三分二朱〕
乙川村本人作太夫、肝煎作右衛門 孫市宛 文化元年八月
堅紙
(包紙あり) 一通

10 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜七畝二九步・金四両〕
乙川村向山本人吉藏、肝煎孫平 孫市宛 文化元年八月
堅紙 一通

11 永代相渡シ申塩浜之事〔塩浜九畝一六步・金一〇両〕
乙川村本人伝吉、肝煎林七 孫市宛 文化元年九月
堅紙
(包紙あり) 一通

12 永代相渡申塩浜之事（塩浜八畝一七步五厘・金七兩三分二朱）乙川村本人作右衛門、肝煎作太夫 孫市宛 文化元年一〇月 堅紙 一通

13 永代相渡申塩浜之事（塩浜七畝二九步・金七兩）乙川村本人喜右衛門、肝煎常藏 北孫市宛 文化二年二月 堅紙 一通

14 永代相渡申塩浜之事（一町六反六畝五步五厘・金九〇兩）乙川村本人孫市 下半田村半左衛門宛 文化二年六月 堅綴紙 一通

15 永代相渡申塩浜之事（塩浜五畝一二步・金七兩）乙川村本人小七、肝煎与右衛門 半田村半左衛門宛 文化三年閏八月 堅紙（包紙あり） 一通

16 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝一六步・金四兩三分）乙川村本人象治 肝煎用助 孫市宛 文化三年八月 堅紙 一通

17 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝二四步五厘・金三兩一分）乙川村飯森本人利兵衛 肝煎源兵衛 孫市宛 文化三年八月 堅紙 一通

18 永代相渡申塩浜之事（塩浜四畝一二步・金四兩三分）乙川村本人松右衛門、肝煎金藏 孫市宛 文化三年八月 堅紙（端裏二貼紙あり） 一通

19 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝二二步・金一兩）乙川村本人勘助、肝煎利七 孫市宛 文化五年二月 堅紙（包紙あり） 一通

20 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝六步五厘・金三兩二分二朱）乙川村本人林八、肝煎用助 孫市宛 文化五年二月 堅紙（包紙あり） 一通

21 永代相渡申禿塩浜之事（禿塩浜三反一畝一步五毛・四〇兩）乙川村本人代庄屋義平治、肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化六年六月 堅紙（包紙あり） 一通

22 證據之事（塩浜之内孫市取次ニ而半左衛門江讓渡ニ付）乙川村孫市 下半田村中野半左衛門宛 文化六年九月 横切綴紙 一通

23 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝二六步五厘・四兩三分）乙川村本人与次右衛門・肝煎孫市 半田半左衛門宛 文化六年九月 堅紙（包紙あり） 一通

24 永代相渡申塩浜之事（塩浜八畝三步・金一〇兩）乙川村本人与助 肝煎清三郎 半田村半左衛門宛 文化六年一〇月 堅紙（包紙あり） 一通

25 永代相渡申塩浜之事（塩浜四畝一五步・金一〇兩）乙川村本人助作、肝煎孫市 半田村半左衛門宛 文化六年一一月 堅紙（包紙あり） 一通

26 永代相渡申塩浜之事（塩浜七畝五步五厘・金四兩）乙川村本人佐右衛門、肝煎孫市 下半田村半左衛門宛 文化六年二二月 堅紙（包紙あり） 一通

27 永代相渡申塩浜之事（塩浜一反三畝一步・金七兩二分）乙川村本人要助 肝煎孫市 下半田半左衛門宛 文化七年四月 堅紙（包紙あり） 一通

28 永代相渡申塩浜之事（塩浜六畝一五步五厘・金六兩）乙川村本人又吉 肝煎孫市 半田村半左衛門宛 文化一一年一〇月 堅紙（包紙あり） 一通

乙川村控地絵図面

乙川村田畑絵図面入 中野半左衛門 折込鉄入 三一

○（元庄助屋敷など図面・現半左衛門控） 61.0×41.5cm 一鋪 三一

○（成岩村北新田御償勘定書）（文久期） 横切綴紙（三綴） 三一二

○（北新田西戌御年貢覚） 半田半左衛門宛 （文久二年カ） 小切紙 三通 三一一

○（上半田惣兵衛より取得地絵図） 51.0×33.0cm 一通 三二四

○(安蔵より半左衛門取得田地絵図)(作人安蔵)	33.0×23.5cm	一鋪	三二一五	○金二三分老間之図(元兵次郎分 向山耕地略図)	34.5×25.0cm	一鋪	三二一〇
○(いはら谷よし池のとまりの田地図)(田地掟米記載あり)	32.0×23.5cm	一鋪	三二一六	○金二三分老間之図(元伊三郎分 向山後耕地略図)	34.5×24.5cm	一鋪	三二一一
○成岩北新居新田絵図面	68.0×64.0cm	一鋪	三二一七	○金二式分老間之図(むじら庚申山東耕地略図)	34.5×24.5cm	一鋪	三二一三
○知多郡乙川村子見取鯨ニ老歩老間絵図(字西古浜耕地反別・所持者図) 文化一二年四月改	61.0×86.0cm	一鋪	三二一八	○金二三分老間之図(元徳左衛門分 耕地略図上苗代西ノ井道より四枚目)	34.5×24.5cm	一鋪	三二一三
○乙川村後卯見取五厘一間之図面 中埜半左衛門扣	27.5×39.0cm	一鋪	三二一九	○金二式分老間之図(元徳右衛門分 若宮西畑田略図)	34.5×24.5cm	一鋪	三二一四
○知多郡乙川村後申見取金ニ式歩老間絵図(字東古浜耕地反別・所持者図) 文化一二年四月改	76.5×129.0cm	一鋪	三二一〇	○金二三分老間之図(元要助分萩境之田略図)	34.5×24.5cm	一鋪	三二一五
○知多郡乙川村絵図(半左衛門田畑記載あり)	91.5×61.0cm	一鋪	三二一一	○金二式分老間之図(元海蔵寺分西山の田地略図)	64.0×31.0cm	一鋪	三二一六
○(乙川村字東古浜田地より出米ニ付書状) 御番 中心(様)宛	横切紙	一通	三二一二	○(元治右衛門分乙川村西古浜耕地略図)(作人孫四郎)	33.0×24.0cm	一鋪	三二一七
○知多郡乙川村瓢箪曲輪式分老間絵図(耕地絵図) 文化一二年四月改	91.5×61.5cm	一鋪	三二一三	○(元七右衛門分乙川村東浜田本田略図)(掟米記載あり)	33.0×24.0cm	一鋪	三二一六
○(乙川村海蔵寺より入手地図)(作人孫四郎・林八、掟米記載あり)	24.0×33.0cm	一鋪	三二一四	○(元治左衛門分乙川村西古浜子見取田略図)(掟米などの記載あり)	32.5×24.0cm	一鋪	三二一九
○讓渡申畑方之事(長称山方見取地) 乙川村本人茂平外一名 下半田半左衛門宛 文化一四年一月	堅紙	一通	三二一五	○(元彦六分乙川村三軒前耕地略図)(小作人長八・幸右衛門)	33.0×24.0cm	一鋪	三二一〇
○(乙川村茂平長称山畑略図・掟米書上) (文化一四年)(No三一―一五に附属)	小切紙	一通	三二一六	○(元要助分乙川村西古浜耕地略図)	33.0×24.0cm	一鋪	三二一一
○金二三分老間之図(元半田村七蔵分 乙川村中浜田耕地略図)	44.0×15.0cm	一鋪	三二一七	○(耕地反別略図)	32.5×24.0cm	一鋪	三二一三
○金二四分老間絵図(元徳左衛門分 字大矢知東耕地略図)	31.0×43.0cm	一鋪	三二一八	○金二三分老間之図(元兵次郎分午新田耕地略図)	40.0×29.5cm	一鋪	三二一四
○四分老間之図(元半三郎分 畑田山乃神後耕地略図)	34.5×25.0cm	一鋪	三二一九	○(半左衛門取得地略図)(掟米など記載あり)	24.5×26.0cm	一鋪	三二一五
				○(乙川村惣方池附近耕地略図)	16.5×33.5cm	一鋪	三二一六

。(元喜右衛門分惣力池敷耕地取米小手形)

。(下用米小手形)

。知多郡乙川村後申見取金ニ壹分毫間絵図(字五丁浜耕地反別所持者図) 文化一二年四月改

。覚(細郷田歛代金請取) 支配人太九郎、当人丈助 藤右衛門宛 午二月

。(元茂助分相賀曲輪辰見取地略図) 嘉永七年四月

田畑小作掟米取立帳

文化未年年貢差引帳 乙川村兵九郎 下半田中野半左衛門宛(文化八年)

掟米差引勘定覚帳 乙川孫市 中野半左衛門宛 文化九年極月

亥年田畑小作掟米取立帳 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文政一〇年極月

塩浜掟帳

塩浜入用勘定覚(塩屋入用・浜人足・曲輪入用など) 乙孫市 文化一三年一二月

乙川村田畑塩浜掟帳(作人掟米高書上帳) 中野半左衛門 文化一四年九月

年貢目録覚帳・年貢目録并小作掟米帳

享和成年御年貢目録覚・戌年小作掟米覚 兵九郎 中野半左衛門宛 亥(享和三年)正月

亥年小作掟割引帳(乙川村) 中野半左衛門扣 享和三年一二月

小切紙 一通 三二七

小切紙 一通 三二七

72.5×8.8cm 一鋪 三二九

小切紙 一通 三二〇

14.5×8.0cm 一 三二四

横長半 一冊 一五

横長半 一冊 五〇

横長半 一冊 一九

横長半 一冊 一六

横長半 一冊 三四

横長半 一冊 五三

横長半 一冊 五二

亥年御年貢目録覚(掟米・年貢差引勘定帳) 兵九郎 中野半左衛門宛 亥(享和三年)極月 横長半 一冊 五三

子年小作掟并御年貢勘定目録 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文化元年 横長半 一冊 一八

巳年御年貢目録覚帳(中野家持分掟米・年貢など差引勘定帳) 乙川より 半田村中野半左衛門宛 文化六年二月 横長半 一冊 三八

申年御年貢勘定帳(乙川村中野家持分掟米・年貢など差引勘定帳) 伊藤兵九郎(支配人) 中野半左衛門宛 文化九年一二月 横長半 一冊 三九

酉年御年貢勘定目録覚(乙川村中野家持分掟米・年貢など差引勘定帳) 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文化一〇年正月 横長半 一冊 三〇

戌年御年貢目録并小作掟米帳 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文化一一年一二月 横長半 一冊 一九

亥年御年貢目録并小作掟帳 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文化一二年極月 横長半 一冊 一九

子年御年貢勘定帳(乙川村中野家持分掟米・年貢など差引勘定帳) 乙川伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文化一三年一二月 横長半 一冊 三三

丑年御年貢勘定目録覚帳(乙川村中野家持分掟米・年貢など差引勘定帳) 乙川伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文化一四年極月 横長半 一冊 三三

寅年御年貢勘定目録并小作掟米帳 伊藤兵九郎 中野半左衛門宛 文政元年極月 横長半 一冊 一五

卯歲御年貢勘定目録并小作掟帳 乙川伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文政二年一二月 横長半 一冊 一五

辰歲御年貢目録并小作掟勘定帳 乙川村伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文政三年一二月 横長半 一冊 一五

午年御歳貢目録并小作掟勘定帳 乙川伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文政五年二月	横長半 一冊 一五	乙川村耕地反別帳 (中埜家分) 中埜半左衛門 明 治一〇年四月	横長半 一冊 三三
申歳御年貢目録并小作掟米取立帳 乙川村伊藤兵 九郎 半田村中野半左衛門宛 文政七年二月	横長半 一冊 一六	乙川村耕地測量帳 (中埜家分) 中埜半左衛門 明 治一〇年四月	横長半 一冊 三五
酉年御年貢目録并小作掟米取立帳 乙川村伊藤兵 九郎 半田村中野半左衛門宛 文政八年正月	横長半 一冊 一七	乙川村耕地掟米調査帳 (中埜家分) 中埜耕地課 明治二二年四月	横長半 一冊 三四
戌年御年貢目録并小作掟勘定帳 乙川伊藤兵九郎 半田村中野半左衛門宛 文政九年極月	横長半 一冊 一八	乙川村地価仕立帳下調 (中野家分) (明治)	半(罫紙) 一冊 三七
亥年御年貢勘定帳 (乙川村中野家持分掟米・年貢 など差引勘定) 乙川村組頭庄右衛門 半田村中野 半左衛門宛 文政一〇年二月	横長半 一冊 三三	作人扶助	
小作掟米差引勘定所 (下半田新兵衛名前分、同半左 衛門様扣内) 乙川村孫市 (中埜半左衛門様) (江 戸)	横半半折 一冊 五八	※乍恐奉御歎願上候御事 (困窮ニ付未進年貢立 替金借用願) 乙川村百姓 下半田村中野半左衛 門宛 天保二二年二月	半 一冊 四六・五五
子申見取検見帳 (乙川村カ) 中の半左衛門様扣	横長半 一冊 五八	地主経営 (諸所)	
控地高反別掟米・收穫地価取調		小栗新田	
乙川村諸新田反別書上帳 (中埜家分) 中埜半左衛 門 明治五年一〇月	横長半 一冊 三七	為取替申永代証文之事 (三州幡豆郡小栗新田割 渡証文) 右新田願主元ノ小栗半七 同所名主文七 中野半左衛門宛 文政一一年三月	包紙入 一通 六三
乙川村地券代価書 (中埜家分) 中埜 明治六年	半 一冊 三五	小栗新田入用覚 (年貢・諸負担百姓割付勘定覚) (江戸)	横切継紙 一通 七四
乙川村地券取調書 (中野家分) 中野半左衛門 乙 川村戸長杉浦善次郎 明治六年一月	半(罫紙) 一冊 三六	預證書 (小栗新田仲間地券一括預リニ付一札) 小栗新田副戸長中埜又左衛門 中埜半左衛門宛 明 治七年二月	縦紙 一通 七六・七
乙川村耕地收穫地価帳 (中埜家所持分) 中埜半左 衛門 明治九年八月	横長半 一冊 三二	大塚村	
(開墾などによる地目変換地書上) (中野半左衛 門) (明治一九年カ)	半(罫紙) 一冊 三二	地所売渡シ証券 (代金七円) 三河国宝飯郡大塚村 売主山口新五郎外一名 半田村中野半左衛門宛 明 治一七年七月一七日	縦紙 一通 七六・六
(反別地価書上)	縦紙(罫紙) 一通 三三		

前浜新田

地券(三河国碧海郡前浜新田地) 愛知県 持主三河
国碧海郡平七村山中七左衛門宛 明治一一年一〇月
一日

掟米收入日計帳(前浜新田)(裏表紙一部欠損)

前浜新田廿三・廿四・廿五年度掟米納 明治二六
年四月取調

大府村

(大府村掟米取米書上)

日長村

地所売買地券証御書替願(下書)(売渡人知多郡
日長村橋本たき)(中埜半左衛門宛)(明治一二年)

家作并家財売渡証(家作見取とも) 知多郡日長村売
渡人橋本たき、受入小島万右衛門 半田村中埜半左
衛門宛 明治一二年二月

永代地所売渡証(家作并家財売渡証とも) 知多郡日
長村地所売渡人橋本たき、受入小島万右衛門 半田
村中埜半左衛門宛 明治一二年二月

永代地所売渡証(代金一四〇円) 知多郡日永村地
所売渡人橋本たき、受入小島万右衛門 半田村中埜
半左衛門宛 明治一二年二月

山方新田

條約證(地券改正三付山方新田地仲間旧慣内輪
約確条約証) 新田地仲間小栗康吉・小栗七左衛
門・前野小平次・中野又左衛門・中野半左衛門・小
栗七之丞 明治七年一〇月

(山方新田小作米取立、地主方へ配当勘定帳)
山方新田元締(明治)

不 明

新開出金判執 中橋興左衛門 竹内孫次郎宛 文化
一〇年霜月

(新田地など高取米書上)

御高村作人分亥年田畑預ケ帳 地主半左衛門、取
立清三郎 文化一二年二月

新開地面反別帳

田地日用控

田畑つもり上帳(一筆ごと徳米勘定積書) 忠左衛
門扣

横半半折 一冊 三〇八・一

横折紙 一通 三〇八・二

横長半 一冊 一五五

横半半折 一冊 五八六

横半半折 一冊 五八七

横長半 一冊 一七三

下佐脇新田

領主

救恤

奉拝借金子証文之事(下佐脇新田天災ニ付金二五兩無利足拝借証文写) 下佐脇新田村地主代勘三郎 地方役所 安政二年十一月

包紙入 一通 六四

返金講

卯歲・巳年返金講御通(下佐脇新田地主中野半左衛門) (安政二年明治期)

袋入二冊・一綴 六二

1 返金講掛ケ金請取通 秋山顯之助外四名 中野半左衛門宛 安政二年十一月

横半半折 一冊

2 返金講掛金請取帳 秋山静兵衛外三名 中野半左衛門宛 安政四年二月

横半半折 一冊

3 (取繕益返金講集会ニ付参会達など綴) 會計課 下佐脇新田地中野半左衛門宛

一綴 (九通)

利金上納

覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) (江戸)

一綴 (五通) 七四

1 覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) 秋山顯之助外四名 中野半左衛門宛 子十一月一六日

縦紙 一通

2 覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) 秋山顯之助外四名 中野半左衛門宛 丑十一月一六日

縦紙 一通

3 覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) 秋山顯之助外四名 中野半左衛門宛 卯十一月一六日 縦紙 一通
4 覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) 高瀬官吉外四名 中野半左衛門宛 巳十一月一六日 縦紙 一通
5 覚(下佐脇新田利足上納金請取覚) 高瀬官吉外三名 中野半左衛門宛 午十一月一六日 縦紙 一通

御借金上納通

御借金式拾年割上納請取通 世話人岩瀬丈助外六名 下佐脇新田庄屋中 天保三年二月(弘化元年) 包紙入 横長半 一冊 七九

村

村況

御尋ニ付書上之下書(文政二・五年御割附書・皆済目録写) 三河国宝飯郡下佐脇村新田半左衛門 文政六年二月 半 一冊 八五二

・村差出明細帳 三州宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門 赤坂役所宛 文政一年九月 半 一冊 八五四

・起返高明細帳 三州宝飯郡下佐脇村右起返地主半左衛門 赤坂役所宛 文政一年九月 半 一冊 八五三

・三河国宝飯郡下佐脇新田村明細帳 里正深谷勘三郎 元西尾県庁宛 明治四年二月 半 一冊 八五四

・三河国宝飯郡下佐脇新田(下佐脇新田普請場書上) 里正深谷勘三郎 元西尾県庁宛 明治五年正月 半 一冊 八五五

宝飯郡下佐脇新田一覽表(村概要) (明治初年) 縦紙 一枚 七三

村 絵 図

三州宝飯郡下佐脇新田絵図面 (江戸)	44.5×62.0cm	一 鋪	七四
三州宝飯郡下佐脇村新田絵図面 (江戸)	30.5×42.2cm	一 鋪	七六
(下佐脇新田絵図) (江戸)	58.0×80.0cm	一 鋪	七六
三州宝飯郡下佐脇新田龜絵図 (江戸)	28.0×41.0cm	一 鋪	七七
(下佐脇新田屋敷起方分龜絵図) (江戸)	20.5×63.0cm	一 鋪	七七
(下佐脇村新田音羽川周辺龜絵図) (江戸)	29.0×38.0cm	一 鋪	七八
三河国宝飯郡下佐脇新田図面 明治四年	27.5×38.7cm	一 鋪	七五
用水・普請			
文化五辰年・同九申年難年諸普請入用帳 下佐脇村新田半左衛門 赤坂御役所宛 文化二年六月	半	一 冊	三四
下佐脇新田四月十八日破損所普請(積帳) 出張 清六 元治元年五月	横長半	一 冊	八五〇
乍恐以書付御届ケ奉申上候(田方植付出来届) 下佐脇新田村庄屋勘三郎 地方役所宛 慶応三年六月	縦紙	一 通	八九〇
※乍恐以書付御頼奉申上候(去ル八月大風雨破損所見分願) 下佐脇新田地主半左衛門 地方役所宛 酉一〇月	半	一 冊	四六・三〇
※(下佐脇新田荒田・田地理三付人足数代金書付)(明治)	横折紙	一 通	五二・四

土 地

開 発

荒地之内起返小前書上帳(半左衛門荒地起返シ新田願三付荒地反別書上帳) 宝飯郡下佐脇村名主定右衛門・惣兵衛 組頭清助・弥七郎・庄五郎・百姓代又八郎・定四郎 赤坂役所宛 文政六年二月

検 地

地引内内割帳(新田検地二付) 宝飯郡下佐脇新田半左衛門請 伊奈玄蕃赤坂役所宛 文化一五年五月

三州宝飯郡下佐脇村新田検地野帳 尾張殿領尾州知多郡半田村新開引請人半左衛門 伊奈玄蕃手代泰純右衛門・野田順八・木村理右衛門宛 文政元年一〇月

三州宝飯郡下佐脇村新田検地野帳 赤坂御役所扣文政元年九月

覚(本田島畑より土取りニ付土持賃請取覚) 本村定右衛門 新田半左衛門 文政二年二月

三河国宝飯郡下佐脇新田検地野帳(文政二年)

三河国宝飯郡下佐脇村新田検地帳 代官伊奈玄蕃手代泰純右衛門・野田順八・木村理右衛門・案内半左衛門 文政二年一〇月

三河国宝飯郡第十二大区五小区下佐脇新田村検地帳 地主中野半左衛門 明治六年五月

(文政二年下佐脇新田検地帳写(一部)) (文政二年)

(下敷梓紙)

横長美	一 冊	八五三
横長半	一 冊	八五
横長美	一 冊	七五
横長半	一 冊	七六一
小切紙	一 通	七六一
横長美	一 冊	七七一
袋入美	一 冊	七六八
袋入美	一 冊	七九一
袋入美	一 冊	七九二
袋入	四 通	七九三

新屋敷地帰属争論

※伺書（官林松下げ新屋敷地本村・新田帰属伺書）三河国宝飯郡下佐脇村副戸長生田惣四郎・同白井万次郎・新田副戸長深谷勘三郎 愛知県令鷺尾隆聚宛 明治八年九月

半 一冊 三六八四

年貢・諸役

立毛内見合附帳

当寅之田方立毛内見合附帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 伊奈玄蕃赤坂役所宛 文政元年一〇月
当巳之田方立毛内見合附帳 宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門 羽倉外記赤坂役所宛 文政四年一〇月

横長美 一冊 七五
横長美 一冊 七五

年貢免定

未年免定（三河国宝飯郡下佐脇村新田半左衛門請）磯野助之丞外五名 半左衛門宛 弘化四年一二月
戌年免定（下佐脇村新田半左衛門請）矢嶋山三郎外五名 半左衛門宛 文久二年一二月
子年免定（下佐脇村新田半左衛門請）矢嶋山三郎外四名 庄屋・組頭・惣百姓宛 元治元年一二月
丑年免定（下佐脇村新田半左衛門請）川田平格外五名 半左衛門宛 慶応元年一〇月
寅年免定（下佐脇村新田半左衛門請）川田平格外五名 半左衛門宛 慶応二年一〇月
卯年免定（下佐脇村新田半左衛門請）川田平格外五名 半左衛門宛 慶応三年一〇月

堅繼紙 一通 五七
堅繼紙 一通 五九
堅繼紙 一通 五九
堅繼紙 一通 六〇
堅繼紙 一通 六一
堅繼紙 一通 六二

辰年免定（下佐脇村新田半左衛門請）西脇良輔外四名 半左衛門宛 明治元年一〇月

堅繼紙 一通 六三

巳年免定（下佐脇村新田半左衛門請）西脇良輔外三名 半左衛門宛 明治二年一〇月

堅繼紙 一通 六四

（下佐脇新田当年より戊迄五ヶ年請免申付書）民事方 下佐脇新田 午（明治三年）七月

小切紙 一通 六五

未年免定（下佐脇村新田半左衛門請）元西尾県庁半左衛門宛 明治四年一二月

堅繼紙 一通 六五

（新田年李明場所願より下ヶ免申付書）地方役所小野田節蔵・飯田水右衛門 下佐脇新田庄屋中宛 四月二九日

包紙入 小切紙 一通 六六

御收納通

卯御收納通 下佐脇新田村 天保二年

横半半折 一冊 六七

御收納通 下佐脇村之内半左衛門分 天保二年

横半半折 一冊 六八

御收納米代金請取通 下佐脇新田村 天保三年一二月

横半半折 一冊 六九

御收納米代金請取通 下佐脇村之内半左衛門分 天保三年一二月

横半半折 一冊 七〇

御收納米代金上納通 下佐脇新田村 天保四年一二月

横半半折 一冊 七一

御收納米代金上納通 下佐脇村之内半左衛門分 天保四年一二月

横半半折 一冊 七二

御收納米代金請取通 下佐脇村之内半左衛門請 天保五年一二月

横半半折 一冊 七三

御收納米金納請取通 下佐脇新田村半左衛門分 天保五年一〇月

横半半折 一冊 七四

御收納米代金上納通 保六年一〇月	下佐脇村之内半左衛門分	天	横半半折	一冊	七五	御收納之通 一月	下佐脇新田半左衛門受	天保一三年一	横半半折	一冊	七九
御收納米代金上納通 保六年一〇月	下佐脇新田村半左衛門受	天	横半半折	一冊	七六	御收納之通 一月	下佐脇新田半左衛門分	天保一三年一	横半半折	一冊	八〇
御收納米代金請取通 月	下佐脇新田村	天保七年一二	横半半折	一冊	七七	御收納御通 一月	下佐脇新田半左衛門受	天保一四年一	横半半折	一冊	八一
御收納米代金請取通 七年一二月	下佐脇村内半左衛門分	天保	横半半折	一冊	七八	御收納御通 一月	下佐脇新田半左衛門分	天保一四年一	横半半折	一冊	八二
御收納之通	下佐脇村半左衛門分	天保八年一二月	横半半折	一冊	七九	御收納御通 一一月	下佐脇新田村半左衛門受	天保一五年	横半半折	一冊	八三
御收納之通	下佐脇村半左衛門受	天保八年一二月	横半半折	一冊	七九〇	御收納御通 一一月	下佐脇新田村半左衛門分	天保一五年	横半半折	一冊	八四
御收納御通 年一一月	下佐脇新田村地主半左衛門分	天保九	横半半折	一冊	七九一	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	弘化二年一二	横半半折	一冊	八五
御收納御通 年一一月	下佐脇新田村地主半左衛門請	天保九	横半半折	一冊	七九二	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	弘化二年一二	横半半折	一冊	八六
御收納之通 月	下佐脇新田半左衛門受	天保一〇年霜	横半半折	一冊	七九三	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	弘化三年一一	横半半折	一冊	八七
御收納之通 月	下佐脇新田半左衛門分	天保一〇年霜	横半半折	一冊	七九四	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	弘化三年一一	横半半折	一冊	八八
御收納之通 霜月	下佐脇新田村半左衛門受	天保一一年	横半半折	一冊	七九五	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	弘化四年一一	横半半折	一冊	八九
御收納之通 霜月	下佐脇新田村半左衛門分	天保一一年	横半半折	一冊	七九六	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	弘化四年一一	横半半折	一冊	九〇
御收納金通 一一月	下佐脇新田村半左衛門分	天保一二年	横半半折	一冊	七九七	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	嘉永元年一一	横半半折	一冊	九一
御收納金通 一一月	下佐脇新田村半左衛門受	天保一二年	横半半折	一冊	七九八	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	嘉永元年一一	横半半折	一冊	九二

御收納御通 二月	下佐脇新田村半左衛門分	嘉永二年一	横半半折 一冊	八三	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	安政三年一	横半半折 一冊	八七
御收納御通 一月	下佐脇新田村半左衛門請	嘉永二年一	横半半折 一冊	八四	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	安政四年一	横半半折 一冊	八六
御收納御通 一月	下佐脇新田村半左衛門請	嘉永三年一	横半半折 一冊	八五	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	安政四年一	横半半折 一冊	八六
御收納御通 一月	下佐脇新田村半左衛門分	嘉永三年一	横半半折 一冊	八六	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	安政五年一二	横半半折 一冊	八〇
御收納御通 一月	下佐脇新田村半左衛門請	嘉永四年一	横半半折 一冊	八七	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	安政五年一二	横半半折 一冊	八三
御收納御通 一月	下佐脇新田村半左衛門分	嘉永四年一	横半半折 一冊	八八	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	安政六年一一	横半半折 一冊	八三
御收納御通 一月	下佐脇新田半左衛門受	嘉永五年一一	横半半折 一冊	八九	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	安政六年一一	横半半折 一冊	八三
御收納御通 一月	下佐脇新田半左衛門分	嘉永五年一一	横半半折 一冊	九〇	御收納御通 一月	佐脇新田中野半左衛門請	万延元年一	横半半折 一冊	八四
御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	嘉永六年一一	横半半折 一冊	九三	御收納御通 一月	佐脇新田中野半左衛門分	万延元年一	横半半折 一冊	八五
御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	嘉永六年一一	横半半折 一冊	九三	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	文久元年一一	横半半折 一冊	八三
御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	嘉永七年一二	横半半折 一冊	九三	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	文久元年一一	横半半折 一冊	八七
御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	嘉永七年一二	横半半折 一冊	九四	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	文久二年一〇	横半半折 一冊	八六
御收納御通 月	下佐脇新田 安政二年一一月		横半半折 一冊	九五	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門分	文久二年一〇	横半半折 一冊	八九
御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門請	安政三年一一	横半半折 一冊	九六	御收納御通 月	下佐脇新田半左衛門受	元治元年一〇	横半半折 一冊	九〇

御收納御通	下佐脇新田半左衛門分	元治元年一〇	横半半折	一冊	八四
御收納之通	下佐脇新田半左衛門受	慶応元年一〇	横半半折	一冊	八四
御收納之通	下佐脇新田半左衛門分	慶応元年一〇	横半半折	一冊	八四
御收納御通	下佐脇新田半左衛門請	慶応三年一一	横半半折	一冊	八四
御收納御通	下佐脇新田半左衛門分	慶応三年一一	横半半折	一冊	八五
御收納之通	下佐脇新田半左衛門受	明治元年一一	横半半折	一冊	八六
御收納之通	下佐脇新田半左衛門分	明治元年一一	横半半折	一冊	八七
御收納之通	下佐脇新田村	明治二年一一	横半半折	一冊	八八
御收納之通	下佐脇新田	明治三年一一	横半半折	一冊	八九
御收納之通	下佐脇新田	辛未(明治四年)一二	横半半折	一冊	七三
年貢勘定請取					
酉之御年貢勘定	(下佐脇新田年貢勘定請取証)	(江戸)	小切紙	一綴	七四
(下佐脇新田年貢勘定請取証綴)	(江戸)		一綴	一綴	七三
(下佐脇新田年貢勘定請取証綴)	(江戸)		一綴	一綴	七三
(下佐脇新田年貢諸役銭受取手形綴)	(江戸)		一綴	一綴	七二
戸口					
(下佐脇新田諸役金請取覧)					
(下佐脇新田年貢・普請関係書類綴)					
(江戸)					
宗門人別改帳・宗門人別差引帳					
浄土真宗宗門人別書上帳	三州宝飯郡下佐脇村地	内珉藏請新田地主珉藏、浄土真宗本願寺末三州赤坂宿正法寺	松下内匠役所宛	文化四年三月	半
浄土真宗宗門人別書上帳	三州宝飯郡下佐脇村地	内新田地主半左衛門、本願寺末三州赤坂宿正法寺	松下内匠役所宛	文化一一年三月	半
禅宗宗門人別書上帳	三州宝飯郡下佐脇村地	内新田地主半左衛門、尾州知多郡緒川村就坤院末三州伊奈村東漸寺	松下内匠役所宛	文化一一年三月	半
当卯年宗門人別差引帳	三州宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門	赤坂役所宛	文政二年三月	半	一冊
当卯年宗門人別差引帳	三州宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門	赤坂役所宛	文政二年三月	半	一冊
浄土真宗宗門人別書上帳	三州宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門、浄土真宗東本願寺末三州赤坂駅正法寺	竹垣正藏赤坂役所宛	文政一一年三月	半	一冊
附・当子年宗門人別差引帳	三州宝飯郡下佐脇村新田地主半左衛門	赤坂役所宛	文政一一年三月	半	一冊

浄土真宗宗門人別書上帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺 平岡彦兵衛赤坂役所宛 天保二年三月	半	一冊	八四
附・当卯年宗門人別差引帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 赤坂役所宛 天保二年三月	半	一冊	八五
当卯年宗門人別差引帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 赤坂役所宛 天保二年三月	半	一冊	八五
浄土真宗宗門人別書上帳 浄土真宗本願寺末三州赤坂宿正法寺、三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 平岡彦兵衛赤坂役所宛 天保二年三月	半	一冊	八六
村中家内訳帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 栗生新助・水野何右衛門・荻野一平次・土岐兵右衛門・高瀬官兵衛宛 天保三年三月	美	一冊	三〇九
村中家内訳帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門 栗生新助外四名宛 天保三年三月	半	一冊	八七
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、京都浄土真宗本願寺末三州赤坂宿正法寺了円 栗生新助外五名宛 天保四年三月	半	一冊	八八
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、京都東本願寺末三州赤坂宿正法寺了円 栗生新助外五名宛 天保五年三月	半	一冊	八九
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、京都東本願寺末三州赤坂宿正法寺了恵 土岐兵右衛門外一名宛 天保六年三月	半	一冊	九〇
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 土岐兵右衛門外一名 天保八年三月	半	一冊	九一
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 土岐兵右衛門外一名宛 天保九年三月	半	一冊	九二
宗門御改人別帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 土岐兵右衛門外一名 天保一〇年三月	半	一冊	九三
宗門御改人別帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺 土岐兵右衛門外一名宛 天保一一年三月	半	一冊	九四
宗門御改人別帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 深見宗五左衛門外一名宛 天保一五年三月	半	一冊	九五
宗門御改人別帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 深見宗五左衛門外一名宛 弘化二年三月	半	一冊	九六
宗門御改人別帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 岩崎權左衛門宛 弘化三年三月	半	一冊	九七
宗門御改人別帳 宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 岩崎權左衛門外一名宛 弘化四年三月	半	一冊	九八
宗門御改人別帳 下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺了恵 山田平兵衛外一名宛 安政五年三月	半	一冊	九九
宗門御改人別帳 (扣書) 下佐脇新田地 万延二年三月	半	一冊	一〇〇
宗門御改人別帳 下佐脇新田地主半左衛門、三州赤坂宿正法寺 山田平兵衛外一名宛 文久二年三月	半	一冊	一〇一
宗門御改人別帳 下佐脇新田地、赤坂宿正法寺了忍 山田平兵衛外一名宛 文久三年三月	半	一冊	一〇二
宗門御改人別帳 下佐脇新田地主半左衛門、赤坂宿正法寺了恵 山田平兵衛外一名宛 文久四年三月	半	一冊	一〇三

宗門御改人別帳 下佐脇新田村地主半左衛門、赤坂
宿正法寺了證 宇野瀬兵衛外一名宛 元治二年三月
半 一冊 八八四

宗門御改人別帳 下佐脇新田村地主半左衛門、赤坂宿正法寺了證 宇野瀨兵衛外一名宛 慶応四年三月 半 一冊 八五

宗門御改人別帳 下佐脇新田村地主半左衛門、赤坂
宿正法寺了證 宇野瀨兵衛外一名宛 明治二年三月
半
一冊
八六六

宗門御改人別帳 下佐脇新田村地主半左衛門、赤坂
宿正法寺了證 宇野瀬兵衛外一名宛 明治三年三月
半
一冊
八七

三州宝飯郡下佐脇新田戸籍人別書上帳 下佐脇新
田庄屋勘三郎 藩庁執達所宛 明治四年三月
半 一冊 八八

宗門御改人別帳 下佐脇新田村地主半左衛門、赤坂宿正法寺 宇野瀨兵衛外一名宛 明治四年三月 半 一冊 八八九

五人組帳

五人組書上帳 三州宝飯郡下佐脇新田地主半左衛門
平岡彦兵衛赤坂御役所 天保二年三月 美 一冊 三〇

人別村送り状

(下佐脇村新田人別村送り状綴) (文化一二年)
 (文久四年) (綴一)
 (九通) (七〇)

1 一札之事(清右衛門娘さき下佐脇村富藏妻
ニ差遣シニ付人別村送り状) 鍋島帶刀知行所
野口村願主清右衛門、庄屋六太夫 下佐脇村庄屋
中宛 文化二二年二月 竪紙 一通

2 送り一札之事(源四郎娘やす下佐脇新田磯
右衛門妻ニ差遣シニ付人別村送り状) 松平
伊豆守領分前芝村願主源四郎、松平和泉守領分下
佐脇新田役人衆中宛 天保七年二月

堅紙 一通

3 送り一札之事（彦右衛門倅彦市下佐脇新田
富藏方江養子二付送り状） 一色数馬知行所法
野村願主彦右衛門、庄屋三太郎 松平和泉守領分
下佐脇新田役人中宛 天保一三年二月

堅紙

4村送り一札之事(文右衛門娘みか下佐脇村
新田久次郎妻二遣シ付人別村送り状)松
平伊豆守領分梅藪村庄屋喜三郎松平和泉守領分
下佐脇村新田庄屋中宛 弘化四年二月

堅紙

5 送り一札之事（甚蔵娘きせ下佐脇村新田友七妻ニ差遣シニ付人別村送り状） 松平伊豆守
領分大塚村願主甚蔵、庄屋友七 松平和泉守領分
下佐脇村新田役人中宛 弘化四年二月

堅紙

6 送り一札之事（八蔵娘さと下佐脇村新田助
三郎妻ニ差遣シニ付人別村送り状）松平伊
豆守領分伊奈村願主八蔵、庄屋新兵衛、松平伊豆
守領分下佐脇村新田役人中宛 弘化四年二月

堅紙

7 送り一札之事(与八娘とき下佐脇村新田助次郎妻二差遣シニ付人別村送り状) 松平伊豆守領分伊奈村願主与八、庄屋柴七、松平和泉守領分下佐脇新田庄屋中宛 嘉永七年三月

醫紙

8 送り一札之事（栄蔵弟善作下佐脇新田百姓
二差遣シニ付人別村送り状） 松平伊豆守領分
梅藪村願主栄蔵、庄屋次兵衛 松平伊豆守領分下
佐脇村新田庄屋中宛 安政二年二月

堅紙

9 村送り一札（元八娘みさ下佐脇新田村辰蔵妻二差遣シニ付人別村送り状）松平和泉守領分下矢田村願主元八、庄屋順輔松平加賀守領分下佐脇新田村庄屋中宛 文久四年三月

堅紙

帳入・帳外願

願書（嫁入などにつき帳入願） 三州宝飯郡下佐
脇新田地主半左衛門 地方御役所宛 辰三月 美

願書扣(百姓富蔵娘嫁入ニ付帳外願など) 下佐脇新田半左衛門地主代勘三郎 御役所宛 天保七年二月

半 一冊 三元

※乍恐以書付奉願上候(出奔人伴久次郎帳外願) 下佐脇新田村願主伝次郎 地主代勘三郎 地方役所宛 子二月七日

半 一冊 四元三二

地租改正

地 引

(三河国宝飯郡下佐脇新田地引帳下書共) 明治九年

袋入 二四冊・綴一通 七四

。(下佐脇新田等級別反別帳)

横長半 一冊 七四一

。(下佐脇新田地価算出下書)

横長半 一冊 七四二

。(下佐脇新田地価算出書上)

横折紙 一通 七四三

。(下佐脇新田起返田畑地価など心得書)

横折紙 一綴 七四四

。(下佐脇新田地引雜記)

横長半 一冊 七四五

。下佐脇新田起返田畑地価算出および海岸堤防營繕費十ヶ年概表・掟米収入高十ヶ年概表

横長半 一冊 七四六

。(下佐脇新田等級別反別算出書)

横長半 一冊 七四七

。(下佐脇新田字等級別掟米勘定帳)

横長半 一冊 七四八

。(等級別田畑書上)

横長半 一冊 七四九

。(字等級別地価民費など書上)

横長半 一冊 七五〇

。(下佐脇新田一筆ごと田畑反別書上)

横長半 一冊 七五一

。(下佐脇新田起返反別一筆ごと書上)

横長半 一冊 七四一三

。(田畑割賦計算のため原量案内) 下佐脇村磯貝深谷宛 四月一九日

小切紙 一通 七四一三

。(下佐脇新田等級別反別算出書)

横長半 一冊 七四一四

。地引帳(地租改正三付) 三河国宝飯郡下佐脇新田地主尾張國知多郡半田村中楚半左衛門、副戸長深谷勘三郎 愛知県令安場保和 明治九年五月六日

半 一冊 七四一五

。地引帳 三河国宝飯郡下佐脇村 明治九年七月

半 一冊 七四一六

。下佐脇新田収獲減省方出張日記 出張人柳原孝祐 明治一〇年三月二十四日立

小冊 一冊 七四一七

。収獲原量米減省方歎願 第一六区下佐脇新田右新田地主第八区半田村中楚半左衛門、右新田組長兼議員深谷勘三郎 明治一〇年三月

縦紙(罫紙) 一通 七四一八

。荒地年限引継立願(反別一町五反七畝一五歩) 下佐脇新田

縦紙(罫紙) 一通 七四一九

。(下佐脇新田地価民費など算出書)

半 一冊 七四二〇

。(下佐脇新田地価民費など算出書)

半(罫紙) 一冊 七四二二

。(下佐脇新田地価算出ニ付海岸堤防費十ヶ年概表・新田分掟米入高十ヶ年概表・起返シ掟米入高十ヶ年概表)

半 一冊 七四二三

。新田分掟米入高十ヶ年概表・起返シ掟米入高十ヶ年概表・海岸堤防費十ヶ年概表

半 一冊 七四二三

。道路用患水路取調書 下佐脇新田副戸長深谷勘三郎 愛知県令安場保和宛 明治九年二月

半(罫紙) 一冊 七四二四

。下佐脇邸起返分賦

半 一冊 七四二五

。下佐脇村起返字洗出計算

半(罫紙) 一冊 七四二六

。新田分計算書（地価・民費・貢租・掟米など）

。下佐脇新田原量分賦

。掟米収入高十ヶ年概表

。〔等紙毎原量高一覽表〕

地券證・地価調

地券證申受帳下調 三河国宝飯郡第一二大区五小区
下佐脇新田村副戸長助深谷勘三郎 井関愛知県権令
宛 明治六年五月

地券證申受帳〔下佐脇村へ差出ス分下調〕（中野半
左衛門） 明治六年五月

三河国宝飯郡第一二大区五小区下佐脇新田村地
価仕出帳下調 明治六年五月

※明治五年民費明細書 下佐脇新田 明治七年六
月

宅番字砂山地引帳 第一二大区五小区宝飯郡下佐脇
新田中埜半左衛門（明治九年カ）

宅番字砂山地引帳 第一二大区五小区宝飯郡下佐脇
新田（明治九年）

地租改正地価取調帳 三河国宝飯郡下佐脇新田地主
中埜半左衛門 愛知県令安場保和宛 明治〇年六
月

半（野紙）一冊 七五・二七

半（野紙）一冊 七五・二六

半（野紙）一冊 七五・二九

野紙 一通 七五・三〇

半 一冊 七〇

半（野紙）一冊 三六〇

半（野紙）一冊 七二

半 一冊 四八・二三

半 一冊 七三

半 一冊 八五

半 一冊 七三

中 埜 家

掟 米

三州田畑掟米帳（下佐脇新田） 中野半左衛門 文
政一一年

三州佐脇村本田定免相極メ帳（掟米定免取極帳）
地主中野半左衛門 文政二二年一〇月

※寛（下佐脇新田并下佐脇村高反別・掟米勘定
帳）（江戸）

下 佐 脇 村

※村方困窮ニ付元建金借用金証文之写 三州宝飯
郡下佐脇村名主惣兵衛・定右衛門・組頭弥七・正五
郎・清助、百姓代定四郎・五八郎 尾州半田半左衛
門宛ノ羽倉外記手代北村荒三郎 文政五年一二月

下佐脇村方元建金証文面之写書（村方困窮ニ付相
続方仕法金借入實地証文） 下佐脇村名主弥七・庄
五郎・与頭定四郎・半兵衛・善五左衛門、百姓代清
次郎・助太夫 尾州半田村半左衛門宛（取次）ノ平
岡彦兵衛手代浦上忠次郎 文政二二年一二月

借用申金子之事（去年違作諸穀物高値小前難洪ニ付
金十兩借用証文下書） 松平和泉守領分三州宝飯郡
下佐脇村、小前惣代誰 下佐脇村新田地主尾州知多
郡半田村半左衛門宛 天保八年三月

借用申金子証文之事（下書）（去年違作諸穀物高値
小前難洪ニ付） 下佐脇村金借主小前惣代誰 新田
助治郎・磯右衛門宛 天保八年

土 地 台 帳

土地台帳謄本（宝飯郡佐脇村中埜家所持二百二筆分）
御油稅務署 明治三七年一月一二日

横長半 一冊 二四三
〔表紙厚紙〕

横長半 一冊 八五

半 一冊 四六・二九

半 一冊 四六・一一

半 一冊 八七

野紙 一通 六七・四五

野紙 一通 六七・四四

堅切紙 一綴 四三
〔野紙〕（三四通）

土地所有權登記申請書〔宝飯郡佐脇村分〕 半田町
中埜半左衛門代理人新美助太郎 豊橋区裁判所御油
出張所宛 明治三七年二月二三日

半（罫紙）一冊 四三

耕地売渡証券

宝飯郡御津村大字下佐脇新田・下佐脇下調〔下
佐脇耕地売渡証券〕 半田町中埜半左衛門 豊橋市
大字宣福谷藤太郎宛 大正五年六月二六日

美（罫紙）一冊 四三

立本新田

検見控

文化九年申立本新田検見扣 文化九年

横長半 一冊 一五四

年貢米目録帳

御年貢米目録帳 三州宝飯郡立本新田中埜半左衛門
文政二年九月

横長半 一冊 二

御年貢米目録帳 中埜半左衛門 文政四年一〇月

横長半 一冊 三

本田・新田御年貢目録覚帳 三州宝飯郡立本新田
地主半左衛門 文政五年九月

横長半 一冊 四

御年貢目録扣帳（立本新田） 地主半左衛門 文政
六年九月

横長半 一冊 五

御年貢目録帳 立本新田地主中埜半左衛門 文政七
年九月

横長半 一冊 六

御年貢米目録帳 立本新田地主中埜半左衛門 文政
八年九月

横長半 一冊 七

御年貢米目録帳 立本新田地主中埜半左衛門 文政
九年九月

横長半 一冊 八

御年貢目録扣帳（立本新田） 地主中埜半左衛門
文政一〇年九月
御年貢米目録帳（立本新田） 中埜半左衛門 文政
一一年九月

横長半 一冊 九

横長半 一冊 一〇

史料館所蔵史料目録 第五十八集
尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目録

平成五年三月三十一日 印刷発行

編集兼 国文学研究資料館

発行者 史料館

〒142 東京都品川区豊町一丁目十六番十号

電話 〇三―三七八五―七二三二(代)

印刷所 睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区東陽一丁目十六番十二号

(本文用紙は中性紙を使用)

おわり ちた はんだ なかのはんざ えもん
尾張国知多郡半田村中埜半左衛門家文書目録 解題

一 中埜半左衛門家文書の伝来と整理の方針

本目録に収めた文書は、尾張国知多郡半田村（現、愛知県半田市）に江戸時代より居を構え今日に至る中埜家に伝来し、昭和二五年、一〇代当主中埜半左衛門俊三氏より当館に譲渡されたものである。総点数は約二〇〇〇点余にのぼる。

当館では昭和二五年に受け入れ後、仮整理による出納カードで閲覧に供してきたが、今回の目録刊行にあたってはこの仮整理の史料配列順にしたがい、新規に整理番号を与え、旧番号は本目録上に示さなかった。史料の整理作業・分類編成においては、個々の史料が、何故中埜家に存在することになったのか、この点を追究する姿勢で作業を進めた。いいかえればその作業は、中埜家に伝わったという大前提のもとに、個々の文書を発生させた集団や組織を明らかにする作業であったともいえる。なお、中埜家文書には、関係文書を綴ったものが少なくなかった。しかも、その綴は文書発生時に関係文書を綴ったものだけでなく、後年、近代に入って綴られたものが多数見られた。目的は明らかでないが、そこに一定の意思が働いていたことを重視し、この形態を崩さず文書整理においては、整理番号に枝番号、孫番号を多用することによって処理した。整理作業では、綴られていることにより、地名などの確認が容易となり助けられることも多かったが、明らかな綴り間違いといえるものもあった。綴られたものの相互の関係が必ずしも明瞭でないものもあった。これらの存在により文書の分類編成作業は、極めて難解なものとなった。文書を目録上に重出することを行ったが、これを厳密に行うと相当の分量となるため、必ずしも徹底していない。また、この対策として枝番号・孫番号を付したものを、親番号の元から離し、それぞれふさわしい箇所に収めることも一部行った。もちろん文書の原形そのものは崩していない。枝番号などが付される文書を閲覧請求すると、同じ親番号のものがすべて出てくることになる。この点了解されたい。

二 半田村・中埜半左衛門家の特徴と文書群の構造

中埜半左衛門家の特徴、文書群の全体構造について触れたいが、まずその前提の意味も込めて、中埜家が居住した半田村、および中埜家がかかりを持った周辺村落について簡単に触れておきたい。なお、中埜家文書のうち、最も古いものは安永七年（一七七八）のものであり、下限は大正五年のものであるが、その大半は寛政年間から明治三〇年代に集中する。したがって、ここでの既述もこの間の動向を中心に扱うことになる。

半田村は知多半島の東側中央部の海岸段丘にひらけた村であり、慶長一六年（一六一一）に尾張藩領となった。周辺村落の一部（亀崎・乙川・成岩村など）は、尾張藩付家老成瀬家の給知となった（なお、同三か村は元禄六年に藩蔵入地となるが、文政九年に再び成瀬氏の給知に復した）が、大半の周辺村落は半田村同様に藩直轄領であり、近世中後期には、鳴海に置かれた陣屋の支配を受けた。

検地は、慶長一三年に備前検地を受けており、「寛文村々覚書」によると概高二二九六石余、田方六九町四反余、畑方二三町四反余、新田元高一〇石余、概し後の新田高七二石余、ほかに見取場三反八畝歩余がある。新田開発は盛んで、周辺村を含めると、一七世紀には丘陵部を中心に一〇〇〇石を越える新田が開発され、近世後期には海岸線の干拓による大規模開発が半田や名古屋の豪商の出資によって行われた。初期の村は丘陵部を中心に展開したが、こうした開発の結果、次第に海岸沿いが開けていくことになる（半田村、および周辺村々の開発状況に関しては、第一表参照）。この結果、半田村では旧来からの古村部分が上半田、海岸沿いの開発部分が下半田と呼ばれるようになり、次第に分村化が進み、庄屋なども別個に置かれることになる。こうした状況は周辺村々でも広く見られるところである。なお、近世中期まで半田・成岩・乙川・有脇などの諸村では塩浜による塩業が行われたが、多くは衰微し塩浜は新田として干拓されていった。近世後期、中埜家が地主経営を展開する中で取得した土地にはこうした土地も含まれる。

ただし、半田村は開発による農耕の村としての面だけで語ることはいできない。下半田を中心に同村は、海浜の商業・産業の町として発展した

第 1 表 半田村および周辺村々開発一覧

出典 「寛文村々覚書」「尾張徇行記」
『知多郡史』中巻（1923年刊）

年 代（西暦）	半 田 村			乙 川 村			成 岩 村			岩 滑 村		
慶長13（1608）年	本 田	元高 石 1,090.079	石 1,296.565	町畝歩 92.88.12	本 田	元高 石 1,213.360	石 1,543.395	町畝歩 109.24.01	本 田	元高 石 2,435.632	石 2,606.735	町畝歩 221.18.04
正保2（1645）年以前	新 田	元高 10.272	9.515	1.65.06	替 地 新 田	元高 16.408	16.326	3.13.17	替 地 新 田	元高 34.398	31.087	5.31.15
慶安1（1648）年					子 新 田		19.291	1.60.17				
承応2（1653）年	浜 新 田		61.028	8.46.24	古 新 田		169.338	19.15.12	辰 新 田		379.518	45.38.14
寛文4（1664）年					平 地 新 田		243.965	26.74.00				
寛文9（1669）年	酉 新 田		11.402	2.76.13								
貞享3（1686）年	酉 午 新 田		15.860	1.84.28								
元禄2（1689）年	浜 新 田		6.422	74.21								
元禄6（1693）年					酉 新 田		25.966	2.46.25				
宝永5（1708）年	（子）新 田		33.943	3.15.29								
享保11（1726）年			2.073	31.27	午 新 田		87.760	9.59.25	午 新 田		6.884	1.05.06
享保12（1727）年	未 新 田		65.216	9.83.05	平 地 午 新 田		8.990	1.16.21				
享保14（1729）年					後 酉 新 田		71.414	16.73.25	酉 新 田		49.296	6.43.12
寛保3（1743）年					亥 新 田		11.091	2.11.26				
延享3（1746）年					平 地 亥 新 田		12.153	2.24.26	寅 新 田		69.601	7.71.24
宝暦5（1755）年					後 亥 新 田		3.172	84.04				
文政8（1825）年												
文政11（1828）年												
文政12（1829）年												
天保1（1830）年					寅 新 田		252.427		丑 新 田		60.934	
天保4（1833）年									巳 新 田		105.736	
天保5（1834）年	午 新 田		22.139		後 午 新 田		29.817		亥 新 田		192.989	
天保10（1839）年					平 地 後 午 新 田		2.133					
弘化3（1846）年					子 申 新 田		65.827					
新 田 高			227.598				1,019.670				896.045	
本 田 高			1,296.565				1,543.395				2,606.735	
合 計 高			1,524.163				2,563.065				3,502.780	
	（山方新田、亀砂新田を除く）								常楽寺領		58.378	4.57.15

のである。半田には廻船三五艘があり、近村亀崎村とともに尾張藩の御用廻船を命じられていた。また、醸造業も早くから盛んで、一九世紀頃から江戸への移出量も少なくなかった。中埜半左衛門家、および同家の分家筋の家でもこれに関わるものが少なくない。なかんずく、化政期に始まった製酢業では、一族中埜又左衛門家が江戸の握り寿司の普及にともない発展し、今日の中埜酢店（ミツカン酢）のもとを築いた。

こうした商業経済の発展もあり、寛文期に家数三四一軒、人口一八四二名の規模であった同村は、「尾張御行記」（寛政期）段階には五八四軒、二四九六名の規模に拡大する。近代に入っても醸造業はさかんであり、それによって蓄積された資本は他の産業へも振り向けられていった（半田村、および周辺村落の概況に関しては第二表も参照されたい）。

さて、中埜半左衛門家は、こうした地域にあり、その発展に直接関わってきた家といえる。ただし、文政一〇年（一八二七）にまとめられ、その後書き継がれた同家所蔵の過去帳によれば、初代半左衛門は宝永四年（一七〇七）三月六日に没しており、また、同家の庄屋役就任は、後述のごとく文政四年（一八二一）が最初である。よって、一般にいわれるところの土豪的な系譜を引く家ではなさそうである。近世中後期、経済的活動のなかで伸長していった家と見られる。前述のごとく何軒もの分家を出しており、なかでも中埜半六家、中埜又左衛門家は大きく伸長し、愛知県下でも有数の地主となり、また醸造業を行うにいたる。また、一族の結束も強く近世後期より共同出資で事業を行うことも少なくない。さらに同一族は、小鈴ヶ谷村の醸造家盛田氏とも度々縁組を行っており、醸造業面での係わりも想像されるところである。なお、中埜家では、「中埜」・「中野」を永く混用していたが、明治一〇年代中頃に「中埜」に統一している。本目録解題では「中埜」に統一したが、目録の記事は文書記載に従った。

先にも記したように史料の整理作業・分類編成は、個々の文書を発生させた集団や組織に注目しながら作業を進めたが、その結果、化政期・明治三〇年代にかけての中埜家の様々な役職への就任や経営にかかわる活動の様子が浮びあがってきた。そして、文書はいくつかの群として捉えることが可能であった。一つは、庄屋役や藩からの臨時の御用、明治期にいたつての戸長やその他の公職に関係する内容のもの、また、半田村を中心とした頭百姓による相続譜に関するもの、それから中埜家による家政・家経営に関するものである。それぞれのなかはさらにいくつかの小群からなるが、本目録ではそれを大項目、中項目、小項目というの三つの項目によって示した。中項目・小項目の設定もその設定基準は、

第2表 半田村および周辺村落概況

	半 田 村		成 岩 村		乙 川 村		岩 滑 村	
	前期	後 期	前期	後 期	前期	後 期	前期	後 期
元 高	石 1,090.079	—	2,435.632	—	1,213.360	—	510.445	—
概 高	石 1,296.565	1,490.622	2,606.735	3,139.121	1,543.395	2,212.861	562.637	915.377
田 方	畝 6941.27	8495.19	14318.12	17216.24	7680.14	12800.24	3558.16	5061.19
畑 方	畝 2346.15	4032.28	7799.22	11149.02	3243.17	9062.20	1415.28	2919.19
家 数	軒 341	584	365	1,076	258	907	83	273
人 数	1,842人 男1,002 女 840	2,496	3,063 男1,576 女1,487	4,945	1,834 男954 女880	3,969	580 男286 女294	1,301
牛 馬	67疋 牛27 馬40	16	209 牛 79 馬130	77	114 牛45 馬69	11	35 牛18 馬17	馬21
塩 浜	—	—	畝 1,432.10	943.25	2,718.21	2,220.20	—	—
雨 池	個 7	8	22	32	13	10	7	7
小 船	艘 10(小船) 7(流もち島取船)	10(小船) 7(流モチ 取船)	3	3(波不知船) 32(藻取船)	3(櫓船)	3(波不知船) 2-30(藻採船)	—	—
廻 船	艘 35	35	—	—	1	—	—	—
酒造業	軒 —	25	—	5	—	7	—	—

出典 前期は「寛文村々覚書」、後期は「尾張御行記」、および『半田市誌』本文篇（1971年刊）による。
石高表記のうち合以下は省略。反別表記のうち歩以下は省略。

基本的に大項目設定の方針と変わることはないが、具体的な項目名の設定においては、必ずしも組織名やその組織における役職名に限らず、たとえば「醸造業」「金融」といったように活動内容や史料の内容によって附けた項目名もある。しかし、その元における文書の編成は、やはり文書を発生させた組織や集団との関係に留意して行つた。その結果、中・小項目は大項目のもとに階層的な構造をとつて現れてきたといえる。

三 庄屋・御用関係

江戸時代、中埜家では居村である半田村の庄屋役をはじめ、近隣の成岩村、岩滑村の庄屋役や、尾張藩からの臨時の御用を勤めた。ここでは、それぞれについて確認の範囲で明かにし、文書の分類編成の意図を示しておきたい。

まず、半田村の庄屋役について確認したい。同村の庄屋役を論じるには、前述のごとく同村が上と下に別れていた点に留意しなければならないが、藩の手による「寛文村々覚書」ではこの点について何ら記載がない。「村々御行記」では上下に分かれるとの記事は見えるものの、村運営面での両者の関係についての記載はない。中埜家文書からも両者の関係は必ずしも明らかでないが、中後期には庄屋役も別個に置かれ、年貢取立などもそれぞれ別個に行われたようである。しかし、諸役負担などは、上と下で分担しており、行政的な面では必ずしも自立しているとは言い難い面もあった。こうした状況はもちろん諸帳簿上に表れており、記録のあり方に大きな影響を与えている。中埜家は下半田村に属し、庄屋役もこの下半田村の同役に就任したわけである。なお、近世後期の村高は半田村全体で高一四九〇石六斗二升七合であり、このうち上半田村は一〇三五石八斗一升と六割以上であり、下半田村は四五四石八斗一升七合である（第三表参照）。石高では上半田村の村規模が二倍以上であるが、経済活動のあり方からすれば、港湾都市であり、また醸造業の基地でもあった下半田村が大きく上回ることは間違いない。

ところで、下半田村は、村内がさらに南と北の二組に別れていた。そのため文書管理を含めた村運営についての理解はより一層困難なものとなっている。南北両組の高構成を確認するならば、第三表の通り、それぞれ二二〇石余である。なお、この南北の組は、あくまでも下半田村内のことであり、下半田村そのものを二つに裂くというような動きはない。

南北両組には組庄屋とでもいうような「組頭」があり、村支配についての多くの事務は、年貢の徴収をはじめ、関連する帳簿の作成・管理まで、この組頭によって行われていたと見られる。このためか、中埜家が都合十数年に及び庄屋役を勤めた割には、その点数が少なく、内容的にも大きな片寄がある。たとえば、年貢諸役に関する文書は、相応の数量が伝存しているが、その大半が、南北組頭から提出された年貢取立に関する帳簿であり、年貢割付状などは見られない。これも下半田村庄屋役の職務内容に規定されたものといえよう。

さて、中埜家では下半田村の庄屋役を、第四表に見るように文政四年（一八二二）一二月から文政十一年（一八二八）一二月までの七年間、弘化三年（一八四六）から弘化五年（一八四八）までの丸二年間、そして幕末元治頃にも勤めた。同表からも明らかなように下半田村の庄屋役は文政→天保初年頃までは任命された人物が相応の期間勤めていたが、この期を機に任期二年の輪番制に移行する。『半田町史』（三二九～三三八頁）によれば当時下半田村の庄屋役は株化しており、それを有する一四名程の重立ち層が交替で行ったという。

中項目「半田村庄屋」に分類編成した文書は、いわゆる庄屋文書であるが、右のような半田村庄屋役のあり方が、文書の伝存形態や伝存文書の種類などに大きな影響を与えている。これらも念頭に小項目には、「領主」・「庄屋引継」・「村政」・「年貢諸役」・「村方取替金」・「百姓扶助」を立てた。「領主」には、藩からの布達や村からの願書などを収め、「庄屋引継」には庄屋役の交替に伴う文書・物品の引継書、庄屋就任にともなって作成された便利帳などを収めた。この種の文書によって、当時の庄屋が引き継ぐ必要があった文書の概要も明かとなるわけであり、また、文書管理の一端も明かとなろう。さらに、文書の分類編成においても、この種の文書は重要である。次に文政四年中埜半左衛門家が、初めて庄屋に就任した際に先役吉蔵より引き継いだ文書・物品のリストを示そう（史料番号一五九）。

第3表 半田村耕地構成表

耕地内訳	下半田村		上半田村
	南組	北組	
本高	石 197.856	石 182.906	—
浜新田	7.0845	17.884	—
子新田	6.640	6.424	—
八石新田	1.2525	2.3015	—
西・午新田	7.066	7.5365	—
未新田	9.084	8.854	—
合計	石 228.983	石 225.906	石 1,035.810

出典 合計値は文政5年「御年貢仕立目録」（史料番号59）による。また両組の耕地別石高の内訳は以下の帳簿による。
 同年「御年貢勘定并差引目録」（史料番号67）
 同年「御年貢勘定并指引目録」（史料番号72）

第4表 下半田村庄屋一覽

庄 屋 名	期 間	
孫 四 郎	寛政2年(1790) ~ 文化4年(1807)	18年
吉 藏	文化5年(1808) ~ 文化7年(1810)	3
新 兵 衛	文化8年(1811) ~ 文化14年(1817)	7
吉 藏	文政元年(1818) ~ 文政4年(1821) 12月	4
中 埜 半 左 衛 門	文政4年(1821) 12月 ~ 文政11年(1828) 12月	7
小 栗 半 七	文政11年(1828) 12月 ~ 天保元年(1830)	2
庄 助	天保2年(1831) ~ 天保5年(1834)	4
小栗三郎左衛門	天保6年(1835) ~ 天保7年(1836)	2
又 左 衛 門	天保8年(1837) ~ 天保9年(1838)	2
小栗太郎左衛門	天保10年(1839) ~ 天保12年(1841)	3
中 野 半 六	天保13年(1842) 5月 ~ 天保15年(1844) 4月	2
小 栗 半 七	天保15年(1844) 4月 ~ 弘化3年(1846) 4月	2
中 埜 半 左 衛 門	弘化3年(1846) 4月 ~ 嘉永元年(1848) 4月	2
茂 右 衛 門	嘉永元年(1848) 4月 ~ 嘉永3年(1850) 6月	2
久 八 郎	嘉永3年(1850) 6月 ~ 嘉永5年(1852) 7月	2
小栗三郎左衛門	嘉永5年(1852) 7月 ~ 嘉永7年(1854) 10月	2
中 埜 又 左 衛 門	嘉永7年(1854) 10月 ~ 安政3年(1856) 3月	2
小栗太郎兵衛	安政3年(1856) 3月 ~ 安政5年(1858) 3月	2
中 野 半 六	安政5年(1858) 3月 ~ 万延元年(1860) 3月	2
小 栗 半 七	万延元年(1860) 3月 ~ 文久2年(1862) 3月	2
(中埜半左衛門カ)	文久2年(1862) 3月 ~ 元治元年(1864)	
(小栗富次郎カ)	元治元年(1864) ~ 慶応3年(1867) 11月	

出典 『新修半田市誌』上巻、739頁。ただし、天保13年以降は天保13年「永代金銀差引帳」(史料番号280)による。

（表紙）

文政四年

村方小たんす入書記

已十二月

小簞笥入目録

一御前帳
北組
南組

ノ四冊

一成岩御前帳

式冊

一質券帳

壹冊

但シ奥印之節成岩畑持并村方高張田畑持之小前之分者田畑并金御考奥印可被成候事

一質券帳

新一冊

一式百六拾四文

質券帳書替料集り

一検地写

一冊

一別帳下

并 増減帳 綿布役帳

箱 入

御勘定

鉄砲往来札

壺

御鷹方

鉄砲往来

壺

御鳥見方合印

壺

千賀様合印

壺

✕

一朝熊こくら蔵様

集り金式朱ト百八拾式文

一御船手

壺卷

壺引出し入

一卯年より巳年迄送書

一卷

一願書留

一御調達古証文

拾八通

一孫九郎頼母子講

手形四通

一小ひき出し入

一金五拾兩ニ古川様手形壺通

一文政元寅年御調達御手形壺通

一江浚返上金御通一枚

一頼母子大帳

壺冊

一十露盤

壺挺

先役

吉藏

(文政四年)
巳十二月

庄屋

半左衛門殿

同村には「村方小筆筒」と呼ばれる御用筆筒があり、そこには「御前帳」（＝検地帳、おそらく慶長一三年備前検地帳）をはじめ、村方の重要文書が収納されていたが、その点数は極めて少ない。非現用的なものは全て除き、引継を要するもののみに限ったと見ることもできようが、それにしても少ない。年貢関係のものなどは全く見あたらないのである。下半田村では南北組頭が組庄屋とでもいべき役割を果たしていたので、同職にも村方の基本的帳簿が保管されたものであろうか。

また、文政十一年（一八二八）十二月、半左衛門が庄屋役を辞めるに際し、跡役七助への文書・物品引き継ぎ確認のために作成した帳簿、「村方諸道具渡判取」（史料番号一六五）によれば、ことに庄屋役に付属する諸道具の受渡し状況が明かとなるが、文書類に關しても、「御役人衆様御休泊帳壺冊」「御用袋式ツ」「御状箱式ツ」「御用状持届通式冊」「御触状写留壺冊」「下半田村方印形壺ツ」「古大筆筒 御触留 古御前帳 宗門帳 其外諸書付入」などといった記載が見える。庄屋文書は袋・箱・大筆筒などといった容器に入れられ保管されていたわけである。

ところで、庄屋の交替に伴っては、右のような引継文書の作成に止まらず、新規庄屋が職務遂行のために便利帳のようなものを作成することがある。この種の文書は、ことに当時の村運営のあり方、組織としての村の性格を理解する上で有効な記事が少なくない。そして、村運営のあ

り方や組織としての性格が明らかになれば、史料群の編成作業上、役立つことも多い。中埜家では文政四年一二月の庄屋就任から間もない翌文政五年正月「御年貢仕立目録」(史料番号五九)と題する帳簿を作成している。本帳簿は年貢の割付作業などに関する知識を得るために作成されたものであり、越高、諸掛などの種類や賦課方法を、上半田村との関係、下半田村の南組と北組の関わりなどに留意して詳細に記している。小項目庄屋引継には、以上のような関係文書を納めた。

「村方取替金」「百姓扶助」という小項目を設けたが、前者は村運営において歴代の庄屋が立て替えてきた年貢などをはじめとする様々な村運営費の扱いに関するものである。下半田村では庄屋の経費立て替えが多く、かなりの損失を負うこともあり、役職引受者がいない状況すら生まれていた。近世後期、下半田村では庄屋役が年番化していくが、この施行の前提には、こうした状況もあったのである。後者「百姓扶助」には、年貢未納に陥った百姓などの救済を目的に庄屋が庄屋給金などを陣屋に預け、その利倍運用を目指したものを収めた。『半田町史』(四〇一頁)によれば、六代目中埜半左衛門が庄屋であった時期(文政五―一一年)にそれが設けられたという。

「御用記録綴」には、近代になって同家が綴ったと見られる御用に関する簿冊型の記録類をおいた。一部明治期のものも綴られるが、後年になって綴った目的は明らかでない。

中項目「成岩村庄屋」には、八代当主半左衛門が成岩村の庄屋役を勤めたときの文書を収めた。同職への就任理由などは不明であるが、中埜家では元治元年(一八六四)から翌慶応元年(一八六五)にかけて勤めている。ただし、前掲第一表に示したように成岩村も三五〇二石余に及ぶ大村であり、村内は南・北・西・北新居・板山などの組からなり(『半田市史』本文編二二三頁)、それぞれ別個に運営されていたと見られる。中埜家が担当したのは、そのうちの南北両組であり、高四六〇石程の地域である。中埜家に残る成岩村庄屋関係の文書は、年貢徴収関係のものだけであるが、その帳簿は南組組頭(榊原銀作)と北組組頭(三浦六右衛門・半右衛門)から中埜家に提出されたものである。一般には、庄屋が作成するようなものが、組頭によって作成され一定の手続きを経た上で中埜家に提出されたのである。小項目を南組と北組にそれぞれ分けた上で編成することも考えられたが、最終的な年貢取立に関する報告が、南北両組の名の元に行われていることに注目して南北で分けずに「元治元年年貢勘定」「慶応元年年貢勘定」という二つの項目を立てた。

中項目「岩滑村庄屋・取締役」では、前述の中埜家八代当主半左衛門が勤めた近村岩滑村の庄屋役に関する文書と、同村の取締役に関する文書を取めた。八代目半左衛門は、岩滑村の庄屋役を安政四～五年（一八五七～五八）にかけて勤め、万延元年（一八六〇）からは後見役、そして、元治元年から慶応元年にかけて再び庄屋を勤めた。さらに慶応三年には藩当局より同村の取締役に任じられたが、慶応四年二月病気を理由に退任した。

岩滑村は、幕末段階で本田・新田高合わせて九八五石三斗一升二合の村であり、村内は西・東・平井・奥という四つの組からなっていた。文書の残り方から見て半左衛門が関係した庄屋役は、西組と東組であったと考えられるが、年貢・諸役の徴収にかかわっては、四組全体に関する記載も見られる。また、庄屋役を勤めたのは半左衛門だけでなく、安政期には下田村の小栗三郎左衛門と相役となり、元治の折には小栗三郎兵衛と一緒に勤めた。ただし、二人揃って執務に当たったわけではなく、年番で行っていたようである。たとえば、元治元年「村方差引帳」（史料番号八九）には、「先役庄屋小栗三郎兵衛」より「後役半左衛門」へといった記載も見えるのである。

ところで、安政五年「村方差引帳」（史料番号八八）によれば、安政四年九月、岩滑村は中埜半左衛門と小栗三郎左衛門から金二八七両二分余を一五カ年賦返済を条件に借用している。一カ年三五両の返済である。こうした多額の借金を村が負わねばなかった理由は、村方の貧窮化にあったが、中埜や小栗の両家が借り受け先となった理由は、彼らが岩滑村の耕地を不在地主の形で多く集積していたことと無関係でなろう。右の貸借も彼らの地主経営の規模拡大の機会になったと見ることもできるが、地主であるが故に村方の扶助要求を了解せざるを得なかったという面もあろう。岩滑村庄屋役への就任も、こうした状況と関連して決ったものではなからうか。それは前述の成岩村の場合も同様であったと思われる。

中項目「争論立会人」では、中埜家が藩からの指示によって争論の立会人を勤めたときの文書を取めた。近世中期以降領主は内済による紛争解決を薦め、中立的な立場にある人物に紛争解決に当るよう指示するが、ここで取り上げた文久元～二年（一八六一～六二）にかけての長尾村市場組庄屋三井伝左衛門の年貢諸役に関する不正でも同様の措置がとられた。本目録では、これを藩からの臨時御用と見なしここに位置付けた。中項目「尾張藩木綿世話方」も、やはり藩からの臨時御用の一つである。藩では「木綿世話方肝煎」（この呼称は木綿問屋・木綿世話方・木綿江

戸積世話方・木綿世話方肝煎などと改称され、性格も大きく変化した）を置いて木綿取引の統制に努めていたが、慶応二年新たに「貧民木綿織立産業世話人」を任命して貧婦のために糸の仕入れ、販売の手助けなどを開始した。八代目中埜半左衛門も藩鳴海陣屋において、この世話人を命じられた。しかし、こうした扶助を目的とした世話人の新設は、従来からの「木綿世話方肝煎」の職権を脅かすことになり、「木綿世話方肝煎株」を大野村浜島伝右衛門家より金一〇〇〇両をもって嘉永六年（一八五三）に譲渡を受けていた中埜半六家では他の肝煎とともに嘆願運動を展開する。なお、近代になると中埜半左衛門家は、浜島家から木綿世話方肝煎株を取得した半六家へ資本参加し、木綿買継業にも関わることになる。この点については、後に再度触れたい。知多半島における木綿問屋と藩の経済統制のかかわりに関しては、林英夫著『在方木綿問屋の史的展開』（一九六五年、塙書房）に詳しい。中埜半左衛門家文書の利用も見られる。

中項目「尾張藩海岸守裁許役」は、近世後期の沿岸警備に関連する。これも臨時の御用の一つであり、幕末に海岸裁許役見習に任じられた半左衛門嫡子太一郎宛の任命状（史料番号六二一一）には異国船渡来の折の対応についても記されている。

四 役場・公職関係

幕末期に半田村、及び周辺村々の庄屋役を勤め、また藩の臨時御用に関係した八代目半左衛門は、明治元年（一八六八）段階で五〇歳程であったが、職務多忙によるものか当時よりやや病がちであった。これを助けたのが嘉永三年（一八五〇）生まれ、明治元年段階で一九歳であった嫡子太一郎（多一郎、九代目半左衛門）である。八代目半左衛門はこの手助けを得ながら幕末から明治にかけて御用や公職を多く勤めていったのである。しかし、関係する文書は散在している感がある。これは同家の文書保存のあり方に問題があるというより、近世後期に導入された庄屋役の年番制が影響していると見られ、そうした状況は明治期に入ってもしばらく続いたように思われる。

さて、明治四年七月の廃藩置県にともない、村々も新たな編成を受けることになり、半田・岩滑村などは名古屋県に（明治五年四月二日に愛知県と改称）、尾張藩付家老成瀬家の給知であった乙川・成岩・有脇・亀崎などの諸村は犬山県の管轄となった。しかし、犬山県は明治四年一月

には名古屋県へ編入となる。ただし、知多郡下の村々は、この異動に先立ち明治四年十一月一日、名古屋・犬山県を問わずすべての村々が新たに設けられた額田県の管轄となった。しかし、額田県は長くは続かず明治五年一月二七日に廃止となり、知多郡下の村々はすべて愛知県へ統合された。

額田県では明治五年三月に大区小区制を採用し、知多郡は第一大区となり、半田・岩滑・成岩などは第四小区、周辺村落乙川・亀崎・有崎などは第二小区となった。八代目半左衛門はこの時副区長となっている。しかし、前述のように同年十一月の額田県の廃止、知多郡の愛知県への編入により、同郡における編成はそのまま愛知県に引き継がれ第七大区とされた。大区会所は半田村に設置された。半左衛門はこの異動にともない第七大区の権区長となる。これは額田県における副区長に相当する。また、同人は半田村の戸長も勤めていたが、明治六年頃には高齢であることも理由に辞任している。

その後、明治七年四月には小区長・副戸長が廃止となり、小区に戸長、各町村に副戸長が置かれたが、当時、中埜多一郎（九代目半左衛門）が第四小区の戸長を勤めた。

明治九年八月、大区小区制は廃止となり、愛知県は全県を一八に分割して区制を敷くが、これにともない半田村などは第八区となった。会所は下半田村に設けられた。また、明治一〇年には、村会が開設されることとなり、翌一一年一月の村会議員選挙によって、八代目半左衛門が第八大区第一小区組村会議員に当選した。しかし、同人は高齢を理由に当選を辞退している。

さらに明治一一年七月の地方三新法の施行にともない、愛知県では同一二月に区制を廃止し、郡区町村制を実施した。半田村に郡役所が置かれ、原則として江戸時代の旧村を単位に戸長役場が置かれることになった。また、この施行にともない、戸長選挙が実施され、中埜又左衛門が戸長となった。

その後半田村の戸長には中埜半六・小栗三郎などの名前が見え、明治一七年には、九代目中埜半左衛門が就任し（八代目中埜半左衛門は、明治一六年六月二八日、六八歳で没した）、翌一八年頃まで勤めたようである。

なお、小栗三郎から中埜半左衛門への戸長の交替にかかわっては戸長役場の文書・諸器具を引き継ぐために「引渡目録」（史料番号一五三）が

作成された。この帳簿のなから「諸帳簿引渡目録」の見出しのもとに示される項目を示すと、「戸籍帳簿式拾八冊」「地所建物船舶二関スル帳簿三拾七冊」「兵事帳簿四冊」「衛生帳簿八冊」「会計帳簿七冊」「収税帳簿三拾冊外彙葉」「会議二関スル帳簿参冊」「庶務帳簿壹百七冊」「雑種帳簿六拾四冊」「海員雇入雇止二関スル帳簿拾壹冊」「第一部落会議用帳簿五冊外書類彙束」であり、各項目ごとに具体的な帳簿名が記される。

また、数量は「前引継分」と「増加分」とを分けて記す。「前引継分」は小栗三郎が戸長に就任するに際して、前戸長より引き継いだものであり、「増加分」は小栗就任期間に増加した分である。こうした徹底した帳簿管理のもとでは、帳簿の所外持出が不可能となる。役場に帰属する文書が成立したといえる。なお、引渡目録に見える文書は明治一一年以降のものであり、戸長役場制以前のものは無い。また、江戸時代の文書も見えない。体制的な転換に対して行政は、記録の保存管理という点では何等有効に機能していなかったといえる。

ところで、中埜家では、この後も様々な役職に就任したが、これに関する文書はみられない。右に述べてきた明治一〇年代末で、この種の文書は途絶える。

右において中埜家が副区長、小区の戸長、戸長役場の戸長などの役職に就任したことが確認できた。これにもとづき本目録の分類編成においても、役職ごとに文書類を集め項目を立てたが、当該期の半田村における地方行政の展開と各役職への就任者を明確にする記録は充分に残っており、不明な点も多い。不備もあろうかと思う。この点了解されたい。なお、当該期の文書整理では、右に見てきたように明治期、頻繁に行政機構上の改変を受けることが多く、各文書がいかなる管轄によるものか問題となることが少なくない。その際有効な判断材料となるのが、明治期に入って利用されはじめる文字入りの罫紙である。中埜家文書のなかにも「第七大区」「第一大区」「第八大区」「半田村戸長役場」といった文字が中央に入った罫紙がみられるが、これが役職や管轄組織を決定する上で大きな役割を果たす。こうした罫紙の利用は明治に入り行政文書作成における紙の利用の新しい基準ができたことによるが、本目録上では、利用されている罫紙の違いについて表記することはできなかった。

なお、前述のごとく明治二〇年代以降における中埜家の公職への就任状況を文書から確認することはできないが、『新修半田市誌』中巻（一五頁、平成元年一一月刊）によれば、九代目中埜半左衛門が半田町町長を明治二九年八月から同三三年八月まで、一〇代目半左衛門（俊三）が

同じく町長を大正九年から同一五年まで勤めている。さらに同人は昭和一二年一二月、市政施行にともない初代市長となり、以後昭和二年三月まで九年余りにわたって同職にあった。また、昭和一七年四月には、市長職を勤めながら衆議院議員となっている。

中項目「教育・通信」では、右の地方行政にかかわる役職以外の、学校教育と郵便局に関する文書を取り上げた。中埜半左衛門は、明治一四年に半田学校の用地を取得する際、半田町南組の惣代となっている。郵便局関係では明治九一七七年にかけての勘定帳が揃っている。この帳簿の作成は「浜島店茂兵衛」名でなされており、その帳簿が中埜家に伝存された理由が明瞭でないが、「郵便局詰浜島」といった記載も見えており、浜島茂兵衛が中埜家に雇われ、郵便局に詰めていたと考えることもできる。浜島茂兵衛は「浜島木綿店」の経営にもかかわった人物である（後述）が、中埜家との具体的な関係は不明である。なお、郵便局の開局は明治九年四月のことである（史料番号五七六）。

五 相 続 講

中埜家文書に見られる相続講（永栄相続講、永々相続講、永栄講などとも称する）に関する文書は、いわゆる講中の文書である。庄屋文書でも、中埜家の経営などにかかわって形成された家の文書でもない。大項目の扱いとしたのもこのためである。

講中の文書が、どのように管理されていたものか必ずしも明らかではないが、講が組織された文化二二年（一八一五）以降、講世話人が年番でおかれ、この者達によって講は運営されていた。講中の基本帳簿類は、こうしたもとでおそらく年番から年番へと引き継がれ、共同管理されていたと考えられる（なお、世話人に就任する者はほぼ決っており、中埜半左衛門・中埜半六・小栗半七・三浦六右衛門など四・五人のもの達であった）。この講は永きにわたって続いたが、明治二四年（一八九二）に中部地方を襲った大地震による災害を機に解散となった。中埜家文書に講中の基本帳簿が、まとまって伝存するのも、この解散を機に中埜家が一括管理することになったためと見られる。

構成員は講結成時が二五名であり、解散時も二六名とほぼ変化がない。講員の居村が記される文書は見えないが、ほぼ半田村（ことに下半田村）の村役人・頭百姓など重立ち層とみられる。講結成の目的は、富農・豪商であった講員の経営資金の確保・家の存続にあるとみられる。結

成時の取り決め証文では二〇〇〇両に至るまで利息には手を付けず、これに至った後は利息金のうち半金のみ講員に分配し、残り半分は積み上げるとする。さらに、積金が一万両に至ったら、利金のうち九割は講員に配分し、五分は「御上」に上納し、残りの五分は「善事」のための経費にすると取り決める。幕末には積金も二〇〇〇両を越えるが、講員への配当金分配は積金一〇〇〇両を越えた天保一〇年（一八三九）頃より毎年五〇両ずつ行っている。なお、幕末期から明治期にかけて、二〇〇〇両に及ぶ講金は毎年同じ者達に貸し付けられている。中埜半左衛門家もこれに含まれ、その借入額が一〇〇〇両に及ぶ年も少なくない。年利八・九分程の利率であり、経営上有用な資金となったことは間違いないだろう。

しかし、明治一七年（一八八四）には帳簿管理をめぐって争論となり、それまで積み上げてきた積金を分配するに至る。基本的にはこの年をもって相続講は終わったともいえるが、積金の一部をそれまでの掛金額に応じて郵便局に預け、存続させている。もちろん、かかるものでは講員が、積金から融資を受けることもできなくなり、その性格を大きく変えたわけである。いうまでもなく、伝存する文書の性格も、この明治一七年を機に大きく変わっている。

六 中 埜 家

中埜家文書は、右に見たような御用や公職にかかわる文書以上に、家の経営にかかわる文書の方が数量的に多い。ことに企業などへの資本参加、地主経営などに関するものかなりの比重を占めている。こうした経営関係の文書をはじめ、より家内部にかかわる文書を本目録では、大項目「中埜家」のもとにまとめた。なお、地主経営関係にかかわる下佐脇新田関係の文書は、地主関係文書であることから、この大項目「中埜家」のなかに位置づくべきものともいえるが、下佐脇新田の性格から別個に大項目を立て独立させた。詳しくは大項目「下佐脇新田」に関する解題を参照されたい。

さて、大項目「中埜家」のもとには、中項目「家政」・「資産勘定」・「醸造業」・「浜島木綿店」・「半田倉庫」・「金融」・「地主経営（全体）」・「耕

宅地譲渡・地主経営（半田村）」「耕宅地譲渡・地主経営（成岩村）」「耕宅地譲渡・地主経営（岩滑村）」「耕宅地譲渡・地主経営（乙川村）」「地主経営（諸所）」を立てた。以下、それぞれの群としての性格・内容などについて触れておく。

中項目「家政」は、より家内部にかかわるものによって編成した。なお、様々な経営に対応して、家内家政機構がどのように組織化されていたものか興味深い、必ずしも明らかでない。ただし、明治四年「職工日雇帳」（史料番号五二七）には、「中埜氏営繕課」といった記載が見え、明治十三年「飯米出納帳」（史料番号五二六）には、「中埜氏会計課」とある。この実態は不明であるが、家政組織が一定度機関化していたことも予想される。ただし、毎日の飯米使用量を記した「飯米出納帳」の記載によれば、一日に消費する米の量は一升程であり、その消費量から見ても「中埜氏営繕課」と呼ぶにふさわしい組織化があったと見ることは少々疑問もある。しかし、その実態はともかく、右から家内部の事項をその内容に応じて組織化しようとする意識を、読み取することは充分可能であろう。なお、分類編成作業においては、右のような表記が徹底していないため、これを基準に作業を行うことは不可能であったが、その意思の尊重に努め作業を行った。小項目には「領主」「役所」「年貢・納税・所得金高届」「日録・日記」「幕末政治情勢」「当座帳」「金銀出入帳」「職人日雇」「飯米出納帳」「年内入用帳・家内入用帳」「家普請」「信仰・学芸」「医療」「音信」を立てた。

中項目「資産勘定」には、中埜家の年内収支総決算にかかわる帳簿類を収めた。各帳簿類は基本的には中埜家において作成されたものといえる。小項目には「年内勘定帳」・「年内収支決算帳」・「資産差引勘定帳」・「年内勘定総計下調帳」・「年内収支決算下調帳」・「資産歳計調査帳」という帳簿名に準拠して六つの項目を立てた。帳簿名のみでは、内容が不分明であるので簡単に確認しておく。

「年内勘定帳」（天保七年～明治二〇年）は、中埜半左衛門家全経営の年内収支勘定帳である。地主経営に関しては、小作地のある村ごとに収支勘定を行い、貸屋収入や金銭貸借にかかわる収益なども記す。もちろん、時代によって経営内容は変化し、明治期になれば株式などの債券、企業への投資、銀行利息などの品目も上がり、中埜家の様々な経営へのかかわりも把握できる。中埜家が最も重視した経営帳簿と見てよからう。「年内収支決算帳」（明治二一～四三年）は、右の「年内勘定帳」と同形式のものである。この帳簿によって中埜家の経営内容を天保七年（一八三六）から明治四三年（一九一〇）まで同一の基準で検討可能となる。すでに甲斐英男氏による「幕末・明治期における一地主の小作地経営につ

いて」(『史学研究』六三号)と題する論文があるが、今後さらに多様な研究も可能であろう。

「資産差引勘定帳」(明治二九、四五年)は財産の種類ごとにおこなった差引勘定帳である。「年内勘定総計下調帳」(明治八、二四年)は右にみた「年内収支決算帳」の下帳である。そして「年内収支決算下調帳」(明治三五、四四年)もこの「年内勘定総計下調帳」と同内容と見てよい。ただし、記載形式が異なり、後者は表形式をとる。「資産歳計調査帳」(明治二四、三九年)は「年内収支決算帳」の総計部分のみを書抜いたものといえる。

以上のようにここに示した帳簿類は、中埜家の収支総決算帳である「年内勘定帳」・「年内収支決算帳」を中心に、この帳簿とのかかわりにおいて中埜家において作成されたものである。作成理由は経営の拡大にともない収支状況を詳細に掌握する必要性が生じたことにあるが、興味深い点は中心となる「年内勘定帳」・「年内収支決算帳」の勘定・作成にあたって、中埜一族の者が参加している点である。たとえば弘化二年の「年内勘定帳」では、巻末において中埜半左衛門、中埜又左衛門、中埜半六、中埜伝之助が署名する。これらはいずれも中埜半左衛門家の分家のものであるが、分家して相当時間も経過しており、中埜又左衛門は天保八年から天保九年にかけて半田村の庄屋役も勤めている。中埜半六も同様で天保一三年から弘化三年まで庄屋役を勤める。経営面でも前述したように、それぞれ半左衛門家に勝るとも劣らぬ経営状況にあった。また、右の年内勘定帳によれば、弘化二年の収支状況は地主経営による利益が四二三両余、金銭貸借による利息が二六一両余、そして中埜家の支出総額が金二七六両余であり、ここにおける純益は四〇七両余に達している。したがって、分家者の収支勘定への参加が、財政事情が不健全であることによるものでもない。やはり、家は別個のものとして独立していても、縁類としての結び付きの強さが個々の経営を結び付け財務状況にかかわるような状況をもたらしたといえようか。こうした形態は近世を通じて見られるのである。また、後述するところであるが、分家後においても縁組は頻繁に行われ、また明治になると共同出資で銀行を創設したり、共同で会社経営などに乗り出す。近世における同族意識が近代になっても色濃く残っていたといえる。

中項目「醸造業」では、酒造・豊啓店(味噌)・大松屋・丸三麦酒に関する四つの小項目を立てたが、この小項目の立て方も、単に内容によって分類したものではない。いずれも中埜家がかかわっているが、文書の発生主体はそれぞれ異なる。

中埜家が酒造業に何時よりかわったものか、現存する史料からは明らかでないが、天明八年（一七八八）には四〇〇石の酒造株を有したことが確認できる（『新修半田市誌』上巻、六二九頁）。しかし、その後、天保期の酒造人のなかには、中埜半左衛門の名が見えない（『新修半田市誌』上巻、七二〇頁）。しかし、慶応元年（一八六五）、一族の中埜又左衛門より酒造関係の施設を金一〇〇〇両を持って買い上げる。中埜又左衛門家が醸造業を醸造にしばった結果ともいわれるが、この文書が、現在では中埜家と酒造との関係を知る初発のものであり、明治期における同家の酒造業への関わりは、ここに始まったと見ることもできそうである。実際の醸造に関する文書は、明治三年から明治二二年にかけて「酒造勘定帳」「有荷調差引帳」「醸揚勘定帳」などといった諸帳簿類が現存している。ただし、その帳簿表紙には「中埜蔵所三文案平六」などに見える。帳簿の内容からは、中埜半左衛門家との関係は見いだせないが、おそらく、三文案平六が中埜家に雇われるか、あるいは同人に請け負わせて醸造を行っていたものと思われる。三文案平六が中埜家と資金面でも関係があったことは、先に記した中埜半左衛門家全経営の年毎の収支勘定帳である「年内収支勘定帳」の金銭収入に関する記事のなかに当該期毎年「三文案」の名前があることから明らかである。中埜家文書のなかに見える酒造に関する文書は、この三文案から中埜家への報告書であったと見てよからう。ただし、この酒造業は中埜半左衛門家の単独出資で行われたものではなく、中埜半六・小栗富治郎（中埜半六家別家）の共同出資であった（『新修半田市誌』中巻、一七四頁）。

そして、小項目「豊啓店（味噌）」にかかわる文書は、右の酒造生産を味噌生産に転換させたことによるものであり、やはり帳簿は資本参加した中埜家への報告書といえる。味噌製造への転換は明治三三年になされ、豊啓店と称し、小栗啓治郎によって実際の経営はなされた。中埜家文書のなかには明治三三年以降の史料が見えないが、明治三七年丸豊合資会社に改組されるまで、同店舗名で味噌製造がなされた。なお、同合資会社への改組後も、中埜半左衛門家では資本参加したが、関連文書は見られない（参加状況は「年内収支決算帳」によって明らかとなる）。

小項目「大松屋」に関する文書は、中埜又左衛門と共同出資で行った酒造に関するものである。大松屋の詳細は不明である（『新修半田市誌』中巻、七二五頁）。

小項目「丸三麦酒」には、知多半島における本格的な最初のビール会社である丸三麦酒関係の文書を収めた。麦酒製造は中埜酢店中埜又左衛門（四代目）によって、明治二〇年頃より準備がはじめられ、二二年には「丸三ビール」と称して初出荷された。その後需要の拡大を請けて、

明治二九年には業務拡張の趣意書を一族一一名宛に出し、資本金を募り「丸三麦酒株式会社」という会社組織に發展させている。中埜半左衛門家は、この趣意書に賛同し資本参加するとともに、同会社の初代社長となっている。社長職は三二年二月の株主総会で中埜又左衛門に引き継がれた（『新修半田市誌』中巻、一七六―一八〇頁参照）。中埜半左衛門家に丸三麦酒に関する文書が見えるのは以上の関係による。

中項目「浜島木綿店」では、浜島茂兵衛による木綿取引、および休業などに関する文書を編成した。中埜半左衛門家文書のなかに浜島茂兵衛の木綿取引に関する文書が見られる理由は、先の醸造に関する文書同様、半左衛門家が資本面で参加したことにありと見られる。店勘定帳などは明治三年より一七年にかけて連続してみられる。

江戸時代の綿織物業は、尾張藩の統制によつて株仲間組織され、木綿世話方肝煎に任命された五名の木綿買継問屋の支配のもとにおかれていた。一族中埜半六がこの問屋株を大野村の浜島伝右衛門より取得したことは既述したところであるが、明治期に至り中埜半左衛門家は、木綿世話方肝煎株を取得した半六家へ資本参加し、木綿取引引き業にも関係したのである。店名を「浜島店」「浜島木綿店」などとするのは、浜島伝右衛門より店名をも引き継いだことによる。経営は茂兵衛という人物に委せておいたとみてよからう。移出先は東京が多かったが、明治一八年の船舶事故により、休業に至つたようである。明治二〇年二月、中埜半六は営業権を藤田茂兵衛に譲っている。この人物はその後明治三〇年代に至つても営業を続けている。その性格は不明であるが、この藤田茂兵衛が「浜島屋茂兵衛」という可能性もある。なお、知多地方は綿織り業が盛んであり、「豊田式力織機」を発明した豊田佐吉の出身村は半田村の隣村乙川村であつた。その発明は明治二八年のことである。知多地方の木綿織生産はこの発明もあつてさらに發展していくが、佐吉自身も三〇年に共同経営で「乙川綿布合資会社」を設立している。

中項目「半田倉庫」には、明治二五年に設立された半田倉庫合資会社に関する文書を収めた。倉庫会社創設の背景には、半田地域の産業都市としての發展がある。明治二五年の「半田倉庫合資会社契約書」（史料番号五八九）によれば、会社は半田町甲九五二番に設立され、資本金一万円である。出資者はいわゆる半田の重立ち層であり、自ら諸産業に関係しているものも少なくない。自らの経営のためにも倉庫創設が必要であつたのだらう。また、明治三二年の「半田倉庫合資会社定款」（史料番号五九〇）によれば、半田倉庫合資会社は資本金規模を拡大し、社屋も半田町一〇四八番に移転させている。資本金は二万円に倍増となつた。出資した役員の中から支配人一人と、業務担当員二人が選出されている。二

五年、三三年の出資者と出資額は第五表の通りである。中埜半左衛門家は、同表に明らかなように出資者であり、また明治三二年の定款などによれば、実際の運営を担当する業務担当員を勤めている。中埜家文書に半田倉庫に関する文書が見られるのは以上の理由による。

中項目「金融」では、「金銭貸借」「講」「質屋」という小項目を立てた。

「金銭貸借」には、貸借理由が不明なものも見られるが、こうしたものも含め、ここに収めた。また、「講」には中埜家がかかわった無尽講関係の文書を収めた。史料が少なく講の性格などは不明である。先に示した相続講に関する文書群とは異なり、ここでしめす講へは中埜家も講員の一人としてかわり、その結果として伝存した文書と見られる。また、中埜家では、質株を尾張藩より得ていた。しかし、質屋業に関する文書そのものは見えない。

なお、本文書群のなかに関係文書は見えないが、中埜半左衛門家では合名会社中埜銀行（明治三四年三月一日設立）の設立に関係し、頭取に就任している。経済面での活動も、中埜一族との関係を中心に広範に及んでいたのである。

中埜家文書のなかには、右に見たように醸造業・企業経営などに関するものが少なくないが、家経営の中心に据えていたものは、地主経営であったと見られる。現存する文書のうち最も点数が多いのも地主経営に関するものである。中埜家では地主経営のためにどのような文書管理を行っていたのであろうか。地主経営に関する文書を、この点を念頭に六つの中項目のもとに編成した。すなわち、「地主経営（全体）」・「耕宅地譲渡・地主経営（半田村）」・「耕宅地譲渡・地主経営（成岩村）」・「耕宅地譲渡・地主経営（岩滑村）」・「耕宅地譲渡・地主経営（乙川村）」・「地主経

第5表 半田倉庫出資者・出資額一覧

出 資 者	明治25年 出 資 額	明治32年 出 資 額
	円	円
小 栗 三 郎	1,700	4,800
中 埜 半 左 衛 門	1,700	4,800
中 埜 半 六	1,700	4,800
中 埜 又 左 衛 門	700	1,400
中 埜 純 平	700	1,400
中 埜 半 助	700	1,400
榊 原 孝 助	700	1,400
神 谷 楨 助	700	—
竹 内 彦 左 衛 門	700	—
小 栗 喜 助	700	—
合 計	10,000円	20,000円

出典 明治25年「半田倉庫合資会社契約書」（史料番号589）、
明治32年「半田倉庫合資会社定款」（史料番号590）。

営（諸村）」である。

この項目編成では、機械的に小作地の所在ごとに文書を集め、複数の村にまたがるものは地主経営（全体）という項目のもとに文書を当てはめたような印象を与えるかも知れない。しかし、この編成はそうした基準によるものではなく、中埜家の地主経営のあり方、そして文書管理・作成そのもののあり方に応じた編成である。同家の地主経営のあり方に少々立ち入らねばならないが、同家では無作意に土地を集積するのではなく、ほぼ定まった村において土地集積を行ったのである。これには経営上の一定の理由があった。すなわち、中埜家では一度土地を集積した村には「小作地世話人」「支配人」、明治になると「小作頭」と称するものを村を単位にとり立て、地主経営に当らせる形をとった。掟米（小作料と年貢）の徴収なども彼らが担当したわけである。また、彼らは小作地の買付けなどを行い、それを中埜家に転売することも行っていた。

しかも、支配人と呼ばれる者達は、その村の村役人であることも少なくない。そのため支配人は、掟米を小作人個々から徴収すると、そのなかから年貢分や諸掛に関する経費を差し引き、その上で残りを中埜家に遣わすという方法をとっている。村単位に示した帳簿のなかには、「年貢目録并小作掟米帳」といった帳簿も見えるが、まさにこれがそうした帳簿である。また、「掟米取立帳」といった帳簿が見えるが、これも支配人の手に掛かるものである。したがって、各村ごとにまとめた地主関係の帳簿の多くは、支配人から中埜家に提出された帳簿である。もちろん、田畑の譲渡にかかわる文書には、支配人の名前などが見えないものも多いが、右の点からも予測されるように彼らの譲渡への関与も十分に推定されるのである。たとえば、乙川村では文化元・二年にかけて同村の百姓孫市が買い付けた田畑一町六反六畝歩余を、同二年の内に中埜家に金九〇両で転売している。村単位に地主経営に関する文書を分類編成したのは、こうした地主経営のあり方、それにもとづく文書形成のあり方に規定されてである。ちなみに、各村の支配人には、乙川村が伊藤兵九郎、成岩村が伊助、岩滑村が久助、下佐脇新田が深谷勘三郎、助二郎などといった人物の名が見えるが、支配人が必ずしも一村一人というわけではない。また支配人には支配人給が支給された。

ところで、村単位に中項目を立てると同時に「地主経営（全体）」という中項目も立てたが、ここに収めた史料は基本的に中埜家において作成された帳簿類である。小項目「田畑諸帳面書付」（文政一一年～天保一四年）は、各村の支配人などから提出された地主経営に関する書類を一年分ごとに折込帙で包む型をとる。まとめたのは中埜家であり、中埜家によってまとめられたことに注目して、分類編成においてもそれぞれ

の提出村に戻すことなく、全体にかかわるものとしてここに納めた。

「御年貢米目録帳」(文政四―一〇年)は、小作地全体の掟米と年貢米を差し引き勘定したものであり、「田畑掟米帳」(文化八年―文政一〇年)、「掟米収入帳」(明治一七―四三年)は村・小作人・耕地ごと記した掟米取立帳である。納米勘査帳(明治一五―二七年)は小作支配人からの掟米納入状況、掟米総計を示すものであり、「掟米勘査帳」(明治一八―四三年)は記載形式が掟米収入帳と近似しているが、勘査を目的とし、村ごとに収納額を集計する。「掟米出納帳」(明治一四―一九年)は村ごとに掟米の出入りを記した当座帳ともいべきものである。「掟米売却簿」・「売却米勘査帳」(明治八―三七年)は産地ごとの売却高を記す。

これらの帳簿は原則として中埜家によって作成されたものであり、先の支配人によって記された文書類とは発生主体が異なる。そして、帳簿記載が村を単位になされるのは、村単位に支配人をおく、地主経営の経営形態を反映するものといえる。

なお、村毎に記される掟米取立帳Ⅱ「田畑掟米帳」は、外見上まとまりのある一冊の帳簿であるが、帳簿の字体を確認すると書き手が村毎に異なることに気づく。これなどは、各村の支配人が提出した掟米帳を中埜家で編冊仕直したことが考えられる。また、外見上まとまりのある一冊と見える点からは、中埜家が支配人達に紙の規格や記載方法を細かく指揮していたことも考えられるのである。具体的な点に関しては、今後の検討課題としておきたい。

なお、中埜半左衛門家が取得した小作地は、中項目の見出しからも明らかのように半田村・成岩村・岩滑村・乙川村にその多くが存在したが、別に大項目を立てた下佐脇新田(三州宝飯郡)にも少なくない。地主経営に関する文書類もその大半は、これらの村に関するものである。しかし、様々な理由からこれ以外の土地も取得することもあった。小栗新田(三州幡豆郡)、前浜新田(三州碧海郡)、山方新田、大府村(知多郡)、日長村(知多郡)などに関する文書も一部見える。この中には小栗新田(愛知県西尾市小栗町)のように、新田開発に資金提供を行うことにより、毎年一定の比率で割り当て米を得ているケースもある。ちなみに、同新田は三河国幡豆郡の矢作川デルタ地帯に築かれた干拓新田の一つである。半田村からすると、知多湾を隔てた対岸となる。同新田の開発は、文政十一年(一八二八)半田村の小栗半七によってなされ、総反別五六町五反歩に及ぶ。開発中は西小柳新田外葭生場と呼び、開発後は西小柳新々田と呼んだが、天保六年(一八三五)に小栗新田と改められた。明治一

○年時の戸数一七戸。中埜家では小栗半七の開発事業に出資したわけである。「年内収支決算帳」によれば、中埜家は明治一四年まで同新田において権利を保持したと見られる。

なお、中埜家の明治七年段階の土地所持の規模を示すと第六表の通りである。また、同年の掟米収入・正徳米高、利息・定徳金高を示すと第七表のようになる。

第6-1表 中埜家所持地一覧

	半田村	岩滑村	乙川村	成岩村	下佐脇新田	小栗新田	合計
田 方	畝歩 35.27	畝歩 1197.11	畝歩 367.12	畝歩 273.18	畝歩 1144.20	畝歩 629.21	畝歩 3648.19
畑 方	6.18	20.23	5.00	95.02	522.22	444.08	1094.13
大縄場	971.05		406.10	406.25			1784.10
不毛地 (野)			122.00			42.24	164.24
扣 家	1ヶ所 9.10						9.10
扣 地	18.05	1ヶ所 4.01		8ヶ所 49.27	61.14		133.17
宅 地	22.26						22.26
	1064.01	1222.05	900.22	825.12	1728.26	1116.23	6857.29

出典 明治7年10月「戸籍帳中民産書載可致旨御達ニ付調査録」
(史料番号358)

6-2表 中埜家建物一覧

建 物 名	坪 数	建 物 名	坪 数
土 蔵	15坪	大 物 置	31.5坪
居 宅	54	店	7.5
部 屋	7	大 蔵	108
道 具 蔵	6	炭 蔵	108
米 蔵	10	店	45
物 置	10	釜	16

出典 同上。

七 下佐脇新田

下佐脇新田、あるいは下佐脇村新田と記される新田は、三河国宝飯郡下佐脇村（現、愛知県宝飯郡御津町）の地先、音羽川の河口部分の海浜地区に開かれた新田である。幕末期に、百姓軒数は一四軒余に及ぶ。中埜家文書に新田の成立や中埜家が取得するにいたった経緯に関する文書は少ないが、下佐脇村の海浜地区が浪の侵食によって荒地化した土地を起返す形をとって、村外地主が成立したようである。『御津町史』本文編によれば、

明和八年（一七七二）には、「浪欠之所」六反三畝二三步が起返えされてお
り、その地主は加茂郡中村の珉蔵であつたと推察している。さらに、寛政一〇年（一七九八）にも下佐脇村「浪欠之所」の起返によつて反別一
町四畝一步が新田地として蘇っている。しかし、その後文化四年（一八〇七）、珉蔵が碧海郡棚尾村文平から金四一〇両を借金するに際し新田を
抵当に入れたことが契機となり、土地は文平の手にわたった。さらに文化一一年には、文平の手から中埜半左衛門の手にわたったとする。

中埜家が取得した土地は、こうした下佐脇村が放置しておいた荒地を起返した箇所であるが、さらに中埜家では、従来耕地化されることがな
かったより海寄りの土地を新たに開発した。その結果は文政二年（一八一九）一〇月付けの検地帳「三河国宝飯郡下佐脇村新田検地帳」に結実
する。同検地帳によれば、検地を実施したのは、代官伊奈玄蕃であり、手代には泰純右衛門・野田順八・木村理右衛門の名前が見え、中埜半左
衛門も案内を勤めた。総反別は三町六反四畝四歩であり、見附田二町七反七畝歩、見附畑八反七畝四歩からなる。総高一三石二斗五升八合であ
り、名請人は、半左衛門一人である。

さらに中埜家では、文政六年（一八二三）、下佐脇村の浪欠「薄地之所」反別八反三畝五歩の起返を行った。中埜家が、下佐脇村に有した土地

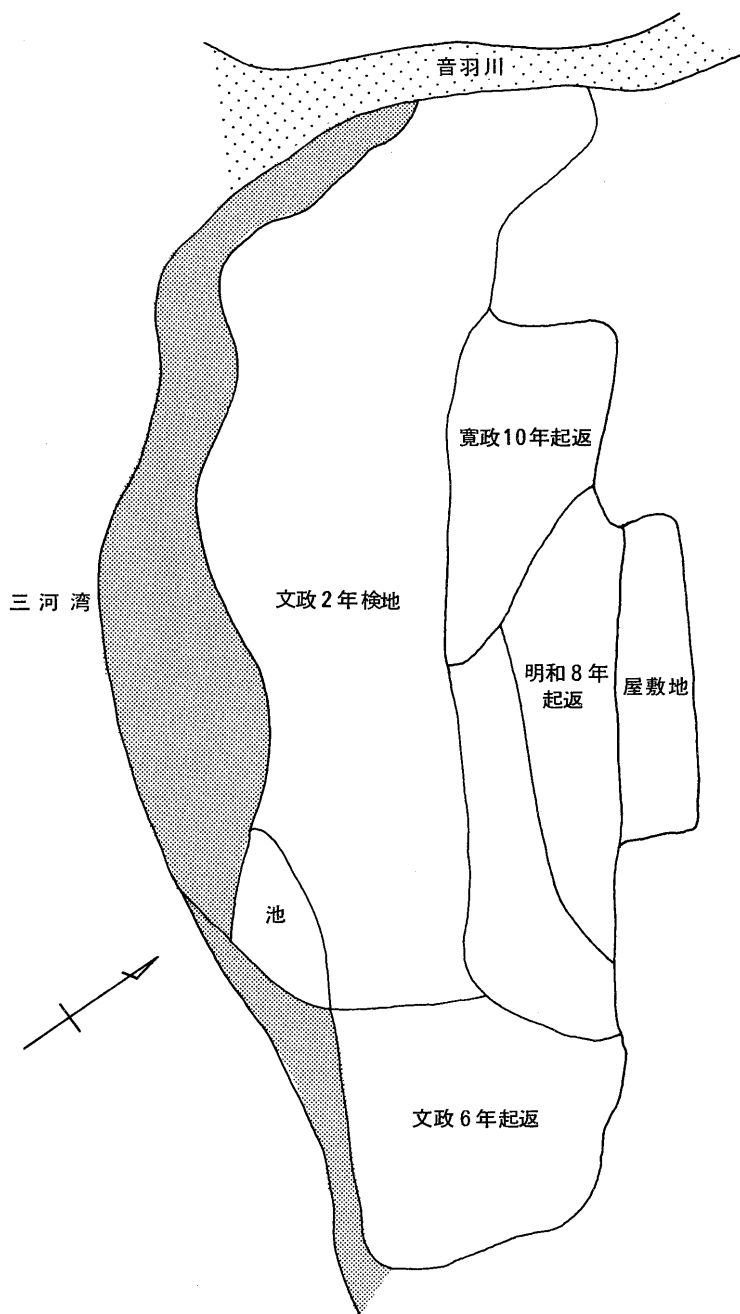
第7表 明治7年 年内勘定額一覧

村 名 等	掟 米	正 徳 米
半 田 村	石 4.382	石 0.736
岩 滑 村 本 郷	107.970	91.758
新 田	51.948	
乙 川 村	103.775	35.610
成 岩 村 本 田	5.702	62.322
新 開	47.484	
⊕	39.745	
小 栗 新 田	78.399	24.230
下佐脇新田村	4.170	28.818
新 田	94.325	
半 田 前 新 田	20.701	20.701
合 計	558.601	264.175
利 足 金 ・ 定 徳 金	金702円96銭	

出典 明治7年「年内勘定帳」（史料番号224）。

とは以上のようなもの、すなわち新田開発地と起返地であった。史料上では、この二つの土地を区別して、新田開発地を「半左衛門請」と呼び、起返地を「半左衛門分」としている。なお、下佐脇新田の耕地分布、開発状況の一端は下佐脇新田略図によって確認されたい。また、下佐脇新田の概況を知るために次に文政一一年の村明細帳を示しておく（史料番号八五四）。

下 佐 脇 新 田 略 図



出典『御津町史』本文編「図1-2 下佐脇新田の開発状況」（199頁）参照。

〔表紙〕

文政十一年

三州宝飯郡下佐脇村

村差出明細帳

新田

子九月

文政二卯年 御代官伊奈玄蕃様御檢地

一、高拾三石貳斗五升八合

三州宝飯郡下佐脇村新田

地主半左衛門請

此反別三町六反四畝四歩

内 訳

見附田高拾壹石八升

此反別貳町七反七畝歩

石盛四斗

見附畑高貳石壹斗七升八合

此反別八反七畝四歩

石盛貳斗五升

芝地真菰場

一、反別貳町九反三畝廿四步

内 訳

芝地反別壹町六反八畝廿四步

真菰場反別壹町貳反八畝步

メ永百拾貳文

一、御高札

是者伊奈玄蕃様御支配之節、御建被下置様奉願上候処、其節御免ニ相成申候

一、用水池 四ヶ所
長拾貳間より貳間迄
横六間より壹間半迄

一、用水通り堤伏越塚 三ヶ所
高八寸より壹尺迄
長三間より五間迄
横壹尺より壹尺貳寸迄

一、音羽川通川除堤 長百六間

此所川水落口之場所ニ而、出水之節甚難洪之所ニ御座候

一、悪水落込 壹ヶ所 長拾貳間 高三尺
横三尺

一、海辺附汐請堤 長四百四間

此所海面附之堤ニ而平生浪当至而嚴敷、難風之節者甚難洪之所ニ御座候

一、御本田悪水落し汐留込 壹ヶ所 長五間 高三尺
横六尺

是者御本田悪水落し汐留急用込ニて御普請所ニ御座候処、当時者新田地主自普請ニ仕候

一向宗

一、道場壹ヶ所

一、秋葉山燈明堂壹ヶ所

一、墓所 壹ヶ所

一、家数合 七軒

一、人数合 貳拾六人

此人数之内、男ハ農業之間に商ひ衆魚獵等仕、女者木綿糸取白木綿縞木綿を織渡世仕候
右之通相違無御座候、以上

文政十一子年九月

三州宝飯郡下佐脇村新田

地主 半左衛門

赤坂

御役所

〔表紙〕

文政十一年

三州宝飯郡下佐脇村地内

起返高明細帳

半左衛門分

子九月

└

三州宝飯郡下佐脇村

一、高式拾四石八斗四升六合

半左衛門分

此反別式町五反式拾九歩

内 訳

高拾五石七斗壹升五合

田方

此反別壹町六反壹畝拾七歩

高九石壹斗三升壹合

畑方

此反別八反九畝拾式歩

一、用水池 五ヶ所

長八間より三間迄
横四間三尺より壹間迄

一、用水通り堤伏越塚 壺ヶ所 長三間 高壺尺
横壺尺

一、同瓶塚 三ヶ所 長六間より四間三尺

一、悪水落し塚 壺ヶ所 長拾間 高壺尺貳寸
横壺尺五寸

一、海辺附汐請堤 長百九拾六間

此所海面付之場所にて平生浪当至而巖敷、殊更難風之節者甚難涉之所ニ御座候

一、津島午頭天王 壺社

是者新田村之氏神ニ而毎年六月十五日祭礼定日ニ御取、其節百姓共打寄致、神酒を捧、挑灯・燈明・太鼓・幟り杯を建神祭仕候
右之通り相違無御座候、以上

文政十一子年九月

三州宝飯郡下佐脇村

右起返地主

半左衛門

赤坂

御役所

次に下佐脇新田関係文書群の特徴などについて述べておく。

既述のごとく中埜家では文化一一年（一八一四）に下佐脇新田の土地を取得する。よって同文書群を構成する文書の大半は、文化一一年以降に成立したものであり、下限は大正五年（一九一六）六月、豊橋市大字萱の福屋藤太郎への新田売渡しに関する記録である。ただし、文化一一

年以前のものが全く見えないわけではない。たとえば、文化四年「浄土真宗宗門人別書上帳」（史料番号八五八）などもある。しかし、その差出人には、「下佐脇村地内琅蔵請新田地主琅蔵」と元地主の名前が見えており、中埜家が作成したものであるというわけではない。文内の名前の見えるものは確認できないが、地主の交替にかかわって村方の基本帳簿が引き継がれることもあったわけである。なお、右の宗門帳によれば、百姓数は五軒、いずれも無高であり、この段階で既に入植者はすべて小作人化していた。土地の異動は小作人をも含めた形で行われたわけである。

下佐脇新田関係の文書群も、中埜家の地主経営を通じて形成されたわけであるが、文書群の内容は先に見た半田村周辺村落に関するものとは一線を画する。すなわち、下佐脇新田の場合、通常庄屋文書と呼ばれる村方文書が文書群の中心をなし、検地帳をはじめ年貢免状、宗門人別帳、五人組帳などがかなりまとまって存在する。よって、中項目には領主、村、年貢・諸役、戸口、地租改正、中埜家、立本新田といった通常の村方文書群に相当する項目を立てることになった。

文書群が右のような構成をとることについては、同新田の村運営のあり方を追究することなくして解明は不可能である。また、その際には本村下佐脇村と下佐脇新田との関係にも注意が必要となろう。こうした追究により、個々の史料を文書群全体のなかで位置付けるための手がかりを得ることになるわけである。

右の点を具体的に示す史料は必ずしも見えないが、他の地主経営地と異なる点を考える上で重要なことは、次の三点がある。一つは下佐脇新田のすべての土地が、中埜家によって所持されている点、もう一点は幕府が享保改革期を境に本村名を冠した村請新田などであっても、年貢割付状や宗門人別帳などの基本帳簿を、本村とは別個に発給し、また徴したという点である。三点目は帳簿が別帳化していても小規模村請新田などでは、本村名主が新田分を管轄することが一般であったという点である。以上の点を踏まえて考えるならば、次のようなことがいえるまいか。すなわち、通常ならば、下佐脇新田は本村下佐脇村の庄屋が管轄すべきところだが、同新田は村外地主が一手に土地を掌握し、また、小作人が下佐脇村の者ではなく、新たに入植した者であったために、本村下佐脇村の新田としての性格が極めて希薄であったことが、まず考えられる。そして、帳簿も別帳化していたために、村方文書の多くは、その管理・作成とも新田側に負わされたのではないか。

よって「地主」である中埜家は、新田に小作人の代表（深谷勘三郎家）を置き、これを通じて管轄する方法をとったわけである。中埜家の下

佐脇新田に関する村方文書が存在するのはこうした理由からと考えたい。

次に下佐脇村、同新田の支配関係について述べておこう。下佐脇村は天文年間奥平九八郎領、その後水野備後守領、幕領などを経て、正保二年（一六四五）土井周防守領、天和元年（一六八二）松平和泉守領、元禄一三年（一七〇〇）板倉近江守領、宝永七年（一七一〇）松平丹後守領、享保三年（一七一八）幕領、明和七年（一七七〇）吉田藩領、さらに田沼氏領に替って、天保元年（一八三〇）より西尾藩領となった。いっぽう下佐脇新田の場合、少なくとも起返分は本村同様の支配関係にあったことも予測されるが、先に示した文政一年の村明細帳が、ともに赤坂御役所宛であることから明らかなように両所とも幕領であった。しかし、天保元年に本村同様西尾藩領へ編入となり、幕末を迎えた。

新田に入植した百姓がすべて小作人であったことは、先にも記したが、その数は次第に増加していった。その動向は第八表の通りである。

なお、中項目の一つに「立本新田」という項目を設けたが、この新田に関してはその所在地を確認することが出来なかった。また、下佐脇新田との関係についても曖昧である。にもかかわらず、ここに立本新田の項目を設けたのは、文政二年から一一年にかけてみられる立本新田の「御年貢米目録帳」に見られる人物名と、下佐脇新田の宗門人別帳に見える人物名の多くが一致するからである。立本新田が下佐脇新田の旧名ということもない。両新田は、同時期に併存するのである。また、先の「御年貢米目録帳」の作成は、中埜半左衛門名である。下佐脇新田周辺に別個の新田としてあったといえようか。詳細は今後の課題である。

〔付記〕本目録の作成、解題執筆は大友一雄がこれを担当した。作成にあたり現御当主中埜 宏（博之）氏御夫妻、および半田市立博物館館長 立松 宏氏には、ご多忙のところ御便宜を賜り、大変お世話になった。末筆ながらここに記し深甚の謝意を表したい。

第 8 表 下佐脇新田人口変遷表

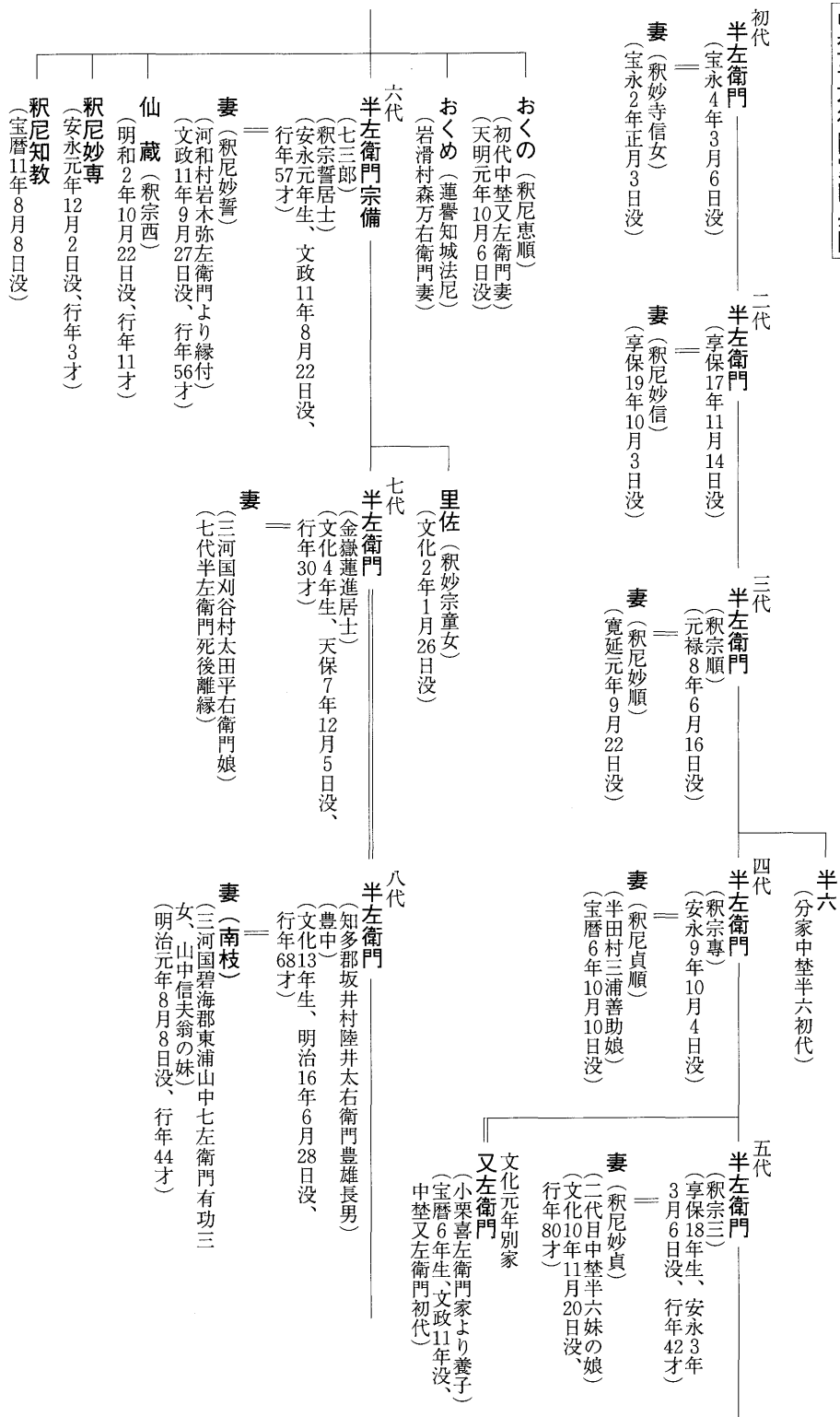
年 代	家 数	総人数	男	女
文化 4 年 (1807)	5	11	7	4
11 年 (1814)	6	22	11	11
文政 2 年 (1819)	6	26	—	—
11 年 (1828)	7	26	14	12
天保 2 年 (1831)	7	26	14	12
3 年 (1832)	7	27	14	13
4 年 (1833)	7	28	15	13
5 年 (1834)	8	28	15	13
6 年 (1835)	8	28	15	13
8 年 (1837)	8	29	15	14
9 年 (1838)	6	28	14	14
10 年 (1839)	7	30	14	16
11 年 (1840)	7	31	14	17
弘化元年 (1844)	8	38	15	23
2 年 (1845)	8	40	16	24
3 年 (1846)	8	40	17	23
4 年 (1847)	8	44	16	28
安政 5 年 (1858)	13	56	22	34
文久元年 (1861)	13	59	26	33
2 年 (1862)	14	62	28	34
3 年 (1863)	14	64	29	35
元治元年 (1864)	14	66	28	38
慶応元年 (1865)	14	68	30	38
明治元年 (1868)	14	78	36	42
2 年 (1869)	14	79	37	42
3 年 (1870)	14	79	37	42
4 年 (1871)	14	81	37	44

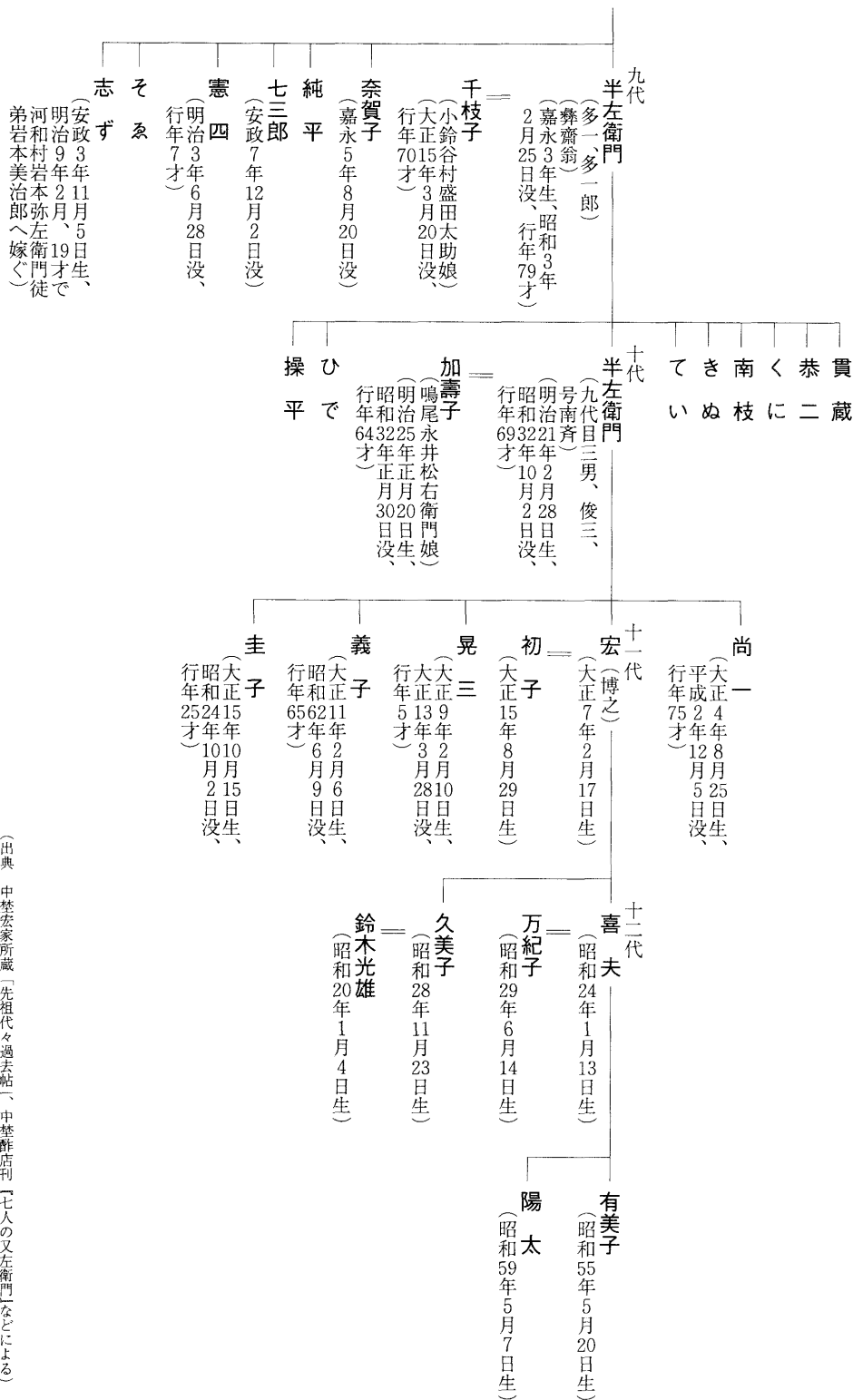
出典 中埜家文書、下佐脇新田宗門帳などによる。

《参考文献》

- ・『知田郡史』中巻（大正一二年刊、昭和四七年愛知県郷土資料刊行会によって復刻）
 - ・『半田町史』（大正一五年刊、昭和四八年名著出版によって復刻）
 - ・『半田市誌』本文篇（昭和四六年刊）
 - ・『半田市誌』資料編Ⅱ（昭和四四年刊）
 - ・『半田市誌』資料篇・村絵図集（昭和四九年刊）
 - ・『新修半田市誌』本文篇上・中・下巻（平成元年刊）
 - ・『半田市誌』資料篇Ⅴ近世Ⅰ（平成三年刊）
 - ・『御津町史』史料編上巻（昭和五九年刊）
 - ・『御津町史』本文編（平成二年刊）
 - ・林英夫著『在方木綿問屋の史的展開』（一九六五年、塙書房）
 - ・『七人の又左衛門』（一九八六年、株式会社中埜酢店）
- 《中埜半左衛門家文書を用いた研究》
- ・甲斐英男「幕末・明治期における一地主の小作地経営について―愛知県半田市中埜家の場合―」（広島大学『史学研究』六三号）。
 - ・中井信彦「商人地主の諸問題」（『明治維新と地主制』一九五六年、岩波書店）
 - ・林英夫著『在方木綿問屋の史的展開』（一九六五年、塙書房）

中惣半左衛門家略系図





(出典 中世宏家所蔵「先祖代々過去帖」、中世酢店刊「七人の又左衛門」などによる)

中埜又左衛門家略系図

小栗喜左衛門家より、半左衛門家に養子に入り、文化元年又左衛門家をたてる

初代

又左衛門

(宝暦6年生、文政11年没)

妻 おくの

(五代半左衛門の娘)
(宝暦10年生、天明元年没)

後妻 波

(七代盛田久左衛門三女)
(明和元年生、天保2年没)

二代

又左衛門

(八代盛田久左衛門の息、波の甥、角四郎・吉蔵とも)

(寛政3年生、万延元年没)

妻 岩

(野田弥五右衛門の娘)
(寛政6年生、文政10年没)

後妻 とう

(愛知郡下中村正賢寺の出)
(寛政9年生、明治17年没)

三代

又左衛門

(九代盛田久左衛門の息、小七)

(文化5年生、慶応3年没)

はつ

(文化10年生、明治8年没)

傳之助

(中埜半六家に養子に入り、八代半六となる)
(文政9年生、明治4年没)

四代

又左衛門

(小吉)
(四代盛田太助の息、十一代盛田久左衛門の養子を経る)

(安政元年生、明治28年没)

なみ

(中埜半六家より又左衛門家に養女に入る)
(安政4年生、昭和5年没)

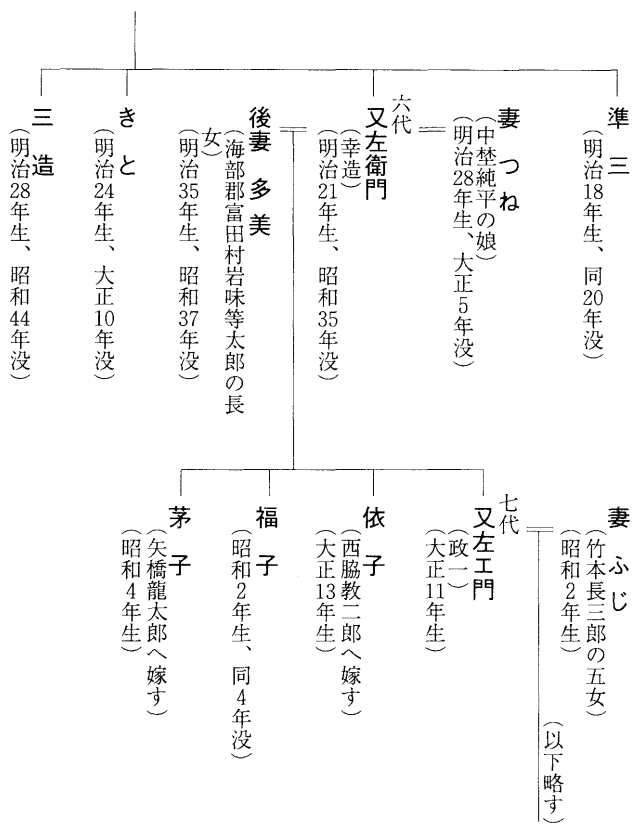
五代

又左衛門

(政助)
(元治元年生、大正8年没)

妻 とう

(四代盛田太助の孫)
(明治元年生、昭和11年没)



(出典 中埜酢店刊「七人の又左衛門」)

中塾半六家略系圖



中 埜 家 文 書 関 係 地 略 図

